

第七十五回 帝國議會院

所得稅法改正法  
律案外三十件 委員會議錄(速記)第二十回

昭和十五年三月九日(土曜日)午前十時四十  
四分開議  
出席委員左ノ如シ  
委員長 堀切善兵衛君  
理事小山倉之助君 理事濱野徹太郎君  
理事木村 浅七君 理事立川 平君

理事	河野
川崎	末五郎君
長野	長廣君
渡邊	玉三郎君
伊藤	五郎君
森	中君
肇君	
内藤	正剛君
川崎	克君
塚本	三君
石井	徳久次君
宮本	雄一郎君
森田	福市君

出席國務大臣左ノ如シ	大藏大臣	櫻内 幸雄君	武田徳三郎君	道家齊一郎君	永江 一夫君	田方 清臣君	瀧澤 七郎君
	北 勝太郎君	石坂 繁君	松永 義雄君	小見山七十五郎君	西川 貞一君		

出席政府委員左ノ如シ	陸軍大臣	海軍大臣	農林大臣	大藏政務次官	大藏參與官	大藏省主稅局長	大矢半次郎君
	吉田	吉田	島田	木村	松田	正一君	正義君
	善吾君	俊雄君	島田				

大藏書記官 田中 豊君	本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ	品ノ内國稅免除ニ關スル件(政府提出)
海軍主計中將 武井 大助君	所得稅法改正法律案(政府提出)	支那事變特別稅法及臨時租稅增徵法廢止法律案(政府提出)
海軍主計大佐 爲本 千田 金二君	物價局次長 新倉 利廣君	營業收益稅法廢止法律案(政府提出)
海軍大佐 千田 金二君	本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ	資本利子稅法廢止法律案(政府提出)
物價局次長 新倉 利廣君	所得稅法改正法律案(政府提出)	法人資本稅法廢止法律案(政府提出)
物價局次長 新倉 利廣君	法人稅法案(政府提出)	臨時租稅措置法中改正法律案(政府提出)
物價局次長 新倉 利廣君	特別法人稅法案(政府提出)	家屋稅法案(政府提出)
外貨債特別稅法案(政府提出)	所得稅法人稅內外地關涉法案(政府提出)	所得稅法人稅內外地關涉法案(政府提出)
外貨債特別稅法案(政府提出)	昭和十二年法律第九十四號中改正法律案(支那事變)爲從軍シタル軍人及軍屬ニ對スル租稅ノ減免、徵收猶豫等ニ關スル件(政府提出)	昭和十二年法律第九十四號中改正法律案(支那事變)爲從軍シタル軍人及軍屬ニ對スル租稅ノ減免、徵收猶豫等ニ關スル件(政府提出)
地租法中改正法律案(政府提出)	大正十三年法律第六號中改正法律案(國船舶ノ所得稅等免除ニ關スル件)(政府提出)	大正十三年法律第六號中改正法律案(外國船舶ノ所得稅等免除ニ關スル件)(政府提出)
酒稅法案(政府提出)	免除規定ノ改正ニ關スル法律案(政府提出)	免除規定ノ改正ニ關スル法律案(政府提出)
清涼飲料稅法中改正法律案(政府提出)	租稅法規ノ改正ニ伴フ恩給金庫法等ノ規定ノ整理ニ關スル法律案(政府提出)	租稅法規ノ改正ニ伴フ恩給金庫法等ノ規定ノ整理ニ關スル法律案(政府提出)
砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出)	アルコール製造事業等ニ對スル所得稅等ノ免除規定ノ改正ニ關スル法律案(政府提出)	アルコール製造事業等ニ對スル所得稅等ノ免除規定ノ改正ニ關スル法律案(政府提出)
織物消費稅法中改正法律案(政府提出)	○堀切委員長 ソレデハ開會致シマス――	○堀切委員長 ソレデハ開會致シマス――
揮發油稅法中改正法律案(政府提出)	河野君	○河野委員 大臣ガ御見エニナルマデ、細カイ點ヲ二三事務當局ニ御質問申上ゲマス、一番最初ニ甚ダ恐縮デスガ、吾々ノ所へ陳情ガ非常ニ來テ居リマスガ、陳情ヲ其ノ儘御取次ラスルト云フノハ、非常ニ不見識ダト存ジマスノデ、其ノ中デ吾々ノ見テ尤モダト思ハレル點ニ付テ、當局ノ御意見ヲニ伺猶法中改正法律案(政府提出)
物品稅法案(政府提出)	○河野委員 大臣ガ御見エニナルマデ、細カイ點ヲ二三事務當局ニ御質問申上ゲマス、一番最初ニ甚ダ恐縮デスガ、吾々ノ所へ陳情ガ非常ニ來テ居リマスガ、陳情ヲ其ノ儘御取次ラスルト云フノハ、非常ニ不見識ダト存ジマスノデ、其ノ中デ吾々ノ見テ尤モダト思ハレル點ニ付テ、當局ノ御意見ヲニ伺猶法中改正法律案(政府提出)	○河野委員 大臣ガ御見エニナルマデ、細カイ點ヲ二三事務當局ニ御質問申上ゲマス、一番最初ニ甚ダ恐縮デスガ、吾々ノ所へ陳情ガ非常ニ來テ居リマスガ、陳情ヲ其ノ儘御取次ラスルト云フノハ、非常ニ不見識ダト存ジマスノデ、其ノ中デ吾々ノ見テ尤モダト思ハレル點ニ付テ、當局ノ御意見ヲニ伺猶法中改正法律案(政府提出)
入場稅法案(政府提出)	○河野委員 大臣ガ御見エニナルマデ、細カイ點ヲ二三事務當局ニ御質問申上ゲマス、一番最初ニ甚ダ恐縮デスガ、吾々ノ所へ陳情ガ非常ニ來テ居リマスガ、陳情ヲ其ノ儘御取次ラスルト云フノハ、非常ニ不見識ダト存ジマスノデ、其ノ中デ吾々ノ見テ尤モダト思ハレル點ニ付テ、當局ノ御意見ヲニ伺猶法中改正法律案(政府提出)	○河野委員 大臣ガ御見エニナルマデ、細カイ點ヲ二三事務當局ニ御質問申上ゲマス、一番最初ニ甚ダ恐縮デスガ、吾々ノ所へ陳情ガ非常ニ來テ居リマスガ、陳情ヲ其ノ儘御取次ラスルト云フノハ、非常ニ不見識ダト存ジマスノデ、其ノ中デ吾々ノ見テ尤モダト思ハレル點ニ付テ、當局ノ御意見ヲニ伺猶法中改正法律案(政府提出)
印紙稅法中改正法律案(政府提出)	○河野委員 大臣ガ御見エニナルマデ、細カイ點ヲ御引キニナルト云フノモ、同ジヤウナ御趣旨デゴザイマスカ	○河野委員 大矢政府委員 ソレハ經費ト見ルト云フ
骨牌稅法中改正法律案(政府提出)	ノト少シ違ヒマシテ、配當利子ノ中高率ノモノハ相當負擔力ガアルト云フノデ、特別ニ課稅シテ居ル、其ノ殘りガ先ヅ「ノーマル」ナ所得デアル、斯ウ云フ風ニ見タ方ガ適當デハナカラウカト存ジタ次第デアリマス	ノト少シ違ヒマシテ、配當利子ノ中高率ノモノハ相當負擔力ガアルト云フノモ、同ジヤウナ御趣旨デゴザイマスカ
狩獵法中改正法律案(政府提出)	リト云フモノニ付テハ從來ノヤリ方トハ何デアリマス、是ハ既ニ多クノ方々カラ十分	○田中政府委員 支出モ重複致サナイト思ツテ居リマス、何時稅金ヲ拂フカト云フコトニ付テハ、今度ノ改正ハ別ニ關係ナインリマセウ
明治四十四年法律第四十五號中改正法律案(砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收ニ關スル件)(政府提出)	本正九年法律第五十一號中改正法律案	ガ、法人稅ヲ損金ニ認メナイト云フ所カラ、レマセヌ、ソレカラ配當所得ノ二割控除ヲモ多クノ方々カラ御質問ガアリマシタカラ、私ハ觸レヨウトハ存ジマセヌ、唯此ノ際一ツ伺ツテ置キタインハ、法人稅、臨時利得稅以外ノ稅金ハ、是ハ損金ニ御認ヌナルト云フ法文デアリマス、是ハ法人稅以外ノ稅金ヲ損金ニ認メナイト、餘リニ負擔ガ過重ニナルト云フ御趣旨デアラウト存ジマスガ、其ノ點ハ如何デセウカ



ハ、從來源泉ニ於テ比例税デ課税シテ居タ  
ノニ、一舉ニ綜合スルノハ急激ナル負擔ノ  
變動ニナリマスカラ、過渡期ニ於キマシテ  
ハ、相當期間之ニ對シテ、緩和ノ制度ヲ設ク  
ル必要ガアルト存ジテ居ルノデアリマスガ、  
株式ニ付キマジテハ、四割控除ハ施行以來  
隨分長クナルノデアリマシテ、數年前二割  
控除ニ收メタノデアリマスガ、今日ト致シ  
マシテハ、寧ロ二割控除ヲ撤廢シテ、一方  
ニ於テハ借入金ノ利子ハ經費ニ見ルト云フ  
風ニシタ方ガ、株式取得者ノ負擔力ニ應ズ  
ル趣旨デハナカラウカト考ヘルノデアリマ  
シテ、經過的ニ見マシテモ、株式ノ所得ニ  
對シテ從來モ四割控除、二割控除ト云フ制  
度モアツタノデゴザイマスカラ、此ノ際公  
社債、預金ノ利子ニ對シテ四割控除ヲ存置  
スルノハ適當デアル、此ノ公社債、銀行預金  
ニ四割控除ヲ存置シテ置ク以上ハ、其ノ均  
衡上株式所得ニ對シマシテモ、從來ノヤウ  
ニ二割控除ヲ存置シナケレバナラヌト  
云フ風ニ考ヘナイデ宜クハナカラウカト思  
ヒマス

ソレカラ更ニ陳情ノ中デ、一二三御耳ニ入テ置キタインハ入場稅ノ問題ニ付テデアリマス、是ハ全國ノ撞球業者カラ非常ナ陳情ニ照ラシテ、据置ト云フコトニ多少ノ理由ガアルト存ジマスガ、此ノ點ハ如何デセウカ

○大矢政府委員 前ノ株式配當二割控除撤廢ノコトニ付テハ、大體ハモウ何遍モ繰返サレマシタカラ餘リ附加ヘルコトハナイト思ヒマス、唯此ノ預金利子等ノ四割控除ガ、更ニ源泉課稅ヲモ認メルヤウニナツタフト對應シテ、株式配當一割控除撤廢ニ付テモ、或ル控除ヲ考慮スル必要ガアルノデハナカラウカト云フノハ、新シイ御意見カト存ジマスカラ、其ノ點ニ付テ一應申上ゲテ置キタイト思ヒマス、是ハ株式配當ハ從來二割控除デアリマシタガ、之ヲ撤廢シテ、ソレダケノ負擔増ニハナリマスルガ、一方ニ於テ社債、銀行預金ニ付キマシテハ、源泉選擇シタ場合ニ於キマシテモ度々申上ゲテ居リマス通り、國債ニ付テハ三倍以上ノ負擔ニナル、ソレカラ社債、銀行預金等ニ付キマシテモ二倍以上ノ負擔ニナルト云フノデ、隨分源泉選擇シタ場合ノ負擔ノ激増ガ起ツテ來ルノデアリマシテ、其ノ點ヲ考ヘマスト、借入金ノナイ株式ニ付キマシテハ二割ト存ジテ居リマス、ソレカラ入場稅ノ玉突ニ付テデゴザイマスガ、營業者ノ狀態カラ見テ、寧ロ稅率ハ据置キノ方ガ宜イデハナカト來スト云フ虞レハナイノデハナカラウカト存ジテ居リマス、ソレカラ入場稅ノ玉突ニ付テデゴザイマスガ、營業者ノ狀態カラ見テ、寧ロ稅率ハ据置キノ方ガ宜イデハナカト來スト云フ御意見デアリマスルガ、稅ノ建前ト致シマシテ營業者カラ徵收スルノデ

ハナクテ、玉突ニ來ル者ニ負擔シテ貰フト  
云フノデゴザイマスノデ、他ノ是等ノ類似  
モノノ税率ガ引上ゲラレル場合、ヤハリ  
玉突ニ付キマシテモ、此ノ程度ノ増税ハ已  
ムヲ得ナイコトカト存ジテ居リマス

○河野委員 其ノ次ニハ遊興飲食税デ盛ニ  
參リマスノハ、所謂此ノ特殊飲食店ノ問題  
デス、是ハ此ノ委員會デ度々論議サレマシ  
テ、私ハ附加ヘルコトハ何モゴザイマセヌ  
ガ、唯其ノ特殊飲食店ト普通飲食店トノ限  
界ガ極メテ不明確デ、是ハ警視廳デ私ハ聽  
イテ見タノデアリマスガ、警視廳ニ於キマ  
シテモ、特殊飲食店ナリヤ普通飲食店ナリ  
ヤト云フコトヲ區別スルコトハ困難デアル、  
斯ウ云フコトヲ言ツテ居リマス、ソコデ此  
ノ特殊飲食店ト普通飲食店トノ區別ヲスル  
コト困難ナ場合ニ、是ガ果シテ圓満ニ遂行  
サレルカト云フ點ニ付キマシテ疑フ持ツノ  
デアリマス、一率ニ御定メニナツタラドウ  
カト云フ點ガ一ツト、東京若クハ大阪ノヤ  
ウニ歡興稅ヲ徵收シテ居ル所デハ、歡興稅  
ヲ徵收シテ居ル所デ徵收スル方針ニ從ツテ、  
此ノ點ヲ御取扱ニナツタラ如何カト云フノ  
ガ一ツデアリマス、ソレカラ現在東京デ歡  
興稅ヲ取ツテ居ルノハ、十人以上ノ者ヲ使  
ツテ居ル所ダト云フノデアリマスガ、分類  
所得稅ニ於テモ十人以下ヲ使用スル所デ、  
色々働イテ居ル者ハ、從來醫師、辯護士ト云  
フモノハ營業者ト見ナイト云フヤウナ御見  
解ノヤウデアリマスガ、サウ云フノト考ヘ併  
セテ、一定ノ人數以上ノ所トカト云フヤウ  
ナ點ヲ御設ケニナツタ方ガ、ハツキ里斯ル  
ノデハナカラウカ、斯ウ云フ點モ併セテ御  
伺致シマス

「カフエー」等ニ關シテモ他ノ飲食店ト區分  
セズニ、一律ニ定メタラドウカト云フコト  
デアリマスガ、是ハドウシテモ區分スルヲ  
適當ト認ムルト云フコトハ、度々申上ゲテ  
置キマシタカラ、此際省略致シタイト存ジ  
マス、唯之ヲ特別ニ課稅スルコト致シマ  
シテ、東京等ニ於テ歡興稅トシテ課稅シテ  
居ルガ、其ノ方針ニ則ツテ東京、大阪  
等ニ施行シタラドウカト云フコトデゴ  
ザイマスガ、ドウモ國稅トシテ施行スル場  
合ニ、地域ヲ限ツテ特別ナ扱ヒヲスル  
ト云フコトハ、不適當カト存ジマス、  
ヤハリ全國一定ノ方針ニ則ツテ、同ジヤウ  
ニ致スノヲ適當トスルノデハナカラウカト  
存ジマス

ソレカラ分類所得稅ニ於キマシテ、個人  
ノ場合ニハ當時十人ニ達シナイ使用人等ヲ  
使ツテ居ル場合ニハ、俸給者ト見ナイト云  
フ仰セデゴザイマスケレドモ、是ハ俸給者  
ト見ナイ譯デハナインデアリマシテ、俸給  
所得者ニハ違ヒハナイケレドモ、源泉徴課  
稅スルコトハ致サナイ、小サイ個人雇傭主  
ニマデモ一々源泉徵收ノ手續ヲサセルトイ  
フノハ、實行上ドウカト思ヒマシテ、源泉徵  
收ハシナイガ、併シ俸給所得者ニ達ヒナイ  
カラシテ、乙種ノ勤勞所得者トシテ課稅ス  
ルノデアリマス、是ト「カフエー」等ニ於テ  
從業者ノ頭數デ分界點ヲ定メルノトハ、少  
シ趣キガ達フノデアリマスガ、唯實際問題  
等ヲ見マスト、何カソコニ一定ノ區分ノ標  
準ヲ立テ置イタ方ガ適當ト存ジマシテ、  
色々資料ヲ蒐集シテ居リマスガ、仰セノ通

リ大體婦女子ノ員數ニ依ツテ決メル、何人以下ノモノハ普通ノ飲食店ト同ジク免稅點三圓ト云フ風ニスル、一定數以上ノ婦女子ヲ使用シテ居ル場合ニ於テ、ソレヲ免稅點ナシニ課稅スル、斯ウ云フ風ニ扱ツタ方ガ實情ニ合ツテ、課稅上モ疑義ガナクナルノデハナカラウカト思ツテ居リマス、其ノ員數ヲドレ程デ區分スルカト云フコトハ、今少シ考究シタイト思ツテ居リマス

○河野委員 今主税局長ノ御話ニナリマシ  
タ點ハ、初メテ今日サウ云フ御考ヲ御述ニナツタノグラウト思ヒマシタガ、昨日大體三人程度ヲ限界點ニシタラドウカト思ツテ居ガ、尙ホ考究シタイト云フコトヲ申上げテ置キマシタ

○河野委員 私が先刻歡興稅ト申上げタノハ、別ニ地域ヲ限ツテ申上げタノデハナク、歡興稅八十人ト云フ限界ガアルカラ、ソレニ則ツタラドウカ、警視廳ニ聞イテ見テモ、實際ニ區分スルコトハ困難ダト云フコトヲ言ツテ居リマスカラ、其ノ點ヲ申上げタノデアリマス、モウ一ツデ陳情ノ方ハ終リマスガ、モウ一つハ雜誌デアリマス、此ノ雜誌營業者ニ對スル營業稅ノ問題デ、同ジ新聞紙法ニ依ツテ三回以下ノモノト、四回以上ノモノトヲ區別シテ居ルト云フ點ニ付テ、此ノ間ノ御答辯デハ、大體納メル所ノ保證金ガ達フカラト云フヤウナ御答辯デアリマシタガ、是ダケデハドウモ少シク足ラナイマヌガ、何カ御意見ハアリマセヌカ

○田中政府委員 御尤モナ御話デゴザイマス、先日モ申シ述べマシタヤウニ「雑誌ノ出版業ヲ免稅ニスルコトハ、他ノ書籍其ノ他ノ出版業ヲ免稅致シテ居ナイノトノ權衡上不適當デアル、隨て今回ハ或ル程度ノ課稅ヲスル、斯ウ云フ建前ヲ執ツタト申上ゲタノデアリマスガ、唯其ノ限界點ノ切り方ニ依ツテ、發行回數が月四回以上デアルカ、否デアルカト云フコトデ切ルコトバ、不公平デハナイカト云フコトハ、御尤モナ點ガアルト思ヒマス、併シ純粹ノ日刊新聞ノミヲ除外致シマスカ、或ハ何處デ限界ヲ切ルカト云フヤウナ點ニ付キマシテハ、御承知ノヤウニ日刊ノ新聞ガアリ、數日ニ一回出スノガアリ、旬刊ガアリ、體裁ト云フヤウナコトデハ中々區分ガ付キマセヌノデ、其ノ區分ニハ苦心致シタノデアリマスガ、一應ノ標準ト致シマシテハ、新聞紙法ニ依ツテ、「ニュース」ヲ多ク扱フモノトシテ保證金ヲ多く納メルヤウナ仕組ニ致シテ居ルモノト、サウデハナクテ保證金ヲ少クテ濟マスモノトノ限界ハ、新聞紙法ニ於キマシテモ、發行回數ガ月四回以上デアルカ否カニ依ツテ決メテ居リマス、是ハ片方ノ月四回以上發行政致シマスモノハ保證金ガ全額デアリマスガ、三回以下發行ノモノハ半額ニ致シテ居リマス點ハ、四回以上發行スルモノハ、「ニュース」ヲ扱フコトガ多イト云フヤウナ趣旨カラ、サウ云フコトニ相成ツテ居ルト考ヘマシテ、一應其處ニ限界ヲ求メタ譯デアリマス、其ノ間ニ多少ノ不公平ガアルト云フコトハ、御説ノ通りダト思ヒマスガ、何處カデ之ヲ切レマスレバ、多少ノ不公平ガ其處ニ出テ來ルト云フコトハ、ドウシテモ免レナイ現象ダト考ヘテ居リマス。

○河野委員 ゾレハ新聞型ノモノト雑誌型ノモノトデ區別ニナツタラ、極メテ明白デハナイカト思フノデス、其ノ方ガ寧ロ私ハ公平ニナルト考ヘマスガ、御考慮ヲ願ツテ置キマス、大體以上私ノ所ニ參リマシタ各方面カラノ意見ノ主ナル點、自身ガ比較的シク私自身ノ質問ヲ申上ゲタイト思ヒマス理窟アリト考ヘタ點ヲ申上ゲマシテ、政府ノ御考慮ヲ願ツタ譯デアリマスガ、以下少シク第一番ガ勤勞所得ノ免稅點ノ問題デアリ第一番ガ勤勞所得ノ免稅點ノ免稅點ニ於テハ、大體見モ伺ツタノデアリマスガ、私ハ別ノ觀點ナカト云フコトハ、此ノ間カラ屢々此處デ議論ガ出マシタ、ソレニ付テ色々ナ御意見モ伺ツタノデアリマスガ、私ハ別ノ觀點カラ御尋シテ見タイトフノデアリマス、先般大藏大臣ガ此ノ席上デ御話ニナリマシタ中ニ、次ノ増稅ヲスル場合ニ於テハ、大體分類所得稅ノ稅率ヲ動カシテ增稅ヲスル積リダ、併シ其ノ場合ニ綜合所得稅法ノ稅率モ考ヘナケレバナラヌトハ思フガ、ト云フヤウナ意味ノコトガアツタノデアリマス、分類所得稅ノ稅率ヲ動カシテ增稅ヲ考ヘルト言フナラバ現在ノ分類所得稅ノ稅率ト云フモノニ、マダ相當ノ餘裕ガアルト云フヤウニ考ヘナケレバナラヌノデアリマスルガ、現在ノ免稅點ノ點カラ考へ、ソレカラ其ノ稅率ノ點カラ考ヘテ、私達ハサウ將來ノ增稅ヲ、此ノ方面ニ求メル餘裕ガアルヤウニ考ヘラレナイノデアリマスガ、其ノ點ハドウ御考ニナツテ居リマセウカ

ヲ、國民ニ願ハナケレバナラズ思フゾデアリマスルガ、併シ今回ノ改正ハ平時ノ稅負擔トシテハ相當重イ負擔デ、是以上更ニ漸次増微シテ差支ナイト云フ風ニハ考ヘテ居ナイオデアリマス、併シナガラ國際情勢ノ變化如何ニ依リマシテハ、何時ドウ云フコトニナルカモ知レナイ、サウ云フ場合ニ於キマシテハ極メテ短期ノ一年トカ、二年トカ云フ間ニ、更ニ又國民ニ大キナ負擔ヲ願ハナケレバナラズコトガアルカモ知レナイト思フノデアリマス、サウ云フ場合ニ於キマシテハ所得稅ニ於キマシテ、ヤハリ主トシテ分類所得稅ノ方面ニ於テ、增收ヲ得ナケレバナラナイコトカト存ジテ居リマス、併シナガラ此ノ度ノ改正案ニ於キマシテ、國民ノ負擔ハ可ナリ過重セラレテ居ルノデアリマスカラ、度々大臣カラ御答ガアリマシタ通り、ココ數年ノ間ノ經濟情勢、國際情勢ニ著シイ變動ノナイ限りハ、更ニ增稅シヨウト云フ考ハ持ツテ居リマセヌ

再び基礎控除ハシナイト云フ、ヨトガ書イテ  
アルノダト、私ハ承知致シマスガ、勤労所  
得ト事業所得トアル場合ニ、雙方カラ控除  
スルコトガ私ハ妥當デハナカラウカト思ヒ  
マスガ、如何デゴザイマセウカ、是ガ一  
ト、若シ事業所得ト勤労所得ト兩方持ツテ  
居ル者ハ、勤労所得ノ方カラ六百圓ヲ控除  
スルカラ事業所得ノ方カラハ基礎控除ヲシ  
ナ、斯ウ云フコトデアリマスルト、勤労  
所得ノ方ハ自分が取ツテ、事業所得ノ方ハ  
子供ノ名前ニスルトカ、細君ノ名前ニスルト  
カ云フヤウナ場合ニヘドウナルノデスカ、是ヘ  
個々人ニ付テ取ルノガ分類所得税ノ建前デア  
ル事關係上、控除ヲ認メザルヲ得ナイノデハナ  
イカ、サウスルト本當ニ一人ノ人ガ勤労所得ト  
事業所得ノ二ツヲ持ツテ居ル場合、勤労所  
得ダケシカ控除シナイ、一方細君ノ名前ニシ  
テ居ル場合ニハ、兩方カラ控除サレルト云  
フヤウナ不合理ノ結果ニナルノデハナカラ  
ウカ、斯ウ存ジマスガ、如何デセウカ  
○田中政府委員 御尤モダト存ジマス、併  
シ同ジク總體デ千圓ノ所得ガアリマシテモ、  
其ノ千圓ガ勤労所得ト事業所得ト二ツカラ  
成ツテ居レバ、六百圓ト四百圓ノ控除ヲ受ケ  
テ課税ヲ受ケナイ、併シ其ノ千圓ガ事業所得  
ナリ勤労所得ナリドチラカ一ツデアレバ、四  
百圓ナリ六百圓ノ控除ヲ受ケテ、六百圓若ク  
ハ四百圓ノ課税ヲ受ケル、斯ウ云フコトニ  
フ方ガ一層不合理デアルド思ヒマシテ、一  
人ノ所得ニ付キマシテハ、勤労所得ノ控除  
ヲ受ケレバ事業所得ノ控除ヲシナイ、斯ウ  
云フコトニ致シタノデアリマス、人ガ變レ

バ是ハ控除セザルヲ得ナイデヤナイカト云  
フ御話デアリマスガ、事業所得同志ニ於テ  
ハ、同一戸籍内ニアル同居家族ノ分ハ、合  
算致シマシテ總體トシテ四百圓ヲ控除致シ  
テ居リマス、唯勤勞所得ノ場合ニ於テハ、  
勤勞所得ダケハ別々ニ勤勞所得ト云フヤウ  
ナ特質ニ鑑ミマシテ、人ガ異ナル毎ニ引ク、  
斯ウ云フ建前ニ致シテ居リマス、多少其ノ  
間ニ御話ノヤウナ理論的ノ問題ハアリマス  
ガ、御承知ノ通り分類所得稅方所得稅トハ  
申シナガラ、物稅的ノ色彩ヲ持ツテ居ル、  
ソコニ所得稅ノ良イ所ヲ出來ルダケ探入レ  
タ、左様チ趣旨カラ、只今御指摘ノヤウチ  
問題モアリマスガ、又私ガ申シマシタヤウ  
ニ、所得ノ種類ガ多ケレバ、控除ヲ澤山受  
ケルト云フコトハ一層不合理デアルト思ヒ  
マシテ、此ノ程度ヲ取扱ヲ適當ト考ヘタ次  
第デアリマス

三半圓、四十圓、五十圓ト云フ月給ヲ取ツテ居リマスト、ソレヲ合算シテ六百圓ヲ控除シテソレ以上ニナルド、小額ノ者モ合セテ課税サレルコドニナル場合ガアリマスノデ、サウ云フヨトヲ考ヘマシテ勤勞所得ニ付キマシテハ、人ガ異ナル毎ニ基礎控除ヲスル、斯ウ云フ建前ヲ取ツテ居ル次第アリマス

○河野委員 サウスルト同一戸籍内ニアル人デアリマスト、事業所得ト勤勞所得ト別別ノ名前ニスレバ基礎控除額ガ多クチル、斯ウ云フ結果ニナリハシマセヌカ

○田中政府委員 唯單ニ名前ヲ變ヘタト云フコトデナシニ、實際ノ所有者ガ誰デアルカト云フコトデ判断ヲ致シマス

○堀切委員長 河野君、陸海軍大臣ハ午前中ハ難カシイヤウデスガ、午後ナラ何ド方綜合セテ出席スルサウデス

○河野委員 ソレデハ私ハ細カイ質問ヲ、モウ一二點デ終ツテ、アトハ陸海軍大臣ノ御出席ニナツタ時伺フコトニ致シマス——其ノ點ハ併シ私マダ疑問ガアルト思ヒマスノデ、御考慮ガ願ヒタイト思ヒマス、其ノ次ハ此ノ間是モ議論ニ出テ居ツタヤウデアリマスガ、個人ノ綜合所得稅ニ付テ、分類所得稅ヲ損金トシテ見ルノ必要ハナイカト云フ點デアリマス、私ハ此ノ點モ御考慮ノ餘地ガアルモノト考ヘマスガ、如何デセウカ

○田中政府委員 分類所得稅ヲ引キマシテ、其ノ殘額ヲ綜合所得トシテ課税スルノモ、一ツノヤリ方デアルカモ知レチイト思ヒマス、併シ例へバ營業稅デアルトカ、先程一寸御話ガ出テ居ツタヤウデゴザイマスガ、配當利子特別稅ト云ツタヤウナ特別稅デアルナラバ、之ヲ引キマシテ其ノ殘額ヲ所得ト見テ

課税ヲ致スト云フコトモ、一ツノ方法ニアリマスガ、同ジ所得稅トシマシテ分類所得稅、綜合所得稅ノニツニ、分ケテハ居リマスガ、兩方ヲ合セテ其ノ人ノ所得ニ對スル平衡ナル課稅ヲシタイ、斯様ヲ趣旨カラ申シマズレバ、所得ハ飽マデモ總額ニナリマシテ、ソレヲ一ハ分類所得稅トシテ取り、他ハ綜合所得稅トシテ取ル、斯ウ云フ建前ノ方ガヨリ合理的ダト信ジマス、殊ニ所得稅ニ於キマシテハ、サウヤル方ガ適當デアルト思ヒシテ、其ノ人ノ總體ノ所得ヲ捉ヘテ、其ノ課稅標準ノ下ニ分類所得稅ヲ課ケ、又一定條件ノ下ニ綜合所得稅ヲ課ケル、斯ウ云フ建前ヲ執ツテ、居ル譯デアリマス。

○河野委員 其ノ點ハ、法人ニ付テハ分類所得稅ハ是ハ當然差引イテ居リマスガ、法人ト個人トデ事情ニ違フコトモ能ク存ジテ居リマスケレドモ、稍、平衡ヲ缺クノデハナカラウカト存ジマス……

○田中政府委員 法人ノ場合ニ、法人ニ課稅リマス分類所得稅ヲ差引クト云フノハ、所得カラ差引クノデハナインデアリマシテ、法人稅カラ差引クコトハ御承知ノ通リデアリマス、是ハ負擔ガ一重ニナラナイヤウニ、其ノ間ノ調節ヲ圖ツテ稅カラ稅ヲ引クト云フ風ニ致シテ居ルノデアリマシテ、只今御說ノ個人ノ場合ト比較ニナルベキ問題デハナツタラドウデスカ

○河野委員 サウデシタラ、個人ノ場合ニ於キマシテモ、分類所得稅トシテ納メタ稅額ヲ、綜合所得稅ノ稅額ノ中カラ御引キニガソレデ適當カドウカト云フ問題ニ過ギナ

イト思ヒマス、分類所得税ノ税率ナリハ之ヲ引カナイ建前ノ  
合所得税ノ税率ナリハ之ヲ引カナイ建前ノ  
下ニ作ツテ居リマス、御話ノヤウニ綜合所  
得税ノ税率カラ、分類所得税ノ税率ヲ引クコト  
ニナレバ、負擔關係ガ又變ツテ來マスクカラ、  
ソレニ應ズルヤウナ兩者ノ税率ヲ盛ラナケ  
レバナラスト云フコトニ相成ルト存ジマス  
○河野委員 其ノ點ハ其ノ通りカト思ヒマ  
スガ、其處ニ分類所得税ト、綜合所得税ト  
ノ負擔ノ均衡カラ見テ、ヤハリ何カ超ニベ  
カラザル一ツノ問題ガ殘サレテ居ルト思フ  
ノデアリマス、必ズシモ引ケト云フ意味デ  
ハアリマセヌガ、此ノ點ハ何カ考ヘテ戴キ

所得稅ノ税率ヲ輕減致シテ居ルノデアリマスガ、其ノ反對ニ我國ニ於テ生ジタ所得ガ、外國ノ居住者ニ支拂ハレルト云フ場合ハ高クシテ居ル、斯ウ云フ御話デアリマス、是ハ屢々問題ニナリマシタヤウニ、綜合所得稅ナドノ課稅モ出來マセヌシ、サウシタ關係カラ、分類所得稅ニ於キマシテ、稅率ニ於テ百分ノ五バカリ内地ヨリモ高クナツテ居リマス、是ハ只今申上ゲタヤウナ綜合所得稅ノ課稅ガ出來ナイ、斯ウ云フ趣旨デアリマシテ、多少兩者ノ意味ガ違フト存ジマス、一寸比較ノ面ガ違フト思ヒマス

○河野委員 比較ノ面ノ違フコトハ御説ノ通リト思ヒマス、之ヲ率直ニ考ヘテ見ルト、

相當強化サレテ居リマス、資金調整法ノ  
用モアリマシテ、滿洲國或ハ支那方面ノ  
投資ニ付テモ、必要ノ限度ニ於テ致シテ  
ルト存ズルノデアリマス、一方ニ於テ是  
ノ方面ニ於ケル企業ト云フノハ、内地ノ  
業ト違ヒマシテ、相當危險率モ多イト思  
ノデアリマス、又滿洲國ニ於テモ多少稅  
負擔モアルコトデゴザイマスカラ、是等  
ノニ二重課稅ノ點モ多少考慮シナケレバナ、  
スト思フノデアリマス、サウ云フコトヲ  
ヘテ見マスト、日本内地ニ本店ヲ有スル  
ノデ外國デ企業シテ居ルモノニ付テハ、相  
率ヲ輕減スル必要ガアルト思フノデアリ  
ス、是ハ本店ガ滿洲國ニ在ツテ、内地ニ

居等企全トラ考モヤモヤ櫻全  
作分ノ收入ガ幾ラアルカ分ル勞働者ハ、日本中恐ラク一人モナイト思ヒマス、ソレ程日本ノ賃銀ノ支拂方法ハ複雜デアリマシテ、今月ハ幾ラアルガ、來月ハ幾ラアルカ、是モ恐ラク分ラナイ、之ヲ一體勤勞所得トシテ徵收ナサルニ付テハ、ドウ云フ方法ヲ執ラレルカ、今月ハ百圓ノ收入ガアル、來月モ百圓ノ收入ガアル、併シ一年ヲ通ジテ六百圓ニナルカ、或ハ五百圓位ニ止ルカト云フヤウナコトハ、勞働者ノ移動狀態カラ見テ分ラナイ、炭礦地方ニ於ケル勞働者ノ如キハ、今日一箇月ノ移動率ガ九十%近クデアリマス、千五百人ノ勞働者ヲ傭ツテ、千三百人位ノ勞働者ガ移動スルト云フヤウナ狀

○日中政府委員 其ノ調査ノ只今アリマス  
ス、調査ヲ新シクヤラナケレバ分リマセヌ  
○河野委員 其ノ點ハソレダケニシテ置キ  
マス、其ノ次ハ、外地ニ設立セラレタ法人、  
個人ノ事業ヨリ受ケマス所得ニ付テハ、輕  
減ノ方法方講ゼラレテ居リマスガ、外地ノ  
者ガ内地ノ法人カラ受ケル所得ニ對シテハ、  
重クスルト云フ法ノ建前ニナツテ居リマス、  
是ハドウ云フ御趣旨アリマスカ

云フ租稅ノ措置ガアルト、尙更ソレヲ促進スル結果ニナリハシナイカト考ヘマスガ、如何デスカ

○田中政府委員 少シ言葉ガ足リマセヌデ失禮致シマシタガ、外國ノ方ヲ輕減スルト申シマスノハ外地ハ含マナイノデアリマシテ、臨時措置法ノ第一條ノ五ノ本邦外ニ於ケル營業アリマシテ、支那、滿洲ハ御話ノヤウニ含ミマスガ、所謂外地ノ方ハ含ンデ居リマセヌ

○大矢政府委員 滿洲國、支那方面ノ企業ニ對シマシテ、法人稅ノ稅率ヲ多少輕減シテ居ル、是ハ資本ガ滿洲國、支那方面ニ逃避スルノヲ助長スルノデハナカラウカト云フ御意見ノヤウデアリマスガ、爲替管理モ

貿易ガ、十二億幾ラト云フヤウニアル、是別ニ金デサウ云フ方面ニ流レテ行クト云ノデハナクテ、物資トシテ、資材トシテ、レテ行ク、是モ大キナ資本ノ逃避デアリス、是モ却テ外地ニ於ケル企業ヲ促進スト云フ結果、資本ノサウ云フ形ニ於ケル逃避ヲ助長スルノデハナカラウカト考ヘラルノデアリマス、此ノ點ハ私ハ今度ハ聊考ヘ直サナケレバナラヌノデハナカラウト思ツテ、御質問ヲ申上ダ譯デアリマソレカラ前後致シマスルガ、勤勞所得者方面ニ於テハ、賃銀ノ支拂ガ御存ジノ、ウニ非常ニ複雑デアリマスカラ、自分ヂモ

モウ一ツ御尋シタインハ、先程伊ノ質問  
シタ勤労所得ト事業所得ト兩方持ツテ居ル  
場合ニ、其ノ兩方カラ基礎控除スルト、税  
額ノ減收ハドノ位ニナリマスカ、其ノ見込  
ガ出来テ居リマスカ

外地ニ設立サレル事業ヲ援助スル、斯ウ云  
フ意味デアリマスガ、今マデノ傾向ダト、  
外地ト言ツテモ滿洲ガ主デ、其ノ外支那デ  
アリマスガ、今寧ロサウ云フ所ニ資本ガ、  
逃避スルト言フト語弊ガアリマスガ、流レ

然支店ガ無イト云フモノニ付テハ、此ノ定ハ適用ガナノイデアリマシテ、内地ニル場合ノ税ノ負擔デアリマス

規  
居  
本  
云  
態云、斯ウ云フ場合ニ勤勞所得ト云フモノ  
ヲ一體ドウシテ徵收ナサルカ、今月八百圓  
取ツタガ來月ハドウナルカ分ラヌ、一年間  
通算シテ果シテ六百圓以上ニ達スルカドウ  
カト云フコトハ恐ラク分ラナイ、六百圓ニ

相當強化サレテ居リマス、資金調整法ノ作  
用モアリマシテ、満洲國或ハ支那方面ノ作  
投資ニ付テモ、必要ノ限度ニ於テ致シテ居  
ルト存ズルノデアリマス、一方ニ於テ是等  
ノ方面ニ於ケル企業ト云フノハ、内地ノ企  
業ト違ヒマシテ、相當危險率モ多イト思フ  
ノデアリマス、又満洲國ニ於テモ多少稅ノ  
負擔モアルコトデゴザイマスカラ、是等ト  
ノ二重課稅ノ點モ多少考慮シナケレバナラ  
ヌト思フノデアリマス、サウ云フコトヲ考  
ヘテ見マスト、日本内地ニ本店ヲ有スルモ  
ノデ外國デ企業シテ居ルモノニ付テハ、稅  
率ヲ輕減スル必要ガアルト思フノデアリマ  
ス、是ハ本店ガ満洲國ニ在ツテ、内地ニ全  
然支店ガ無イト云フモノニ付テハ、此ノ規  
定ハ適用ガナイノデアリマシテ、内地ニ本  
店ガ在ツテ満洲國、支那方面デ企業シテ居  
ル場合ノ稅ノ負擔デアリマス

○河野委員 資金調整法、爲替管理法ト云  
フモノノアルコトハ、其ノ通りデアリマス  
ガ、昨年度ノ貿易ニ於テモ圓「ブロック」内ノ  
貿易ガ、「十二億幾ラト云フヤウニアル、是ハ  
別ニ金デサウ云フ方面ニ流レテ行クト云フ  
ノデハナクテ、物資シテ、資材シテ流  
レテ行ク、是モ大キナ資本ノ逃避デアリマ  
ス、是モ却テ外地ニ於ケル企業ヲ促進スル  
ト云フ結果、資本ノサウ云フ形ニ於ケル逃  
避ラ助長スルノデハナカラウカト考ヘラレ  
ルノデアリマス、此ノ點ハ私ハ今度ハ聊カ  
考ヘ直サナケレバナラヌノデハナカラウカ  
ト思ツテ、御質問ヲ申上ダタ譯デアリマス  
ソレカラ前後致シマスルガ、勤勞所得ノ  
課稅ノ問題デ御尋シタインハ、現在ノ勤勞  
者方面ニ於テハ、質銀ノ支拂ガ御存ジノヤ  
ウニ非常ニ複雜デアリマスカラ、自分ヂ自

國中恐ラク一人モナイト思ヒマス、ソレ程  
ノ質銀ノ支拂方法ハ複雜デアリマシテ、  
ノデアリマス、一方ニ於テ是等  
モ恐ラク分ラナイ、之ヲ一體勤勞所得トシ  
日本ノ質銀ノ支拂方法ハ複雜デアリマシテ、  
ノデアリマス、一方ニ於テモ多少稅ノ  
負擔モアルコトデゴザイマスカラ、是等ト  
ノ二重課稅ノ點モ多少考慮シナケレバナラ  
ヌト思フノデアリマス、サウ云フコトヲ考  
ヘテ見マスト、日本内地ニ本店ヲ有スルモ  
ノデ外國デ企業シテ居ルモノニ付テハ、稅  
率ヲ輕減スル必要ガアルト思フノデアリマ  
ス、是ハ本店ガ満洲國ニ在ツテ、内地ニ全  
然支店ガ無イト云フモノニ付テハ、此ノ規  
定ハ適用ガナイノデアリマシテ、内地ニ本  
店ガ在ツテ満洲國、支那方面デ企業シテ居  
ル場合ノ稅ノ負擔デアリマス

○田中政府委員 御話ノ通り質銀労働者ナ  
ドニ於キマシテハ、質銀ノ支拂方法が非常  
ニ複雜デアリマス、計算ノ基礎ハ色々複雜  
デアリマシテモ、例へば例ヲ月ニ取ツテ申  
シマスレバ、其ノ月ノ所得ハ複雜ノ計算ノ  
下ニ、幾ラヽト云フコトハ決マルノデア  
リマシテ、月々拂フモノニ付キマシテハ、其  
ノ月ノ額ガ決マル、併シ御話ノヤウニ毎月  
推算ハ、本人ニモ分ラナイ場合ガ多イダ  
ラウト思セマス、勤勞所得ノ分類所得稅ニ

於キマシテハ「命令ノ定ムル所ニ依リ年六百圓ノ割合ニ依リ給與ノ支給期間ニ應ジテ算出シタル金額」云々ト云フコトガアリマシテ、此ノ基礎控除ノ問題ニ致シマシテモ、例ヘバ月額デ拂ハレテ居ルナラバ、毎月々々區切ツテ恰モ月稅ノ如クニ致シマシテ、年六百圓デアリマスカラ月ニ割レバ五十圓、其ノ五十圓ヲ差引イテ課稅ニナレバ其ノ月ハ課稅スル、獨身者等ノ場合ニ於テ所得ガ五十圓ニ達シナイ場合ニハ課稅シナイ、斯ウ云フ風ニ計算致シマス。

○河野委員 月五十五圓ハ分リマスガ、ソレナラバ年六百圓ニ達シナクテモ、其ノ場合ニ課稅サレテモ仕方ガナイ、斯ウ云フ御趣旨デスカ。

○田中政府委員 左様デゴザイマス。

○河野委員 併シソレハ私ハ非常ナ不合理デハナイカト思ヒマス、年六百圓ノ基礎控

除ヲスルト云フコトヲ法律ノ建前ニシテ置

イテ、而モ労働者ノヤウニ移動ヲスル者ニ

アツテハ月五千圓ノ割デ拂フ、假ニ年六百

圓拂ハナクテモ月五十圓ノ收入ガアルカラ

必ズ取ルト云フコトハ、非常ナ不合理デハ

ナイデセウカ。

○田中政府委員 年六百圓引クト申シマス

ノハ、概念的ニ申上ゲテ居ルノデアリマシ

テ、法律ノ規定デハ「甲種ノ勤勞所得ニ付テ

ハ命令ノ定ムル所ニ依リ年六百圓ノ割合ニ

依リ給與ノ支給期間ニ應ジテ算出シタル金

額ヲ控除スルトハ定メテ居ナイノデアリマ

スガ、大體ノ場合ハ必ズ六百圓控除スルヨ

トニナリマスガ、御話ノヤウナ、サウ云フ

極ク例外ノ場合モ生ズルモノト存ジマス

ガ、法律上ニハ其ノ場合違反シテ居ナイモ、

ノト思フノデアリマス。

○河野委員 法律ニ違反シナイト云フ問題

ヨリモ、法律ヲ事實ニ合致スルヤウニ作ル

ノガ、法律ソ前デナクテハナラヌト私ハ

思フ、サウ云フ事態ヲ考ヘテ、ソレニ違反

シナイ法律ヲ作ツタカラ、現ニ違反シナイ

ノハ宜イト云フヤウナ、サウ云フ議論ハ極

メテ詭辯デアツテ、ナサラヌ方ガ宜イト思

ヒマス、私ノ言フノハ實際ノ實情ガ、六百

圓ノ基礎控除ヲスルト云フ建前ニ於テ、言

フマデモナク此ノ分類所得稅ト云フモノハ

作ラレテ居ル、サウスルト勞働者ノ如ク擔

稅力ノナイ者ガ、本月ハ五十圓ノ收入ガア

ツタガ、來月ハ失業シテ五十圓ノ收入ガア

ルカナイカ分ラナイ、サウ云フモノハ五十

圓アツタ時ニハ取ルノダ、ナイ時ニハ取ラ

ナイノダカラト云フヤウナコトデ、サウ云

フ法律ヲ定メラレルト云フコトハ、私ハ大

體分類所得稅ヲ設ケラレル趣旨ニ反スル、

斯ウ思フノデスガ、如何デスカ

○田中政府委員 法律ニ六百圓トアルノニ

違反デハナイカト云フヤウニ、御質問ヲ伺

ツタカラ先程ノ御答ヲ致シタ譯デアリマス、

御説ノ點ハ御尤モダト思ヒマス、併シナガ

ラ分類所得稅ノ制度ヲ執リマシテ、而モド

ウシテモ他ノ色々ナ徵稅制度ノ全般ノ必要

カラ、茲ニ勤勞所得ニ付テハ、源泉課稅ヲ

致サナケレバナラナイト云フコトニナリマ

シテ、御話ノ通リ之ヲ一年ヲ通算致シマ

シテ、確實ニ六百圓ヲ引クト云フ制度ヲベ

フ「ケース」ガ多クナツテ來ル、隨テ課稅スペ

ラウト致シマスレバ、此ノ分類所得稅竝ニ

源泉課稅ト云フ方法ハ、ドウシテモ執り得

輕減シナケレバナラナイモノガ、輕減セズ

ノト思クコトガ多クナツテ來マシテ、殊ニ免

ナイト考ヘルノデアリマス。

○大矢政府委員 河野委員ノ御説モ一應御

尤モト存ジマスガ、現行法ノ下ニ於ケル課

稅ノ實際ノ狀況モ申上ゲテ、一ツ御判斷願

ヒタイト存ズルノデアリマス、河野サンノ

仰セノ通り勞働者等ハ、非常ニ移動ノ激シ

イモノデアリマスガ、是等ニ對シマシテ現

行ノ所得稅法ノ下ニ於テハ、ドウ云フ風ナ

課稅ニナツテ居ルカト言ヒマスト、其ノ年

ノ一月、三月新シク就職シタ者ニ對シマ

シテハ、豫算課稅ヲ致シテ居ルノデアリマ

ス、隨ヒマシテニ月、三月時分ニ就職シタ者

ハ宜イノデアリマスケレドモ、所得調査委

員會閉會後即チ六月以後就職シタ者ニ付キ

マシテハ、課稅ハ出來ナイ、斯ウ云フ狀況ニ

ナツテ居リマス、一面ニ於テ又所得調査委

員會閉會後七月、八月頃ニ辭メタ人ニ付キ

マシテハ、減損更訂ノ適用モ受ケナイ結果

ト致シマシテ其ノ年ニハ八箇月分ノ給料

適シテ居リマス、一年分ノ課稅ヲ

正案ノ方ガ餘程進歩シタモノデ、實際ノ擔

稅力ニモ適應スル課稅ニナルノデハナカラ

ウカト存ジマス、引續キ五年モ十年モ勤務

シテ居ル者ニ付キマシテハ、是ハ毎月五十

圓ヅシ差引カウガ、年ニ六百圓差引カウガ、

其ノ點ニハ何等變リハナイ、斯ウ云フコトハ

ニナルノデアリマス、大勢ヲ通觀シテ見ル

モ起リマス、是ハ五年、十年ト長ク勤メテ

居ル者ニ付キマシテハ、サウ云フコトハ起

リマセヌケレドモ、勞働者等ノ比較的移動

ノ激シイ者ニ於キマシテハ、非常ニサウ云

ト、今度ノ改正案ノ方ガ實情ニ適應スルモ

ノデアラウト、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リ

マス

○森委員 只今ノ問題ニ關聯シテ一寸御尋ニ、殊ニ炭礦地ハ出入ガ非常ニ多イ、是ハ否定スペカラザル事實デス、其ノ他ノ工場ニシテモ多數勞働者等ヲ雇入レテ居ル所デハ、出入ガ非常ニ頻繁アルト云フコトガ現状デアリマシテ、是ハドウシモ否定スルコトハ出來ナイ、今ノ御話ノヤウニスレバ政府ノ方デハ非常ニ樂ニ徵稅ガ出來ルヤウニナルガ、其ノ徵稅義務ヲ負ハサレテ居ル雇主、工場主ト云フ者ハ非常ナ手續ガ掛カル、月々ニ割當テ取ラナケレバナラヌ、家族ノ控除ガアル、サウ云フコトヲテ行クノハ餘程ノ手數デアリマス、サウンテ若シ其ノ徵稅ニ誤ガアツタ時ニハ、其ノ義務ハ工場主自ラ負擔シナケレバナラナイ、其處ニ非常ニ困難ナ事實ガアルノデスガ、其ノ點ハ政府ハ御認メニナリマスカ、之ニ對シテハ既ニ聞答ガアツタカモ知レマセヌガ、ドレ程ノ手當ヲサレルノデアルカ。

○大矢政府委員 鎌山等ノ多數ノ勞働者ヲ使用シテ居ル方面ニ於テハ、相當ノ手數力ト存ジマス、併シナガラ扶養家族ノ控除ノ規定モアルノデアリマシテ、此ノ點ヲ當初ニ於テ十分ニ調査致シテ置キマスレバ、課税ヲ受ケル者ハ鎌山ノ勞働者等ニ於テヘソ、リマス、度々問題ニナリマス生命保險料ノ控除ト云フコトモ致シ兼ネルト云フノハ、サウ云フ點ヲ考慮致シマシテ、出來ルダケ支拂者ニ對シテモ煩雜ナ手數ヲ御掛けシナイヤウニト存ジテ居ル結果デアリマス、尙

○森委員 只今ノ御説明ノヤウダト、机ノ上デハ如何ニモ簡単デ、豫メ控除家族ノ問題等ヲ調査シテ、チヤントソレヲ帳簿ニ記シテ置イテ、稅ヲ出テ行ク者カラ、其ノ割合デ金ヲ取ツテ行クト云フノデ非常ニ簡單ニ行ケルヤウデスガ、實際ニ御當リニナツタラバ、中々サウ簡單ニ行カナイ、ソコデ工場主ナドハ非常ニ困難ナ立場ニ立ツト思フノデスガ、別ニ何カ適當ノ方法ヲ考ヘラレル途ハアリマセヌカ

○大矢政府委員 ソレハ多數ノ使用人ヲ使傭シテ居ル方面ニ付キマシテハ、相當ノ手數ダラウト思フノデアリマス、隨ヒマシテ出来ルダケ取扱ノ簡捷ヲ期シタイト云フノガ趣旨デ、總テガ出來テ居ルノデアリマスガ、實行ニ當リマシテモ出來ルダケ狀況モ

○堀切委員長 河野君、海軍大臣ガ見エマシタ  
○河野委員 海軍大臣ニ御質問申上ゲマス、ソレハ日本ノ財政ノ見透シ、隨テ増税ノ前途ト云フモノガ、將來ノ軍事費ガドウナツテ行クカト云フコトガ、分ラナケレバ、是ハ幾ラ議論ヲシテモ架空ノ議論デアラウト存ズルノデアリマス、當委員會ニ於テモ開會以來財政ノ見透シト増税ノ前途如何ト云フコトニ付テ、屢々、大藏大臣ニ質問ガアツタノデアリマス、ソレニ對スルイノデアリマス、私ハサウ云フ風ニ月割デオヤリニナルノデアツタラ、一年ヲ通ジテ果シテ六百圓ノ基礎控除ガ出來ルカドウカ、是ハ分ラナイノデ、月々デヤルナラバ、サウ云フ月デ取ルモノニ對シテハ、命令ノ定ムル所ニ依ツテ一定ノ率ノ控除額ヲ増ス、斯ウ

○田中政府委員 勤勞所得者ノ實際ノ狀況ニ於キマシテハ、殆ド大部分ガ月支拂デアツテ、月額ニ依ツテ五十圓控除スルコトニナルト思フノデアリマス、其ノ中ノ幾分カガ御話ノヤウニ、或ル月ハ五十圓以上デ、或月ハソレ以下デアル、一年ヲ通ズレバ、百圓ノ控除額以下デアルト云フヤウナ場合ガアリ得ルニ過ギナインデアリマス、月割デ控除スル場合ニ於テハ、必ズ一定ノ率ヲ増スト云フコトニナリマスト、勤勞所得者ノ擔當部分ニ付テ增加シナケレバナラヌ、斯ウ云フ難點ガ出テ來ル、難點ト申シマスカ、兎ニ角六百圓ト云フ趣旨カラ離レテ來ル問題ガ出テ來ルト考ヘマス、極ク一部ノ御話ノヤウナ場合ノ爲ニ、月稅デヤル場合ニ於テ割増ラスト云フコトハ困難デアリマス、斯様ニ考ヘテ居リマス、

○河野委員 此ノ點ハ尙ホ意見ガアリマスガ、後ニ残シマシテ、海軍大臣ニ御質問申上ゲマス、ソレハ日本ノ財政ノ見透シ、隨テ増税ノ前途ト云フモノガ、將來ノ軍事費ガドウナツテ行クカト云フコトガ、分ラナケレバ、是ハ幾ラ議論ヲシテモ架空ノ議論デアラウト存ズルノデアリマス、當委員會ニ於テモ開會以來財政ノ見透シト増税ノ前途如何ト云フコトニ付テ、屢々、大藏大臣ニ質問ガアツタノデアリマス、ソレニ對スル大藏大臣ノ御答辯ハ、ココ數年間ノ我國ノ財政ノ見透シトシテハ、大體本年度程度ノ豫算ガ續クモノト考ヘテ居ル、併シ重大ナル國際上ノ變化ノ起ラザル限り、ココ數年間ハ増税ヲ致シナシ、斯ウ云フ風ニ答辯サレテ居ルノデアリマス、併シ私達ガ率直ニ考ヘテ見マスルノニ、大臣ハ御承知カドウカ存ジマセヌガ、昭和十二年度ニ馬場増税

○河野委員 ソレヲ伺ツテ非常ニハツキリ致シタノデアリマスガ、ソコデ其ノ次ニ御尋申上ゲタインハ、大體ココ數年間ハ本年度程度ノ豫算ガ續ク、斯ウ云フ風ニ考ヘテ、大藏大臣ハ増稅ヲシナイト仰シヤイマスケレドモ、吾々國民トシテハ増稅ヲシナイト行キ得ルトハ中々考へ得ラレナイ、或ハ物動計畫ノ延長ト睨ミ合セマシテ、何等カノ特殊ナル手段ヲ執ラナケレバ、此ノ豫算ノ消化ト云フコトハ、甚ダ難カシノデハナカラウカ、斯ウ云フ風ニ私達ハ考へテ居ルノデアリマス、ソレデ海軍大臣ト致シマシテハ、此ノ百億ノ豫算ガ大體續クモノト致シマシテ、之ヲ施行シテ行クニ付テハ、經濟上ニ於テ、或ハ政治上ニ於テ、何方特殊ナ對策ヲ必要トハ御考ニナツテ居ラナイカ、言ヒ換ヘルナラバ、櫻内大藏大臣ガ漫然トヤツテ行ケルト御考ニナルカドウカ、私ハ此ノ點ヲ卒直ニ御伺致シタイト存ズルノデアリマス

ノ他モ極力戰時體制ニ應ズルヤウニ「セーブ」致シマシテ、無駄ヲ省イテ、有效チ方  
面ニ振向ケルト云フヤウナコトニ付テハ、サウシテ此ノ非常時局ヲ乘切ル上ニ、遺憾  
ナイ方法ヲ講ジナケレバナラスト云フコトヲ考ヘテ居ルノデアリマス

スルカト云フコトガ、今日ハ餘程重大ナ問題也。題デヤナカラウカト思ヒマス、一國ノ將來ヲ決スベキ所謂政戰兩略ノ基準ヲ定メルニ當ツテ、日本ノ經濟力ヲ如何ニ判断シ、其ノ政戰兩略ノ基準ヲ財經政策トドウ睨ミ合シテ行クカト云フコトガ、將來ノ重大ナ問題アリ、國民自身モソレヲ心カラ聽キタ伊ト思ツテ居ル點ダト思ヒマス、勿論日本ノ經濟ノ實力ト云フモノハ、現在ノ機構ニ於テハ十分デアツテモ、其ノ機構ヲ變ヘルナラバ十四ニモ十五ニモナルモノト考ヘマスガ、其ノ機構ヲ改編シ、或ハ其ノ組織ヲ改メテ行ツテ、經濟ノ實力ヲ増シテ行ク爲ニハ、何年カノ期間ヲ要スルモノト思ヒマス、ソコニ私ハ政戰兩略ノ基準ヲ定メルニ當ツテ、經濟ノ實力ノ伸張度ヲドウ見ルカト云フコトガ、極メテ重要オ問題トナルグラウト思ヒマスガ、日本ノ經濟上ノ實力、其ノ伸張度ト云フモノヲ睨ミ合シテ、政戰兩略ノ基準ヲ立テナケレバナラスト云フ風ニ御考ニナツテ居リマスルカ、同時ニサウ致シマスルト、其ノ見透シノ下ニ於テ、大體本年度程度ノモノヲココ數年間、斯ウ云フ御考ト考ヘテモ宜シイカ、此ノ二點ヲ御伺シタイト思ヒマス

○ 堀切委員長 今ノ質問ハ經濟力ヲ大體ドウ睨ミ合シテ、日本ノ政戰兩略ノ基準ヲ定ムベキモノト御考ニナルカト云フ點ナノデス

○ 吉田國務大臣 經濟力ノ程度ト云フコトデゴザイマスガ、是ハ色々私共何時モ申シマスヤウニ、事變ノ遂行、要スルニ政戰兩略、是ハ始終睨ミ合シテ行カケレバナラヌ、斯ウ考ヘテ居リマス、併シ其ノ程度ノ置キ方デアリマシテ、今日事變ヲ遂行スル上ニ平時ノヤウナ考ヘ方デハイカヌ、極力戦時體制ニ應ズル考ヘ方ヲシテ、其ノ程度ヲ決メルベキダ、斯ウ云フ觀點カラ、平時トハ違ツテ居リマスガ、其ノ點カラ兩方睨ミ合シテ行クベキモノト考ヘテ居リマストハ、其ノ點デゴザイマシテ、政戰兩略ヲタノハ其ノ點デゴザイマシテ、能ク分リマシタ、河野委員 能ク分リマシタ、私が申上ゲ定メルニ當ツテハ、經濟力ノ限度ト申シテハ甚ダ變デアリマスガ、經濟實力ト云フモノト睨ミ合シテ、ソレヲ最高限ニ發揮スル組織ヲ執ツテ、ドレダケ發揮シ得ルカト云フコトヲ能ク睨ミ合シテ、政戰兩略ノ基準ヲ定メテ行ク、斯ウ云フコトガ私ハ今日ニ於ケル最も重要ナ點デハナカラウカト考ヘルノデアリマス、其ノ意味ニ於テ戰時體制ヲヨリ強化スルコトハ勿論デアリマスガ、戰時體制ヲ強化スルト同時ニ、政戰兩略ノ基準ヲ、財政經濟上ノ政策ト睨ミ合シテ行クト云フコトガ、緊切ナ問題テハナカラウカ、斯様ナ見地ニ於テ御質問申上ゲタノデアリマスガ、海軍大臣ノ極メテ率直ナル御答辯ヲ得マシテ、吾々ハ非常ニ感謝スルノカ、斯様ナ見地ニ於テ御質問申上ゲタノデス

ノ増税ハ増税ノ金額ニ付テハ私ニ異論ガアリマスルノデ、アトデ大藏大臣ト議論ヲシタイト存ジマスガ、平年度八億一千數百万圓、初年度六億四百万圓ト云、非常ナ大増税デアリマス、而モ先程來議論ヲ致シテ居リマシタヤウニ、月五十圓ヲ取ツテ居ル労働者モ、今度ハ稅金ガ課カル、月五十圓ト申シマスガ、今日ノ物價ノ程度ト睨ミ合シテ見ルナラバ、極メテ少額ナル所得者デアリマスガ、其ノ少額所得者アリマシテモ、五十圓ヲ超エル場合ニ於テハ、超ニタ額ニ對シテ一定ノ比率ヲ以テ稅金ヲ負擔シテ行ク、是ハ非常ニ戰時體制ノ促進ト考ヘテ居ルノデアリマス、然ルニ一方ニ於テハ增稅ノ點ニ於テ戰時體制ヲ極メテ強化シテ居ルニ拘リマセズ、一方ニ於テハ或ハ軍需產業ノ方面ニ於テ、或ハ時局産業ノ方面ニ於テ必ズシモ戰時體制強化サレタリトハ、吾々ハ考ヘルコトノ出來ナイコトヲ、遺憾トスルノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ、出來ルダケ軍部大臣ノ方面ヨリ要望セラレルコトガ、私ハ望マシイコトデアルト存ズルノデアリマス、先程來一錢一厘タリトモ無駄ニハシナイト云フ御話ガアリマシタガ、私ハソレハ此ノ時局下ニ於テ當然ト存ジマスガ、米内内閣ノ政綱トシテ居リマス國民生活ノ確保ノ問題ト聯關致シマシテ、國民生活ヲ確保ズルニ付テハ現在ノ時代ニ於テハ、或ル程度マデ此ノ時局産業、或ハ軍需方面ニ向ケラレテ居ルモノヲ申上ダマセヌ、別ニ今マテノモノヲ削レト

云フ趣旨デハ毛頭ゴザイマセヌ、今マテノ方面デハ、十必要ナモノヲ十五ト云フヤリマシタヤウニ、月五十圓ヲ取ツテ居ル労働者モ、サウ云フコトカラ闇取引ガ出テ來ルト云フヤウナコトヲ聞イテ居リマス、現ニ私ガ先日經驗ヲ致シマシタ所デハ、或ル軍需會社ノ人ガ、「ガソリン」ガ巷ニ拂底スルニ拘ラズ、「ガソリン」配給が餘計ニアルト云フノデ、ソレヲ使ヒ切レナカツタノデ、自動車ニ乘ツテ善光寺サンマデ御詣リニ行ツテ來タト云フコトヲ治々ト述べ、私ハ之ヲ聞イテ今日ノ物資ノ節約、戰時體制ノ強化ト云フ點ハ、此ノ方面ニ寧ロヤル必要ガアルノデハナカラウカト云フコトヲ、沁ミ沈ミト感ジタノデアリマスガ、此ノ點ニ付テ海軍大臣ノ御考ヲ承リタイト存ジマス○吉田國務大臣只今御述ニナリマシタヤウナ事例ハ、私ハ聞イテ居リマセヌケレドモ、併シ聞カナクトモサウ云フ方面ノコトハ、是ハ政府トシテモ注意ヲシ、又國民トシテモ自肅致シマシテ、サウ云フ不シグラナ事ノナイウニ、大イニ覺醒スベキダト云フ意味ニ於テハ、全然同感デアリマス

○船田委員 海軍大臣ガ居ラシヤイマスカラ、簡單ニ先刻ノ時局認識ノコトデ、關聯シテ質問ヲ御許シ願ヒマス

○堀切委員長 船田君  
午後一時四十七分開議

○吉田國務大臣 先程ノ數字ハ極ク概數ヲ付テ國際情勢ニ重大ナル變化ナキ限リト云フ其ゾ一ツノ假定ハ、目前ニ迫ツテ居ルノデナイカ、斯ウト思フノデアリマスガ、此ノ點ニ付テ海軍大臣ノ御所見竝ニ御所信考慮シマスト、海軍ノ相當大キナ御要求ハ、近イ將來ニ又アルノデハナカト云フヤウニ考ヘラレルノデアリマスガ、其ノ點ニ付テ國際情勢ニ重大ナル變化ナキ限リト云フ其ゾ一ツノ假定ハ、目前ニ迫ツテ居ルノデナイカ、斯ウト思フノデアリマスガ、此ノ點ニ付テ海軍大臣ノ御所見竝ニ御所信

○石坂委員 私ハ總理、大藏大臣、農林大臣ニ御尋致シタイノデアリマスガ、都合ニ依リ、先づ極メテ事務的ノ事カラ御尋致シテ見タイト思ヒマス、先づ第一ニ伺ヒタイト存ジマスノハ所得稅法案第十二條及ビ第三十條ノ、所謂必要ノ經費ト云フ點デアリマス、第十二條第一項第一號ニ「不動產所得テ、今海軍ノ軍備ハ、モウ他ノ機會ニモ申上げタヤウニ今計畫ヲ持ツテ居ル、尙ホ亞米利加ノ第三次「ヴィンソン」案ニ對スル態度ハ、既ニ豫算總會ニ於テ私ノ方カラ詳細ヲ申述べテ居ルノデアリマスカラ其ノ情勢ニ付テ、極メテ根本的ナ問題デアル財政ノ前途ニ付テ質問ガアリ、ソレニ關聯スル海軍當局トシテノ御見解ヲ御披瀝ニナツタノ依ツテハ將來豫算ニモ多少ノ變化ガアルト

河野委員ハ御分リニナツタ云フコトデアリマシタガ、實ハ私ハハツキリ分ラナイ、ソレデ率直ニ御伺シタイノデスガ、國際情勢ニ重大ナル變化ガナケレバ、先づ此ノ支那事變ノ推移ヲ見タ所デハ、ココ數年間ハ大キナ海軍費ガ又加ツテ來ルト云フコトハナカラウ、隨ア此ノ場合更ニ大キナ增稅ト云フコトハナカラウト云フ御話デアルノデアリマスガ、併シ私ガ申上げルマデモナク、日米關係ニ付テハ、既ニ通商條約ハ無條約ニナリマシタ、又亞米利加ニ於ケル海軍ノ對日感情モ好クナイト云フコトヲ伺ツテ居リマス、又歐羅巴ノ情勢ガドウ變化スルカ分ラヌ、而モ今大臣ノ仰シャツタ國際情勢ノ重大ナ變化ト云フコトガ、目前ニ迫リツツアルノデアリマス、サウ云フコトヲ考慮シマスト、海軍ノ相當大キナ御要求ハ、近イ將來ニ又アルノデハナカト云フヤウニ考ヘラレルノデアリマスガ、其ノ點ニ付テ國際情勢ニ重大ナル變化ナキ限リト云フ其ゾ一ツノ假定ハ、目前ニ迫ツテ居ルノデナイカ、斯ウト思フノデアリマスガ、此ノ點ニ付テ海軍大臣ノ御所見竝ニ御所信シテ、午後一時十五分ヨリ始メマス

○堀切委員長 ソレデハ午前中ハ是ダケニ此處ニハツキリ申上げ兼ネマスノデ、其ノ意味ニ於テ國際情勢ノ急激ナ變化ト云フコトヲ、概念的ニ申上げタダケデアリマス

付テハ必要ナル經費ト云フノハ、現行法モアルヤウデアリマス、尙ほ必要ノ經費ト云フコトニテ第三十條第一項ニハ「所得稅及臨時利得稅ハ前項第一號、第六號及第八號ノ必要ノ經費ニ之ヲ算入セズ」斯ウ云フ風ノ規定ニナツテ居ルヤウデアリマシテ、此ノ第十二條及び第三十條ノ必要ノ經費ト云フノハ、一體ドウ云フモノヲ指スノデアルカ、又其ノ認定ノ方法ニ付テハドウ云フ方法デヤラレル御積リデアルカト云フコトヲ、先ヅ御伺致シタインデアリマス。

○田中政府委員 所得稅法ノ御指摘ノヤウナ簡條ニ、必要ノ經費ト云フ言葉ガ出テ參リマスガ、此ノ必要ノ經費ト云フ言葉ハ、從來ノ所得稅ニモアリマシテ、御話ノヤウニ山林所得ニアリマスガ、ソレ以外ニモ營業デアルトカ、其ノ他ノ事業所得ト云フヤウナ場合ニ、皆必要經費ヲ控除シテ、アトノ殘額ヲ所得トスルコトニナツテ居リマシテ、今度ノ必要經費ト云フ言葉モ從來ト變リハナイノデアリマス、而シテ從來ハ施行勅令ニ依リマシテモ、必要ノ經費ハ種苗、蠶種、肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノモノノ飼養料、仕入品ノ原價、原材料品ノ代價、場所物件ノ修繕費、又ハ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料、其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノト云フヤウナ規定ガアリマシテ、此處デハ例示致シテ居ルニリマシテ、從來ヨリ慣熟シタ言葉デアリマス、必要ノ經費ト云フモノノ内容ハ決ツツタ經費、斯ウ云フヤウニ解釋致サレテ居リマシテ、從來ヨリ慣熟シタ言葉デアリマス、尙ほ必要ナル經費、所得ヲ得ルニ掛ケ居リマス、ソレカラ三十條ノ方デ所得稅ヲ算入シナイト云フコトヲ、三十條ノ第二

項目 所得稅及臨時所得稅ノ必要ノ經費ニ  
之ヲ算入セズ、斯ウ特ニ書キマシタ所以ハ、  
法人ニ於キマシテ、先日來問題ニナツテ居  
シテ居リマシタノア、今度損金ニシナイト  
云フコトデ法人ノ方ニ明記致シマシタノ  
デ、ソレニ伴ヒマシテ個人ニ付キマシテモ、  
同様ノ規定ヲ此處ニ設ケタト云フ趣旨ニ過  
ギナインデアリマス。

○石坂委員 能ク分リマシタ、尙ホ一點其  
ノコトニ付テ御伺致シマス、第三十條第一  
項第六號ノ山林ノ總收入カラ必要ノ經費ヲ  
控除スルト云フ、此ノ山林關係ノ必要ノ經  
費デアリマスガ、山林ヲ買ツタ代金ト云フ  
モノハ、其ノ必要ノ經費ノ中ニ入ルモノデ  
アリマセウカ

○田中政府委員 入リマス

○石坂委員 次ニ法案第七十五條ニ付テデ  
アリマスガ、是ハ所得稅ヲ輕減又ハ免除ス  
ルト云フ場合ノ規定ノヤウデアリマスガ、  
條文ヲ見マスト、「災害、失業其ノ他ノ事由  
ニ因リ著シク資力ヲ喪失シ納稅困難ト認  
ムルトキ」ト云フコトニナツテ居ルヤウデア  
リマス、ソコデ戴イテ居ル命令案ヲ見マシ  
テモ、其ノ他ノ事由ト云フコトガ書イテナ  
イノデアリマス、隨ヒマシテ、命令案ニ依  
ツテ見マシテモ、此ノ條文全體ガ現實ノ場  
合ニ、ドウ云フコトヲ指シテ居ラレルカト云  
フコトガハツキリ致シマセヌノデ、一體其  
ノ他ノ事由ト云フコトハドウ云フ場合ヲ豫  
想シテ居ラレルノカ、其ノ點フ伺ツテ見タ  
イノデアリマス

○田中政府委員 御尤モダト思ヒマス、法  
文ト致シマシテハ災害、失業ト云フノ例示  
的ニ舉ゲマシタノデスガ、法文ノ實際押ヘ

居リマス所ハ一著シク資力ヲ喪失シ絶種  
困難ト認ムルトキ「チノデゴザイマシテ、原  
因ハ茲ニ例示致シマシタ災害、失業ノ外、  
或ハ營業ニ失敗シテ廢業セナケレバナラヌ  
ト云ツタヤウナ場合トカ、サウ云フヤウナ  
事例ガ考ヘラレル程度デアリマシテ、大抵  
災害ノ中ニ多くハ入りハシナイカト考ヘテ  
居リマスガ、尙ホ場合ニ依ツテハ、ドウ云  
フ「ケース」ガアルカ分リマセヌノデ「其ノ  
他ノ事由ニ因リ」ト云フコトヲ入レマシタ  
ガ、押ヘル所ハ資力ヲ喪失シテ、納稅困難ト  
認ムルヤウニナツタ場合ニハト云フヤウニ  
解釋致シテ居リマス

省略致シタ譯デアリマス、其ノ命令デ記載  
スペキ事項ハ、現行法ノ五十五條ニ依ツテ  
一項カラ四項マデ掲ゲテアリマス、公債又  
ハ社債ノ名稱及其ノ總額トカ、利子ノ支拂  
期限トカ、利率トカ、償還ノ方法及期限、  
或ハ數回ニ分ツテ拂込ヲ爲サシムルトキヘ、  
其ノ拂込ノ金額及時期ト云ツタヤウナ問題  
ガ主タルモノデアリマス、記載事項ハ大體  
現行法ト同様デアリマス

○石坂委員 七十九條ノ申告ニ必要ナル事  
項、及ビ右申告ノ時期、及ビ八十條ノ調書  
提出ノ時期ヲ御伺致シマス

○田中政府委員 七十九條ノ申告ノ事項ハ、  
大體何人使用人ヲ使ツテ居ルカト云フヤウ  
ナ事項ヲ、年ノ初ヌミ申告ヲシテ戴ク積り  
デアリマス、ソレカラ八十條ノ「命令ノ定ム  
ル所ニ依リ」ノ内容トシマシテハ支拂ノ金額  
デアルトカ……

○石坂委員 内容ハ要リマセヌ、七十九條  
ノ申告ノ時期ト、八十條ノ調書提出ノ期日  
デアリマス

○田中政府委員 七十九條ハ一月、八十條  
ノ方ハ俸給、給料等ニ付テハ一月、ソレカラ  
公社債ノ利子ナドノ支拂ニ付キマシテハ、  
支拂確定後其ノ都度デゴザイマス

○石坂委員 次ニ八十一條第一項、第二項  
ニアル稅務署長又ハ代理官が検査ヲ爲スコ  
トヲ得ト云フコトデアリマス、是ハ現行法  
ノ五十七條ト對照致シテ見マスルト、改正  
案ハ非常ナ強權的ノ規定ニナツテ居ルヤ  
ウニ讀メルノデアリマス、現行第五十七條

ノガ、今度ノニハ検査ト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、ソコデ伺ヒタイト存ジマスノハ、此ノ検査ト云フノハ如何ナルコトヲスルモノデアルカト云フコト、更ニ之ニ對シマシテ罰則ノ九十二條ノ規定ガゴザイマスガ、九十二條ハ此ノ八十一條ニ掲ゲテアル検査ヲ拒ミ、妨げ若ハ忌避シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處スト云フ非常ニ嚴重ナ規定ガ設ケラレテアリマス、條文ヲ讀ンデ分ラナイノハ、此ノ「忌避」ト云フ言葉デアリマス、御承知ノ通リニ「忌避」ト云フ言葉ハ、大體民事訴訟法、刑事訴訟法或ハ今ノ陪審法等ニアル言葉ノヤウデアリマスルガ、民事訴訟法、刑事訴訟法ニアル忌避ヲ爲シ得ル場合ハ、或ハ裁判ノ公正ヲ妨グベキ事情アル場合デアルトカ、或ハ裁判官ガ偏頗ナ裁判ヲ爲ス虞アル場合ニ「忌避」ガ出来ルト云フ、規定ニナツテ居ルノデアリマス、ソコデ此ノ九十二條ノ「忌避」ハ必ずシモ訴訟法上ノ「忌避」ト同ジ概念デハナカラウト思ヒマスケレドモ、サウ考ヘテ見マスト、「忌避」ト云フ言葉ガハツキリ致シマセヌ、尙又「拒ミ」ト云フ場合ト「忌避」ト云フ場合ヲ並ベテアルノハ、是ハ何カヤハリ此ノ二ツノ場合ガ、特段ニ斯ウ云フ規定ヲ設ケネバナラナカツカドウカト云フコト、殊ニ此ノ新設サレタ八十一條ト九十二條ノ關係ハ、動モズルト刑法ノ公務執行妨害ト云フヤウナモノニ引掛ケラレハシナイカト云フヤウナ懸念モアルノデアリマス、ソコデ私ハ八十一條一項、二項ノ検査ト云フコトガ非常ニ強權的ナモノデアル、稅務署長若クハ其ノ代理官ガドンノ行ツテ帳簿ヲ検査ラスルト云フコトハ、是ハ少シク

行キ過ギノ規定デハナイカト云フ感ジガ致  
スノデアリマス、隨テ特ニ此ノ條文ヲ指摘  
致シマシテ、御尋ヲ致ス譯デアリマス  
○田中政府委員 現在所得稅法ニ於テハ、  
御話ノ通リ此ノ検査規定ハゴザイマセス、  
今回新ニ検査規定ヲ設ケタノデアリマスガ、  
御指摘ノ八十一條ニ於ケル検査規定ハ、其  
ノ營業ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢  
査スルコトヲ得ト云フノデアリマシテ、所  
得稅全般ニ亘ツテヤラレルノデナインデア  
リマシテ、分類所得稅ノ課稅品目中一所  
得稅ノ課稅ノ對象中、營業ニ關スル分ト云  
フモノダケニ付テ、検査規定ヲ茲ニ挿入致  
シタノデアリマス、其ノ理由ハ從來營業收  
益稅ニ於キマシテハ、是ト同様ノ規定ガア  
リマシタノデ、現在ノ營業收益稅法ノ第二  
十五條ニ「收稅官吏ハ營業ニ關スル帳簿物件  
ヲ検査シ又ハ營業者ニ質問スルコトヲ得ト」  
云フ規定ガアリマシタ、今回營業收益稅ニ  
相當スル分ヲモ、分類所得稅トシテ取ルヤ  
ウナコトモゴザイマスノデ、此ノ營業ニ關  
スル帳簿物件ノ検査ハ所得稅法中ニモナケ  
レバ不都合デアル、斯様ナ理由カラ茲ニ規  
定ヲ致シタノデアリマス、規定トシテハ新  
シクゴザイマスガ、實體トシテハ從來ノヲ  
踏襲シタニ過ギナインデアリマス、ソレカ  
ラソレニ對スル罰則九十二條ノ「検査ヲ拒  
ミ、妨げ若ハ忌避」ノ「忌避」ト云フ言葉  
ガドウカト云フ御質問デゴザイマスガ、  
「拒ミ」ト「忌避」トノ相違ト云フヤウナコト  
ノ御質問モゴザイマシタデスガ、結局「忌避」  
ノ方ハ「拒ミ」ヨリモ消極的ニ検査ヲ回避シ  
タ、斯ウ云フ問題デアルト考ヘテ居リマス  
○石坂委員 此ノ八十一條及ビ之ニ對スル  
罰則九十二條ノ所謂検査ニ付テノ實施ノ上

ニ付テハ、餘程稅務官吏ハ周到ナ注意ヲシテ戴キマセヌト、動モスルト其ノ爲ニ納稅義務者ヲ刺戟スル、或ハ却テ其ノ結果納稅義務ヲ悪化スルヤウナコトガアリシナカト心配致スノデアリマシテ、實施ノ上ニ付キマシテハ特別ニ適切ナル御留意ヲ願ヒタイト存ジマス

○堀切委員長 石坂君、農林大臣ハ今貴族院ノ方ニ出テ居ルサウデス、ソレガ終ヘレバコツチニ出席シ得ルグラウト言ツテ居ルサウデスガ、或ハ萬一農林大臣ガ來ラレナカツタ、局長デモ來テ貰ヒマセウカ、局長ナラ何局長デス

○石坂委員 願クハヤハリ大臣ノ見エルマデ御待チジタイト思ヒマス

○堀切委員長 ソレデハサウ云フコトニ致シマス

○石坂委員 尚ホモウ一ツ罰則ノ規定ニ付テ御伺シタイト思ヒマス、所得調査委員又ハ其ノ補缺員及ビ所得審査委員又ハ其ノ補缺員ノ選舉ニ關シマシテ、今回ハ九十四條、九十五條ト云フ罰則ヲ新ニ御設ケニナツテ居リマス、而モ九十四條ニ於キマシテハ、選舉法ノ罰則ノ百十二條ノ規定ヨリモツト重イ刑罰、即チ「三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金」九十五條ニ於テ、戸別訪問又ハ個々面接、電話ニ依ル依頼ト云フモノヲ禁ゼラレマシテ、サウシテ其ノ罰則ハ「一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金」ト云フコトニナツテ居ルノデアリマスガ、一見致シマシテ如何ニモ是ハ嚴罰ニ過ギルヤウナ感ジガ致スノデアリマス勿論從來モ、ノ選舉ノ實情ニ付テハ、色々聞及ンデ居ル

コトモナイデハナノデアリマスルガ、併シ是程マデノ嚴罰ヲ以テ臨ムト云フコトハ、一體納稅ニ依ツテ國民ヲ時局ニ協力サセヨウト云フ斯ウ云フ時期ノコトデモアリマスルシ、少シク峻嚴過ギハシナイカト云フ感ジヲ私ハ持ツノデアリマス、其ノ點八ヤハリ此ノ九十四條、九十五條、殊ニ九十四條ノヤウナ嚴罰ヲ以テ臨マナケレバ、其ノ間ノ弊害ガ除カレナイト云フ御考デアリマセウカ

四條ナドニハ「賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタ云々」ト云ノ規定モアルノデアリマス、此ノ所得調査委員ニ關スル選舉ニ、衆議院議員選舉法ノ規定ト同様ノ罰則ヲ以テ臨マナケレバナラスト云フ必要モナイデハナイカト、私ハ繰返シテ申シマスルガ、考ヘルノデアリマス、殊ニ九十五條ノ戸別訪問、個々面接、電話ノ依頼ト云フヤウナコトハ、一般ノ國民カララ申シマスト、ヨクアリガチナコトノヤウニモ想像致サレルノデアリマシテ、此ノ點斯ウ云フ規定ヲ設ケマシタ爲ニ、却テ徒ニ犯人者ヲ多クスル、其ノ結果ヤハリ國民ノ納稅義務ニモ影響スルノデハナイカト思フノデアリマス、他ノ選舉法ヨリ重イデハナイカト申シマスノベ、實ヘ二年以下——是ハ私ノ記憶達ヒデアツカモ知レマセヌガ、兎ニ角衆議院議員選舉ト同様ナ罰則ヲ以テ臨マナケレバナラスト云フコトニ付テハ、シマセヌカ

○田中政府委員 斯ウ云フ規定ガナクテモ、先程國稅課長ノ御答辯ニモアリマシタケレドモ、分ラヌノデアリマス、少し重過ギハシマセヌカ

○田中政府委員 舊刑法ノ公選ノ投票ヲ偽造スル罪ニ關スル規定ノ適用ガアリマスコトハ、只今御述べ別訪問ノ場合ノ罰則モアリマセヌシ、又其ノ内容ガ現在ノ選舉法ニ於テハ禁止ナレ、且ツ罰則ヲ受ケルヤウナコトデモ、所得調査委員ノ選舉デハ差支ナイト云フ非常ニ食違ヒモアリマシテ、其ノ爲ニ選舉全體ニ對スル觀念——此ノ選舉デハ斯ウ云フコトハシテハ宜イノダ、此ノ選舉デハ斯ウ云フコトヲシテハ惡イノダト云フ觀念ノ差違が出來ル、ソコニ選舉肅正ト云フ觀念ニ多少

支障ガ生ズルノデハナイカ、殊ニ衆議院議員ノ選舉ト所得調査委員ノ選舉ト、一緒ニ行ハレタヤウナ場合ニ於キマシテハ、取締ノ依頼ト云フヤウナコトモアリ、最近ノ選舉取締ニ關スル規定ハ、皆衆議院議員選舉法ノ規定ヲ準用シ若クハ同様ノ規定ヲ設ケルヤウナ傾向ニ相成ツテ居ルノデアリマシテ、稅法ニ付キマシテモ、ソレニ倣ツテヤリマシタノデアリマス、併シ衆議院議員選舉法ヲヤツテハイケナイト云フコトヲ、全部持ツテ來タ譯デハアリマセヌ、大體稅法上ノ見地カラ必要ト認メル程度ノモノヲ、衆議院議員選舉法ニ倣ヒマシテ、茲ニ規定シタヤウナ譯デアリマス、此ノ罪ガ非常ニ重過ギルノデハナイカト云フコトニ付キマシテハ、色々見解モアリ得ルコトト思ヒマスガ、衆議院議員選舉法ノ實體ニ倣ツテ同様ノ規定ヲシタ、斯ウ云フコトデゴザイマス

○石坂委員 段々罰則ヲ設ケラレタコトニ付テノ御議論ガアリマシタガ、私ハ是ダケノ罰則ヲ附スル必要ハナイデハナイカ、殊ニ九十五條ノヤウナ戸別訪問ナドマデ禁止ノ通リデアリマス、併シ是ダケデハ、例ヘバスルト云フコトハ、少シ實情カラ離レ過ギテ居ルデハナイカト云フ考ヲ持ツテ居ルノデアリマス、申上げレバ要スルニ見解ノ相違ニナルノデアリマスカラ、此ノ點ハ是以上私ハ申上ゲマセヌ、モウ一つ御伺致シタレ、且ツ罰則ヲ受ケルヤウナコトデモ、所得調査委員ノ選舉デハ差支ナイト云フ非常ニ食違ヒモアリマシテ、其ノ爲ニ選舉全體ニ對スル觀念——此ノ選舉デハ斯ウ云フコトハシテハ宜イノダ、此ノ選舉デハ斯ウ云フコトハシテハ惡イノダト云フ觀念ノ差違が出來ル、ソコニ選舉肅正ト云フ觀念ニ多少

實情ニアルヤウデアリマス、ソレニ對シマシテ段々ノ御説明モアツタメデアリマシテ、何カ適當ナ考慮ヲ拂フベキデハナイカト云フ森サンノ間ニ對シマシテ、具體的ニハ申上ゲ兼ネルト云フ趣旨モアツテ、何カ考慮ヲサレテ居ルヤウデアリマスルガ、今カラ何カ具體的ノコトヲ御考ニナルト云フ御趣旨デアリマセウカ、何レニ致シマシテモ此ノ點ハ會社側カラ申シマスト、非常ナ手數ガ掛ル、今度ハ勤勞者ノ側カラ見マシテモ、河野君ガ言ハレタヤウナ色々ノ不都合ガアルノデアリマス、是ガ實施ニ際シマシテハ、特ニ御考慮ヲ願ハナケレバナラスト思ヒマス、重ねテ之ニ對スル御意見ヲ承リタイシマスコトニ依ツテ、政府ニ於キマシテモ、或ハ納稅者ニ於キマシテモ、非常ニ各種ノ便宜ヲ得ラレルノデアリマス、唯徵收義務者即チ傭主ニ於キマシテ、非常ニ手數ガ掛ル事務ヲヤラナクテハナラナイコトハ御説ノ通リデアリマス、隨ヒマシテ此ノ實施ニ當リマシテモ、出來ル限り無用ノ手數ヲナクスルヤウニ致シタイト思ツテ居ルノデアリマス、其ノ具體的方法ニ付テ、先程局長カラ、只今申上ガ兼ネルト申シマシタノハ、是ハ實行上ニ當ツテ、例ヘバドウ云フ計算ヲスルカ、或ハドレダケノ手續ニ依ツテ其ノ内譯ヲ整ヘて置イテ貰フカト云ツタヤウナ手續上ノ問題ニ付キマシテ、具體的ナ問題ヲ今後成ベク簡便ナヤウニ定メル、手數ノ掛ラヌヤウニ定メテ行キタイト云フノデゴザイマシテ、實行上ノ手續ノ細カイ問題ニ付テ、今案ヲ定メテ居ル譯デハナイト云フハ、酷ナル場合ガアリマスノデ、先程御尋ノ救濟規定ヲ新ニ設ケタ譯デゴザイマス、其ノ救濟ガ出來ルト云フ御説明デアレバ之ヲ諒ト致シマス

○石坂委員 七十五條ノ救濟規定ガアルカ尙ホモウ一點、所得稅法ニ付テ御伺致シタイト思ヒマスガ、ソレハ附則ノ九十八條デアリマス、詰リ過渡期ト申シマスカ、本法ガ通過スレバ、本年ノ四月一日カラ施行サレルノデアリマスガ、ヤウナ方針ニ依ツテ、今後實行政シテ行キ

ソレマデノ所得ニ付テノ課稅ガドウナルカ  
ト云フ點デアリマス、モウ少シ具體的ニ申  
上ゲマスナラバ、例ヘバ之ヲ山林所得ナラ  
山林所得ト云フコトニ致シマシテ、本年ニ  
ナリマシテカラ二月デモ三月デモ、要スル  
ニ本法施行前ニ所得ヲ得マシタ其ノ所得ニ  
對シマシテハ、一體ドウ云フ風ノコトデ課  
稅ニナルカ、現行法ニ依ルカ、新法ニ依ル  
カト云フ點ヲ明ニシテ戴ケレバ宜イノデア  
リマス

課税スルコトニナルノデアリマス、例ヘバ此ノ九十八條ノ規定ニ依リマシテ、分類所得税モ綜合所得税モ、個人ニ付キマシテハ昭和十五年分ヨリ之ヲ適用スル譯デアリマスカラ、本年分類所得税ヲ決定致シマスニハ、昨年ノ實蹟ニ依ツテ決定スル、綜合所得税モ同様ニ昨年ノ實蹟ニ依ツテ決定致シマス、御話ノ本法施行ノ場合ニ、今年ニナツテ得タ山林ノ所得等ニ付キマシテモ、昭和十五年中ニ收入シタル所得ヲ全部一括シテ、昭和十六年分トシテ明年課税スルコトニ相成ル譯デアリマス

○石坂委員 次ハ遊興飲食税ニ付テ御伺致シタイト思ヒマスガ、其ノ一つハ「カフエー」「ベー」ノ免稅點ニ關スルコトデアリマスケレドモ、是ハ先日來段々ノ質疑應答ニ依リマシテ、今御當局ニ於キマシテモ全國ノ「カフエー」「ベー」ノ實際ヲ調査シテ居ル、斯ウ云フ風ノコトデアリマスカラ、其ノ調査ノ結果ニ依ツテ、或ハ適當ナ處置ガ食稅ニ付キマシテ御尋致シタイト存ジマスノハ、同法第十七條ノ第二項ノ交付金デア

リマス、是モ度々論議サレタヤウデアリマ  
シテ、局長カラモ御答辯ガ數回アツタヤウ  
ニ存ジマスガ、之ニ對シテ當業者ハ百分ノ三  
以内ノ交付金ヲ交付スルト云フ命令事項ニ  
ナツテ居ルニモ拘ラズ、非常ニ交付金ノ額  
ガ少イ、隨テ一層ノコト之ヲ百分ノ三以内  
ト云フコトニセズニ、百分ノ三ト云フ風ニ  
定率ニシテ戴イタ方ガ宜イノデハイカ、  
斯ウ云フ希望モアルヤウデアリマス、局長  
ノ先日ノ御答辯デハ、豫算關係ガアルカラ  
ト云フ御話モアツタノデアリマスガ、其ノ  
點ニ付テ重ネテ御意向ヲ承ツテ置キタイト  
思ヒマス

キマシテハ、御説ノヤウニ現在命令ガ百分  
ノ三以内ト云フコトニ相成ツテ居リマス、  
百分ノ三以内ト相成リマシタニ付キマシテ  
ハ、石坂サンモ御承知ノヤウニ、昨年政府  
ト致シマシテハ一應百分ノ一ト云フ考へ方  
デアリマシタノヲ、ソレデハ少イ、又都會  
ト田舎ト云ツタヤウナ所デ、其ノ稅ノ集リ  
方ト云フモノガ手數ニ比シテ割合少イトイ云  
ツタヤウナヨトガアツテ、都會ト田舎トニ  
付テ同ジ率デハ衡平デナイト云フヤウナ點  
カラ、増額竝ニ配分ニ當ツテ差異ヲ付ケル  
ト云フヤウナ御要求ガアリマシテ、最高ガ  
セメテ百分ノ三位ト云フコトデ、百分ノ三  
以内ト云フコトニ規定ヲ致シタ譯デアリマ  
ス、隨ヒマシテ都會ナリ田舎、例へバ東京  
ノ如ク遊興飲食業者ガ非常ニ集合シテ居ル  
組合デ、徵收稅額モ多ク、手數モ其ノ割ニ  
掛ラクナクテ相當ノ稅金ノ擧リマスヤウナ所  
ト、田舎デ散バツテ居ツテ、稅金ノ擧リ方  
モ少ク、手數ハ其ノ割ニ相當掛ルト云ツタ  
ヤウナ所ニ、同ジ率デ出スノハ却テ不適當

カト思ヒマス、隨テ百分ノ三ト云フヤウナ  
一律ノモノニスルコトハ、却テ御趣旨ニ合ハ  
ナイト考ヘテ居リマス、ソレカラ總額ト致シ  
マシテ少過ギルト云フ問題デゴザイマスガ、是  
ハ此ノ種ヲ交付金トシマシテハ、前例ノナイン  
位非常ニ高クナツテ居ルノデアリマシテ、例ヘ  
バ酒ニ致シマシテモ、課稅石數十石ニ付一  
圓ノ割デアリマシテ、稅ノ收入ニ對スル率ト  
致シマスレバ非常ニ少イト存ジマスガ、此ノ遊  
興飲食稅ノ徵收ニハ色々面倒モアリマスノ  
デ、相當多額ノ交付金ヲ支出スルコトニナ  
ツテ居リマス、今回ハ此ノ率ヲ非常ニ上ゲ  
テ居リマス、率ヲ引上げマシテモ組合ノ手  
數ト云フモノハ、サウ掛ルモノデハナイト  
考ヘマスガ、稅率ヲ引上げマシテ收入金額  
ガ非常ニ多クナルコトニナツテ居リマスノ  
デ、從來ノ百分ノ一ト云フ交付金ノ率デ算  
出致シマシテモ、交付金ノ金額ハ相當多額  
ニナル、斯ウ云フコトニ相成リマス、現ニ  
昨年ハ二十數万圓ト云フ金額デアツタモノ  
ガ、今回計上致シマシタ金額ハ、一年ニ致  
シマシテ百六十萬圓ニ上ル、率モ昨年ノ計  
上額ノ百分ノ一ヨリ百分ノ一・五ニ引上げテ  
居リマス、サウ云フ事情デ、此ノ種ノ交付  
金トシテハ非常ニ多額デアツテ、此ノ程度  
デ十分デハナイカ、斯様ニ政府トシテハ考  
ヘテ居リマス

内ニシタ、政府ニ於テモ事情ヲ諒トシテ百  
分ノ三以内トシタト云フ其ノ時ニ陳情シタ  
當業者竝ニサウ云ツタ人達ハドウ者ヘテ居  
ルカト云フト、均一デ百分ノ一デハ足リナイ  
カラト云ツテ陳情シテ、百分ノ三以内ト云  
フコトニナツタノデスカラ、最低限度ガ百  
分ノ一デアル、斯ウ考ヘルノガ當リ前デハ  
ナイデスカ、百分ノ一デハ足リナイカラト  
云ツテ陳情ニ來タノハ、サウ云フ田舎ノ無  
資力ノ人ヂヤナイ、アナタノ御言葉デハ小サ  
ナ集團ニ過ギナイ方ニハ、割合率ノ好イ補  
助金ヲ出シテ居ルト言ヒマスクレドモ、實  
際其ノ時ニ態、東京ヘ陳情ニ出テ來ル人ハ、  
ソンナ人ハ來テ居リマセヌ、ドンナ人ガ來  
テ居ルカト云フト、大都市デ飲食店ヲ經營  
シテ居ルヤウナ人ガ自費デ來テ居ル、サウ  
云フ人達ハ地方ノ小サナ飲食業者ノ立場  
ハ考ヘナイデ、自分ノ立場カラ考ヘテ居  
ル、斯ウ云フ人達ノ立場カラ考ヘレバ、百  
分ノ一デハ足リナイト云ツテ陳情ニ來タノ  
デスカラ、百分ノ三以内ト變ヘタ時ニ、小  
理窟ヲ付ケテ、大キナ組合デハ金ガ擧ガル  
カラト云フノデ、百分ノ〇・五ニスルト云  
ヤウナコトハ、ドウシテモ合點ノ行カナイ  
コトデヤナイカト思フノデス、其ノ點ヲ伺  
ヒタイト思ヒマス

Page 1 of 1

バ變ヘルコトガ出來ナイ、斯ウ云フコトデ  
御答辯申上ゲテ居ツタ承知シテ居リマス、ソレデハ都會トカ  
併シ只今言ツタヤウナ、ソレデハ都會トカ  
田舎トカ云ツタヤウナコトニ依ツテ、率ヲ  
變ヘル必要モアリ、本年ハ豫算ガ百分ノ一  
シカ計上サレテ居ナイノダカラ、本年ニ於  
テ以内ニ下ル場合ガアツテモ已ムヲ得ナ  
イ、斯ウ云フヤウナ御趣旨トシテ解釋致シ  
テ居リマス

○濱野委員 ソレデハ伺ヒマス、御言葉デ  
ハ百分ノ一シカ豫算ヲ取ツテ居ラナイ、若

シ陳情ガナカツタナラバ均一ニ、大小ヲ問  
ハズシテ百分ノ一ヲ渡シタノデスカ、ソレ  
ダケハハツキリシマスカ

○田中政府委員 サウデス

○濱野委員 サウスルト今申シタ通り、其  
ノ時ニ理解ガナカツタコトハ明カデス、御

言葉ノ通リ見エタ人ハ百分ノ一デハ足リナ

イカラト云フノデ來タノデスカラ、百分ノ

三以内ト云フノデ、確カニ一以上ト考ヘテ

組合ノ人達ガ作ツテ來タモノガアリマス、  
之ニ付テ大體約四十箇所ノ組合ノ交付率ヲ

調べテ見マスト、先づ低イ所デハ、東京ノ某所

デ以テ八十五軒ノ組合ニ對スル交付金ノ率ガ

〇・五九一、多イ所デハ掛川町ノ百分ノ一二

三〇、ソレカラ岡山縣ノ井原デハ御言葉ノ通

リ一・九三〇、併シ少イ所デハ神戸市ノ如キハ

コトニナリマスカ、百分ノ一ヲ超シタ所ハ非

常ニ少イデハナイデスカ、今申シタ約四十

バカリノ中デ、百分ノ一ヲ超シタノハ十ア  
リマス、尤モ兵庫縣ノ柏原ト云フ所ハ四・二

ヲ出テ居リマス、先づ其ノ點カラ伺ヒマセウ

○田中政府委員 御調ハ四十程ダサウデア  
リマスガ、全國ニ付キマシテ調べタ結果ヲ

申上ゲマス、團體數デ申上ゲタ結果ヲ

ノモノガ一割二分四厘、二割ヲ超シマシテ

百分ノ三以下ノモノガ四割六分八厘、斯ウ

云フコトニ相成ツテ居リマス

○濱野委員 御言葉デ能ク分リマシタ、併

シ單ニ常識デ分リ兼ネルノハ、百分ノ一ヲ

超ス所ハ百分率トシテ割合ガ多クテモ、サ

ウ云ツタ所ハ取扱ツテ居ル金高モ少イシ、  
ソレカラ件數モ少イ、其ノ數ノ上カラ見ル

ナラバ、百分ノ一ヲ超シタモノハ「パーセ

ンテージ」ガ多クテモ、ソレデハ合點ガ行

カナイ、一番大キナ組合デ一番多クノ金高

セヌガ、一万一千二百三十九圓ノ納稅ニ對

キハ、市トシテハ餘り大キナ市デハアリマ

セスガ、一萬一千二百三十九圓ノ納稅ニ對

シテ、遊シダ納稅人ガ八十五人、ソレヲ以

テ六百五十七圓六十錢ノ損失ヲ受ケテ居ル

デハアリマセヌカ、大變ナモノデハナイカ、  
此ノ率ヲアナタ方ガ御信用ナサラナイナラ

姑ク措キマス、是モ責任ヲ持ツテ代議士ニ

陳情シテ來ルノデスカラ、此ノ金高ハ確カ

ダト思ヒマス、ソレナラ百分ノ一トカ〇・五

トカ云フ數字ヲ並ベテ、政府ノ仕事ヲ補助

サセルノニ、是ダケノ損害ヲ與ヘテ置イテ

恬トシテ顧ミナイト云フコトハ、今日ノ爲

政者トシテ執ルベキ態度デナイト思フ、實

状斯ノ如キモノデアルナラバ、政府ノ納稅

ノ手間ヲ省ク爲ニ、雙方ノ便宜ノ爲デアリ

マセウガ、此ノ點何カ考ヘラレル必要ガア

ルト思ヒマス、政府ハ何カ考ヘテ居ラレマ

スカ、其ノ點ヲ伺ヒタイ

○田中政府委員 前段ノ數字ノコトニ付テ

申上ゲタイト思ヒマス、只今濱野サンハ組

合數デ割合ヲ御話ヲサレマシタノデ、組合

數デ割合ヲ申上ゲタノデアリマスガ、御話

ノ通リ非常ニ金ノ入ル組合モアリ、入ラナ

イ組合モアリマスガ、私ノ申上ゲタ率ハ、

○濱野委員 ソレデハ結局其ノ三十九錢ト

益ヲ受ケテ居ルカ、或ハ手一ペイカ、或ハ

損ヲシテ居ルカ、實狀ニ付テ申上ゲマスト、  
下關市ノ如キハヒドイ、下關ノ如キハ金高

デ申シマスト五箇月目デ五百三十圓七十四

リマスガ、全國ニ付キマシテ調べタ結果ヲ

申上ゲマス、團體數デ申上ゲタ結果ヲ

ノモノガ一割二分四厘、二割ヲ超シマシテ

百分ノ三以下ノモノガ四割六分八厘、斯ウ

云フコトニ相成ツテ居リマス

○濱野委員 御言葉デ能ク分リマシタ、併

シ單ニ常識デ分リ兼ネルノハ、百分ノ一ヲ

超ス所ハ百分率トシテ割合ガ多クテモ、サ

ウ云ツタ所ハ取扱ツテ居ル金高モ少イシ、  
ソレカラ件數モ少イ、其ノ數ノ上カラ見ル

ナラバ、百分ノ一ヲ超シタモノハ「パーセ

ンテージ」ガ多クテモ、ソレデハ合點ガ行

カナイ、一番大キナ組合デ一番多クノ金高

セヌガ、一萬一千二百三十九圓ノ納稅ニ對

キハ、市トシテハ餘り大キナ市デハアリマ

セスガ、一萬一千二百三十九圓ノ納稅ニ對

シテ、遊シダ納稅人ガ八十五人、ソレヲ以

テ六百五十七圓六十錢ノ損失ヲ受ケテ居ル

デハアリマセヌカ、大變ナモノデハナイカ、  
此ノ率ヲアナタ方ガ御信用ナサラナイナラ

姑ク措キマス、是モ責任ヲ持ツテ代議士ニ

陳情シテ來ルノデスカラ、此ノ金高ハ確カ

ダト思ヒマス、ソレナラ百分ノ一トカ〇・五

トカ云フ數字ヲ並ベテ、政府ノ仕事ヲ補助

サセルノニ、是ダケノ損害ヲ與ヘテ置イテ

恬トシテ顧ミナイト云フコトハ、今日ノ爲

政者トシテ執ルベキ態度デナイト思フ、實

状斯ノ如キモノデアルナラバ、政府ノ納稅

ノ手間ヲ省ク爲ニ、雙方ノ便宜ノ爲デアリ

マセウガ、此ノ點何カ考ヘラレル必要ガア

ルト思ヒマス、政府ハ何カ考ヘテ居ラレマ

スカ、其ノ點ヲ伺ヒタイ

○田中政府委員 前段ノ數字ノコトニ付テ

申上ゲタイト思ヒマス、只今濱野サンハ組

合數デ割合ヲ御話ヲサレマシタノデ、組合

數デ割合ヲ申上ゲタノデアリマスガ、御話

ノ通リ非常ニ金ノ入ル組合モアリ、入ラナ

イ組合モアリマスガ、私ノ申上ゲタ率ハ、

○濱野委員 ソレデハ結局其ノ三十九錢ト

益ヲ受ケテ居ルカ、或ハ手一ペイカ、或ハ

損ヲシテ居ルカ、實狀ニ付テ申上ゲマスト、  
下關市ノ如キハヒドイ、下關ノ如キハ金高

デ申シマスト五箇月目デ五百三十圓七十四

リマスガ、全國ニ付キマシテ調べタ結果ヲ

申上ゲマス、團體數デ申上ゲタ結果ヲ

ノモノガ一割二分四厘、二割ヲ超シマシテ

百分ノ三以下ノモノガ四割六分八厘、斯ウ

云フコトニ相成ツテ居リマス

○濱野委員 ソレデハ伺ヒマス、御言葉デ  
ハ百分ノ一シカ豫算ヲ取ツテ居ラナイ、若

シ陳情ガナカツタナラバ均一ニ、大小ヲ問  
ハズシテ百分ノ一ヲ渡シタノデスカ、ソレ

ダケハハツキリシマスカ

○田中政府委員 サウデス

○濱野委員 サウスルト今申シタ通り、其

ノ時ニ理解ガナカツタコトハ明カデス、御

言葉ノ通リ見エタ人ハ百分ノ一デハ足リナ

イカラト云フノデ來タノデスカラ、百分ノ

三以内ト云フノデ、確カニ一以上ト考ヘテ

組合ノ人達ガ作ツテ來タモノガアリマス、  
之ニ付テ大體約四十箇所ノ組合ノ交付率ヲ

調べテ見マスト、先づ低イ所デハ、東京ノ某所

デ以テ八十五軒ノ組合ニ對スル交付金ノ率ガ

〇・五九一、多イ所デハ掛川町ノ百分ノ一二

三〇、ソレカラ岡山縣ノ井原デハ御言葉ノ通

リ一・九三〇、併シ少イ所デハ神戸市ノ如キハ

コトニナリマスカ、百分ノ一ヲ超シタ所ハ非

常ニ少イデハナイデスカ、今申シタ約四十

バカリノ中デ、百分ノ一シカ豫算ガナイカラ、ソコデ上下ヲ附ケル

ノダト云フ御言葉デアルナラバ、ドウ云フ

セレバ宜イト思ヒマス、結局ハドレダケ損

失シテ居ルカ、言ヒ換ヘレバ政府カラ貰フ

幾ラ使ツテ、交付金ガ幾ラ來ル、ソレデ利

益ヲ受ケテ居ルカ、或ハ手一ペイカ、或ハ

損ヲシテ居ルカ、實狀ニ付テ申上ゲマスト、  
下關市ノ如キハヒドイ、下關ノ如キハ金高

デ申シマスト五箇月目デ五百三十圓七十四

リマスガ、全國ニ付キマシテ調べタ結果ヲ

申上ゲマス、團體數デ申上ゲタ結果ヲ

ノモノガ一割二分四厘、二割ヲ超シマシテ

百分ノ三以下ノモノガ四割六分八厘、斯ウ

云フコトニ相成ツテ居リマス

○濱野委員 ソレデハ伺ヒマス、御言葉デ  
ハ百分ノ一シカ豫算ヲ取ツテ居ラナイ、若

シ陳情ガナカツタナラバ均一ニ、大小ヲ問  
ハズシテ百分ノ一ヲ渡シタノデスカ、ソレ

ダケハハツキリシマスカ

○田中政府委員 サウデス

○濱野委員 サウスルト今申シタ通り、其

ノ時ニ理解ガナカツタコトハ明カデス、御

言葉ノ通リ見エタ人ハ百分ノ一デハ足リナ

イカラト云フノデ來タノデスカラ、百分ノ

三以内ト云フノデ、確カニ一以上ト考ヘテ

組合ノ人達ガ作ツテ來タモノガアリマス、  
之ニ付テ大體約四十箇所ノ組合ノ交付率ヲ

調べテ見マスト、先づ低イ所デハ、東京ノ某所

デ以テ八十五軒ノ組合ニ對スル交付金ノ率ガ

〇・五九一、多イ所デハ掛川町ノ百分ノ一二

三〇、ソレカラ岡山縣ノ井原デハ御言葉ノ通

リ一・九三〇、併シ少イ所デハ神戸市ノ如キハ

コトニナリマスカ、百分ノ一ヲ超シタ所ハ非

常ニ少イデハナイデスカ、今申シタ約四十

バカリノ中デ、百分ノ一シカ豫算ガナイカラ、ソコデ上下ヲ附ケル

ノダト云フ御言葉デアルナラバ、ドウ云フ

セレバ宜イト思ヒマス、結局ハドレダケ損

失シテ居ルカ、言ヒ換ヘレバ政府カラ貰フ

幾ラ使ツテ、交付金ガ幾ラ來ル、ソレデ利

益ヲ受ケテ居ルカ、或ハ手一ペイカ、或ハ

損ヲシテ居ルカ、實狀ニ付テ申上ゲマスト、  
下關市ノ如キハヒドイ、下關ノ如キハ金高

デ申シマスト五箇月目デ五百三十圓七十四

リマスガ、全國ニ付キマシテ調べタ結果ヲ

申上ゲマス、團體數デ申上ゲタ結果ヲ

ノモノガ一割二分四厘、二割ヲ超シマシテ

百分ノ三以下ノモノガ四割六分八厘、斯ウ

云フコトニ相成ツテ居リマス

○濱野委員 ソレデハ伺ヒマス、御言葉デ  
ハ百分ノ一シカ豫算ヲ取ツテ居ラナイ、若

シ陳情ガナカツタナラバ均一ニ、大小ヲ問  
ハズシテ百分ノ一ヲ渡シタノデスカ、ソレ

ダケハハツキリシマスカ

○田中政府委員 サウデス

○濱野委員 サウスルト今申シタ通り、其

ノ時ニ理解ガナカツタコトハ明カデス、御

言葉ノ通リ見エタ人ハ百分ノ一デハ足リナ

イカラト云フノデ來タノデスカラ、百分ノ

三以内ト云フノデ、確カニ一以上ト考ヘテ

組合ノ人達ガ作ツテ來タモノガアリマス、  
之ニ付テ大體約四十箇所ノ組合ノ交付率ヲ

調べテ見マスト、先づ低イ所デハ、東京ノ某所

デ以テ八十五軒ノ組合ニ對スル交付金ノ率ガ

〇・五九一、多イ所デハ掛川町ノ百分ノ一二

三〇、ソレカラ岡山縣ノ井原デハ御言葉ノ通

リ一・九三〇、併シ少イ所デハ神戸市ノ如キハ

コトニナリマスカ、百分ノ一ヲ超シタ所ハ非

常ニ少イデハナイデスカ、今申シタ約四十

バカリノ中デ、百分ノ一シカ豫算ガナイカラ、ソコデ上下ヲ附ケル

ノダト云フ御言葉デアルナラバ、ドウ云フ

セレバ宜イト思ヒマス、結局ハドレダケ損

失シテ居ルカ、言ヒ換ヘレバ政府カラ貰フ

幾ラ使ツテ、交付金ガ幾ラ來ル、ソレデ利

益ヲ受ケテ居ルカ、或ハ手一ペイカ、或ハ

損ヲシテ居ルカ、實狀ニ付テ申上ゲマスト、  
下關市ノ如キハヒドイ、下關ノ如キハ金高

デ申シマスト五箇月目デ五百三十圓七十四

リマスガ、全國ニ付キマシテ調べタ結果ヲ

申上ゲマス、團體數デ申上ゲタ結果ヲ

ノモノガ一割二分四厘、二割ヲ超シマシテ

百分ノ三以下ノモノガ四割六分八厘、斯ウ

云フコトニ相成ツテ居リマス

○濱野委員 ソレデハ伺ヒマス、御言葉デ  
ハ百分ノ一シカ豫算ヲ取ツテ居ラナイ、若

シ陳情ガナカツタナラバ均一ニ、大小ヲ問  
ハズ



最高百分ノ三、最低百分ノ一、其ノ範圍デ  
交付シタラドウカト思ツテ居リマス  
○石坂委員 物品稅中ノ綠茶課稅問題ニ付

御伺ヒ致シタインデアリマスケレドモ、  
只今御列席ノ御當局ノ意見ハ、大體昨日池  
本君トノ質疑應答ニ於テ豫測サレルノデア  
リマスガ、此ノ點ニ付テハ後刻農林大臣御  
出席ノ時ニ讓リタイト思ヒマス

次ニ酒稅法ニ付テ色々御伺ヒ致シタイン  
デアリマスガ、大臣ニ御伺ヒスル點ヲ除キ  
マシテ、一二事務當局ニ御伺ヒ致シタイト  
思ヒマスガ、其ノ第一ハ酒稅法改正後酒造  
組合法ニ依ツテ設立並レル組合ノ組織ニ付  
テデアリマスガ、大體酒稅法ヲ見テ感ゼラ  
ヤウナ意圖デアルガ如ク窺ハレルノデアリ  
マス、サウ致シマスト、從來ノ酒造業者ニ  
對策トシテ、合成酒ヲ獎勵サレルト云フ  
モ燒酎モ同ジク四期ニ納稅スルコトニナツ  
ガ變更ニナツテ居ル點デアリマス、是ハ御  
承知ノ通リニ現行法ニ於キマシテハ、清酒  
モ燒酎モ同ジク四期ニ納稅スルコトニナツ  
テ居ルノガ、今回ノ改正案ニ依リマスト濁  
酒、白酒、味醤及ビ燒酎ダケガ三回ノ納期  
ニ變更サレテ居ルノデアリマス、然ルニ舊  
式ノ燒酎ニ於キマシテハ、大體其ノ蒸餾期  
間ト申シマスノハ十月カラ翌年ノ四月マデ  
デアリマシテ、大體四月マデニ蒸餾ヲ終ル  
ト云フヤウナ狀態ニナツテ居リマス、隨ビ  
ニ、色々ノ資本ノ大小其ノ他ニ依ツテ、相  
當磨擦ガ生ジハシナイカト云フコトガ憂慮  
サレルノデアリマス、隨ヒマシテ酒造組合  
此ノ從來ノ酒造家ト新式燒酎釀造家トノ間  
ウシ、又別ニ新式ノ方法ニ依ル、所謂新式  
燒酎業者ト云フモノガアルノデアリマスガ、  
マシテ全部四月マデニハ査定ヲ終ルノデア  
リマス、ヤハリ此ノ納期ニ付キマシテモ四  
期ニ分ケテ取ツテ戴クト云フコトガ、當業  
者ニ取りマシテハ都合ノ好イコトデアリマ  
ス、斯ウ云フコトニ相成ル譯デアリマシテ、要  
スルニ初ニ申シマシタヤウニ、製品ヲ賣ツ  
テ代金ヲ回收シタ大體推定セラレル時ヨ  
リモ、從來ノ納期ハ餘リニモ待チ過ギテ居  
ツタ、ソレヲ合理的ニ多少修正致ス、斯ウ  
ニ付テ、ドウ云フ方法ヲ御選ビニナル積リ  
デアリマスカ、ソレヲ御尋致シタインデア  
リマス

○田中政府委員 御話ノヤウニ、將來從來  
ノ清酒業者ガ合成清酒方面ニ相當轉換シテ

行ク必要ガアルト考ヘマシテ、其ノ途ヲ開  
イテ居リマス、隨テ從來ノ清酒業者ガ合成  
清酒ヲ造ルト云ソタヤウナ場合ニ、從來ノ  
組合ハ清酒業者バカリデ組織シテ居リマス  
爲ニ、合成清酒業者ガ入ツテ來ルト云フヤ  
ウナ關係ニ相成ルノデアリマスガ、清酒業  
者ガ免許ヲ得テ合成清酒業者ニナツタ場合  
ニ於キマシテモ從來ノ組合關係ハ從來ト同  
様デアリマシテ、特ニ組合ノ機構が變ルト  
云フコトハ考ヘテ居リマセヌ

○石坂委員 酒稅法ニ付テモウ一點御伺致  
シマス、ソレハ燒酎ニ關シテ造石稅ノ納期

ガ變更ニナツテ居ル點デアリマス、是ハ御  
承知ノ通リニ現行法ニ於キマシテハ、清酒  
モ燒酎モ同ジク四期ニ納稅スルコトニナツ  
テ居ルノガ、今回ノ改正案ニ依リマスト濁  
酒、白酒、味醤及ビ燒酎ダケガ三回ノ納期  
ニ變更サレテ居ルノデアリマス、然ルニ舊  
式ノ燒酎ニ於キマシテハ、大體其ノ蒸餾期  
間ト申シマスノハ十月カラ翌年ノ四月マデ  
デアリマシテ、大體四月マデニ蒸餾ヲ終ル  
ト云フヤウナ狀態ニナツテ居リマス、隨ビ  
ニ、色々ノ資本ノ大小其ノ他ニ依ツテ、相  
當磨擦ガ生ジハシナイカト云フコトガ憂慮  
サレルノデアリマス、隨ヒマシテ酒造組合  
此ノ從來ノ酒造家ト新式燒酎釀造家トノ間  
ウシ、又別ニ新式ノ方法ニ依ル、所謂新式  
燒酎業者ト云フモノガアルノデアリマスガ、  
マシテ全部四月マデニハ査定ヲ終ルノデア  
リマス、ヤハリ此ノ納期ニ付キマシテモ四  
期ニ分ケテ取ツテ戴クト云フコトガ、當業  
者ニ取りマシテハ都合ノ好イコトデアリマ  
ス、斯ウ云フコトニ相成ル譯デアリマシテ、要  
スルニ初ニ申シマシタヤウニ、製品ヲ賣ツ  
テ代金ヲ回收シタ大體推定セラレル時ヨ  
リモ、從來ノ納期ハ餘リニモ待チ過ギテ居  
ツタ、ソレヲ合理的ニ多少修正致ス、斯ウ  
ニ付テ、ドウ云フ方法ヲ御選ビニナル積リ  
デアリマスカ、ソレヲ御尋致シタインデア  
リマス

○田中政府委員 御說ノ通り濁酒、白酒、  
味醤、燒酎ト云フヤウナモノニ付キマシテ  
納期ヲ變更致シマシテ、從來四期制ノモノ  
ヲ今回三回ニ致シマシタ、即チ七月、十月、  
スカ、其ノ點ヲ明ニシテ戴キタイ  
ニ付テ、ドウ云フ方法ヲ御選ビニナル積リ  
デアリマスカ、ソレヲ御尋致シタインデア  
リマス

國際上ノ情勢ト云フモノハ極メテ急迫セル  
化ガアツタ場合ニ於テハ、是ハ考ヘナケレ  
バナラヌ、斯ウ云フ御話デアリマス、洵ニ  
尤モデアリマスガ、吾々ヲ見ル所ニ依レバ、  
事態ニアルノデアツテ、隨テ軍事費ノ増大  
或ハ財政上ノ膨脹ト云フコトモ、必ズシモ  
大藏大臣ノ御考ニナツテ居ルヤウナ所デ安  
心シ得ルカドウカト云フコトニ、多大ノ疑  
問ヲ持ツノデアリマス。先程モ海軍大臣カ  
ラモ御意見ヲ伺ツタノデアリマスルガ、是  
ハ本増稅案ヲ審議スル根本ノ點デモアリマ  
スシ、又我ガ國策ヲ決定シテ行ク所ノ根本  
デモアルト思ヒマスノデ、以上二點ニ付テ  
先づ陸軍大臣ノ御意見ヲ伺ヒタイト存ジマ  
ス。

非常ナ變化ガアレバ別デアリマスガ、大體  
今申シマシタ通り、此ノ四五年前ノ國際情勢  
勢ノ見透シヲ致シマシテ、一方ニ於テハ支  
那デ戰ヲシ、又一方ニ於テハ只今御質問ノ  
アリマシタヤウナ國際情勢ニ對應シ得ルト  
云フ見究メヲ付ケテ立テダ計畫デアリマス  
カラ、今後所謂新軍備計畫ガ出來上リマス  
マデハ、大體今ノヤウナ規模デ進ミ得ルノ  
デハナイカト云フ見透シヲ付ケテ居ルノデ  
アリマス

點ニ付テ大臣ハドウ御考ニナリマスカ、ソレカラ第三ハ、昨年貿易省ノ問題ガゴザイマシタガ、此ノ貿易省ノ問題ハ決シテ單ニ卒然トシテ起ツタ問題デハナクシテ、日本ノ經濟上ノ機構ヲ何トカ改メナケレバ、現状ヲ打開スルコトガ出來ナイノデハナカラヌウカト云フ一つノ現レデアツタト思フノアリマス、大臣モ御承知ノヤウニ昨年年度ニ於ケル生産力ハ減退シテ居ルノデアリマス、一方ニ於テ物資ノ不足ハ相當顯著ニナリ、生産力ハ減退シテ來テ居ル、此ノ實情ヲヨシテ、百億ノ豫算ヲヨコ數年間消化シテ行クニ付テハ、戰時態勢ノ上ニ相當ナル考慮ヲ要スルノデハナカラウカト思フノデアリマス、私ノ率直ナル氣持ヲ申上ゲルナラバ、茲ニ政戰兩略ノ基準ヲ、財政經濟ノ實情ト聯合セテ行ク國家最高ノ国防經濟會議ト云ヤウナモノヲ作ツテ、ソコデココ數年間ニ計畫經濟ヲ立テナクテハナラヌ時機ニ到達シテ居ルノデハナカラウカト云フ風ニ考ヘアルノデアリマスガ、私ノ率直ナル意見ヲ申上げテ大臣ノ御意見ヲ承リタイト思ヒマス、○**烟國務大臣**　只今ノ河野君ノ御意見ノ點ハ能ク了解致シマシタ、此ノ國內ノ經濟攤構ト云フ問題ハ、只今大キナ支那事變處理ヲヤツテ居ルニモ拘ラズ——此ノ事變が如何シキナ問題デアリマスガ、現在我國ガ事變處理ヲ遂行シツツアル一面ニ於キマシテ、斯謂計畫經濟ニ依ツテ國力ノ擴充モ飛躍のニ進行シツツアル現況デアリマスカラ、私ハ只今ノ所謂國力ト云フモノハ、ソコノ調敷宜シキヲ得タナラバ、マダノヽ今後永ノ間ノ所謂持久戰ニ堪ヘ得ルモノト考ヘテ居リマス、デアリマスカラ先ニ申上ゲタ通り、甘

ノ力ハ十分ニアルノデアリマスカラ、此ノ前ニ御答致シマシタ通り、所謂國家總動員體制ヲ十分整ヘマシテ——國家總動員體制ト云フコトニナルト、ソコニ相當ノ調整ガ必要ニナツテ來ルカモ知レマヌガ、此ノ國家總動員ト云フ體制ヲ整ヘテ參リマシタナラバ、此ノ事變ヲ處理シ得ルノミナラズ、又事變後ノ所謂國力ノ飛躍ニモ應ズルコトガ出來ルト私ハ確信致シテ居リマス。

○河野委員 大臣ノ御答辯極メテ力強ク感ズルヲデアリマスガ、私ノモウ一度御伺シダイト思フノハ、歐洲大戰當時ニ於ケルノ戰時經濟ノ情勢ヲ見マスルト、英吉利ノ如キ富強ノ國デアリマシテモ、戰爭第三年目ニナルト、物資或ハ船舶、輸送力其ノ他ノ點ニ付テ外ノ力ニ俟ツモノ、所謂第三國ヨリノ輸入力ニ俟ツコトガ極メテ多クナツテ居ルノデアリマス、募集スル公債ニシマシテモ、外債ノ率ガ急激ニ殖エテ居ルコトハ、御存ジノ通リデアリマス、私ノ計數ハ申上ゲマセヌガ、斯ウナルト、私聞ク所デハ、如何ニ充實セル國力ノ國アリツテモ戰爭ノ第三年目ニナリマスト、ドヤジテモ經濟力ノ一應ノ限界點ニ到達スルをシテ傾向ガアル、ソレヲ切抜ケル途ハ國ノ體制ノ整備或ハ國際關係ノ調整、私ニハ其ノニツノ途ナヤウニ考ヘラレルノデアリスガ、我國ノ情勢ヲ見マスト、國際關係係何ニ御考ニナツテ居ルカ、若シ是ガ不可能ナリト致シマスレバ、國內ノ整備ヲ更ニ強化シテ、所謂戰時體制ト云フモノヲ最強度ニシテ行クト云フコト以外ニハナカラウ、

今日甚ダ吾々ハ殘念ニ存ズルノデアリマスルガ、爲政者ガ切實ニ考ヘテ居ル程、國民大衆ノ間ニ戰爭體制強化ノ氣持ガビツタリト來テ居ラナイト、私ハ申上ゲル點ガアルト思ヒマス、是ハドウシテモモツト引緊メテ行カナケレバナラナイト云フ點ガ多分ニアルト思ヒマス、サウ云フ點ニ付テモ陸軍大臣ノ率直ナル所信ヲ承リタイト存ジマス

語弊ガアルカモ知レマセヌガ、此ノ強力ナル統制ニ對應シテ、サウシテ此ノ事變處理ニ邁進シテ參ルト云フ其ノ氣分ハ、私ハ十分アルト確信ヲ致シテ居ルノデアリマス○河野委員長クナリマスカラ、今御質問申上ゲタ點デ、此ノ國際情勢ノ調整ト云フコトニ付テ、ドウ御考ニナツテ居ルカト云フ點ダケノ御答辯ヲ戴イテ、私ハ質問ヲ打ち切リタイト思ヒマス

○畠國務大臣 國際情勢ノコトニ付キマシテハ、モウ政府ノ一貫シタ方針ガゴザイマスノデ、無論此ノ國際情勢ニハ所謂自主獨往ノ方針ヲ以テ參ラナケレバナラヌト思フノデアリマス

○堀切委員長 ソレデハ石坂君

○石坂委員 先刻燒酎稅ノ納期變更ノコトニ關シマシテ、國稅課長ハ合理的ニ變更シタト云フ御説明デアツタノデアリマスガ、ドウモ其ノ御説明ハ納得出來ナイノデアリマス、何故カト申シマスト、先程モ一言致シマシタ通リニ、舊式ノ燒酎蒸溜ハ大體前年ノ十月カラ翌年ノ四月マデニ蒸溜シル、隨テ查定モ終ツテシマフノデアリマスルガ、現行法ニ依リマスト、其ノ殆ド全部ト言ウテモ宜シイ十月ノ一日カラ翌年ノ四月三十日マデニ、査定致シマシタ造石數ニ對スル所ノ稅額ノ四分ノ一ヅツヲ第一期、第二期ニ納メル、第四期モ第三期モ同様ノコトニナツテ居ルヤウデアリマシテ、四期ニ分ケテ緩和サレタ納稅ニナツテ居ツタ、所ガ今回納メル、第四期モ第三期モ同様ノコトニナツテ居ルヤウデアリマシテ、四期ニ分ケテ緩和サレタ納稅ニナツテ居ツタ、所ガ今回

月三十日マデニ査定致シマシタ造石數ノ二  
分ノ一ヅツヲ第一期、第二期ニ納メルノデ  
アリマスカラ、殆ド第一期及ビ第二期デ全  
部納稅シナケレバナラスト云フコトニナル  
ノデアリマス、換言致シマスルト第三期ト  
云フモノハ殆ド有名無實ノヤウニナツテシ  
マフノデハナイカト、私ハ理解シテ居ルノ  
デアリマシテ、此ノ點ハ合理的ノ改正デハ  
ナイト思ヒマス、國稅課長ハ多少ノ苦痛ガ  
納稅者ニアルカモ知レス、斯ウ云フヤウナ  
コトヲ仰シヤツタノデアリマスケレドモ、  
納稅者フ中ニハ、殆ド此ノ變更ハ死活問題  
ダトサヘ言ツテ居ル者サヘアルノデアリマ  
ス、ドウモ合理的ノ改正トハ思ハレナイノ  
デアリマスガ、重ネテ之ニ關スル御所見ヲ  
承リタイト思ヒマス

メル、此ノ四割ト云フノガ先程アナタノ仰  
セニナツタ四月マデニ、全部造ルト致シマ  
スト、殆ド五割ニナルデヤナイカト云フ點  
デアリマシテ、議論アスレバ議論ノ餘地ハ  
アル問題ト思ヒマスガ、全國ノ平均デハ四  
月以後ニ造ルモノモアリマシテ、七月ノ納  
期ニハ四割三分四厘ヲ納メルコトニナル、  
所デソレマデニ賣ツテ居ル焼酎ハ幾ラカト  
云ヘバ、六月末ヲ押ヘマシテ七割六厘既ニ  
庫出シシテ居ル譯デアリマス、隨ヒマシテ  
既ニ金ヲ取ツテ七割賣ツテ居ルモノニ對シ  
テ、四割三分四厘ノ納稅ト云フコトハ理窟  
ニ合ツテ居ルノデハナイカト思フ、第二期  
ニ付テモ同様デアリマシテ、十月ノ前ノ九  
月末日ヲ押ヘテ、既ニ約九割ノ庫出ラシテ  
居ル、之ニ對シテ納稅額ハ八割六分六厘ト  
云フコトニナル、ソレカラ翌年二月ノ第三  
期、是ハ申上ゲマセヌシタガ、之ニ付テ  
ハ二月ヲ以テ最後ト致シマスカラ、ココデ  
一〇〇%ノ納稅ト云フコトニナリマスガ、庫  
出ノ方ハ多少持越ガアリマスカラ、九割六  
分九厘ト云フモノガ其ノ一ト月前ニ庫出ガ  
濟ンデ居ルト云フコトニナル、從來ノ四期  
納稅ノ下ニ於キマシテモ、最終納稅期デア  
ル翌年三月末ニモ庫出セヌモノガ多少アリ  
マシテ、納稅一〇〇%、庫出九割何分ト云フ  
狀態ハ從來モアツタノデアリマス、ソレカラ  
スラスウ云フコトニスルコトハ、只今申上ゲ  
タ數字デモ決シテ不合理デハナイト云フコ  
トハ御諒承願ヘルト思ヒマスガ、併シ兎モ  
角モ納稅者ガ從來ニ比シテ或ル程度ノ打擊ヲ  
受ケルコトハ事實デアリマシテ、ソレガ現在  
ノ燒酎業界ノ實情カラ見テ、非常ニ耐エ得ナ  
イ程度カドウカト云フ問題デアルト思ヒマ  
スガ、ソレニ對シマシテハ最近業界ハ統制其

ノ他色々ノ關係ニ依リマシテ好況デアリマシテ、此ノ程度ノ税金ガ早マリマシテモ、ソレニ依リマシテ非常ナ苦痛ヲ受ケルヤウナコトハナイ、斯様ニ考ヘテ居ル次第アリマス。

○石坂委員 残餘ノ質問ハ大臣ノ御出席後ニ承リタイト思ヒマス。

○堀切委員長 承知致シマシタ、ソレデハ河野君

○河野委員 私ハ大臣ニ承ルダケデスカラ……

○堀切委員長 宜シウゴザイマス。

○立川委員 此ノ際事務的ノコトデ一言……

○立川委員 甚ダ「プリミチーブ」ナ質問カモ知レマセヌガ、法人税ノ第十四條ハ、是ハ第四條トノ關聯ガアルノグラウト思フノデスガ、ドウ云フ意味デセウカ、一寸御説明ヲ願ヒマス。

○田中政府委員 是ハ四條トノ關聯ニ於テノ御質問ダト思ヒマスガ、四條ノ第二項ニ於キマシテ「法人ガ各事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ法人税及臨時利得税ハ前項ノ所得ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ」トアリマシテ、十四條ノ方ニハ「法人ノ各事業年度分ノ臨時利得税額ハ當該事業年度ノ所得金額ヨリ之ヲ控除ス」トアリマス、兩者ノ關聯ニ付テノ御質問ダト思ヒマスガ、四條ノ第二項ノ方ハ、從來法人ニ付キマシテヘ、御承知ノヤウニ納メタ所得税ナリ、臨時利得税ヲ損ト見テ居ツタ、ソレヲ今度ハ損ニ見ナイ、斯ウ云フ規定デゴザイマス、所デ其ノ損ニ見ナイ税金ハ何カト云フト、各事業年度ニ於テ納付シタモノ、或ハ納付スベキモノ、之ヲ謂フノデアリマシテ、其ノ法人

税ナリ臨時利得税ハ、其ノ事業年度ニ課カルモノデハナイ、其ノ事業年度以前ノ、前期ノ分デアリマス、前期ノ分ノ税金ハ損ニ見ナイト云フコトヲ、第四條ノ第二項ニ掲ゲテ居ルノデアリマス、併シ第十四條ノ方ニ於キマシテハ、其ノ事業年度ノ臨時利得税額ハ、當該事業年度ノ所得金額ヨリ之ヲ控除スルト云フノデアリマシテ、或ル一ツノ事業年度ニ於テ其ノ益金ガ百万圓ナラ百萬圓トシマシテ、ソレニ對シテ臨時利得税ガ十万圓ナラ十万圓課カルトスレバ、法人税ハ其ノ十万圓ヲ控除シタアトノ九十萬圓ヲ課税標準トシテ課税スルト云フ譯デアリマシテ、何レノ方モ臨時利得税ノ關係ガアリマスガ、四條ノ方ノ臨時利得税ハ前期ノ臨時利得税、十四條ノ方ノ臨時利得税ハ其ノ期分ノ純益ヲ基礎トシテ課カル臨時利得税デアリマス、第十四條ハ左様ナ意味ニ於テ臨時利得税ヲ控除シタアトヲ、法人税ノ課税標準トスルト云フノデアリマスガ、是ハ要スルニ臨時利得税ハ異常ノ利得ニ對スル異常ノ課税デゴザイマスカラ、其ノ分ヲ差引イタアトノ残額ヲ、課税標準トシテ法人税ヲ課スルト云フ趣旨デゴザイマス。

○立川委員 第九條ハ是ハ本條トハ關係ガアリマスガ、九條ノ第一項ハ積立金ノ定義デアリマスガ、其ノ第二項ニ於テ法人税及ビ臨時利得税トシテ納付スベキ金額ハ前項ノ留保シタル金額ニハ之ヲ算入セズ」ト云フ規定ヲ設ケタノデアリマスガ、是ハ十四條ニアリマス臨時利得税ト同ジヤウナ意味デアリマシテ、法人ガ或ル期ニ利益ヲ得テソレニ對シテ負擔スベキ法人税、或ハ臨時利得税ト云フモノハ、其ノ期ノ利益カラ

見ナイト云フコトヲ、第四條ノ第二項ニ掲ゲテ居ルノデアリマス、併シ第十四條ノ方ニ於キマシテハ、其ノ事業年度ノ臨時利得税額ハ、當該事業年度ノ所得金額ヨリ之ヲ控除スルト云フノデアリマス、或ル一ツノ事業年度ニ於テ其ノ益金ガ、勿論計算上ノ金デゴザイマスガ、殘ツテ居ル譯デス、ソレハ從來ノ解釋ニ依リマスルト、第一項ダケデ行キマスト、法人ノ各事業年度ノ所得中、其ノ留保シタルモノハ名義ノ何タルヲ問ハズ、積立金ニナリマスルノデ、ソレヲ積立金カラ除外スル趣旨ニ於テ、此ノ九條ノ第二項ヲ置イタ譯デアリマス。

○堀切委員長 ソレデハ北君事務的ノ質問ガアレバ……

○北委員 事務的ノ質問ヲシテ置キタトイ思ヒマス、特別法人税ハ正式ノ認可ヲ受ケナイ團體、詰リ消費組合等ニアリマスガ、是ハ購買事業ヲヤツテモ非課税ニナツテ居ル、此ノ分ニ對シテハ區域モ決ツテ居ナイノデアリマスシ、政府ノ監督モ受ケヌ、極メテ自由ナモノデアリマス、殊ニ先日内務大臣ハ下級官吏ノ爲ニ消費組合ヲ作ツテ、其ノ生活ノ脅威ヲ免レサセルヤウニスルノダ、斯ウ云ツテ居ラレルノデアリマスガ、是等ハ全部非課税ニナルノデアリマス、官吏以外ノ中産以下ノ人達モサウナルト、ドシノ申合セ團體ノ消費組合ヲ作ツテ、サウシテ法規ニ示サレタル購買組合ノ仕事ニ代ルコトニナル、ソレニハ課税モ出来ヌシ、監督モガアル、申合セ團體デスカラ、出資ガアルカナイカ分ル筈ガナイ、實際ニ於テハ購買組合ト變ル所ガナイ、ダカラ變ナコトニナリマスルガ、法ニ從ツタモノハ課税サレ、アリマスルガ、此ノ點ニ付テ當局ノ御考ヲ

納メテ戴クト云フ建前ニ直シマシタガ、實際シタ税額ヲ納メマスルニハ、其ノ間決算不權衡デハナイカト云フ御質問デゴザイマス、其ノ間ハ會社ニ其ノ金ガ、勿論計算上ノ金デゴザイマスガ、殘ツテ居ル譯デス、ソレハ從來ノ解釋ニ依リマスルト、第一項ダケデ行キマスト、法人ノ各事業年度ノ所得中、其ノ留保シタルモノハ名義ノ何タルヲ問ハズ、積立金ニナリマスルノデ、ソレヲ積立金カラ除外スル趣旨ニ於テ、此ノ九條ノ第二項ヲ置イタ譯デアリマス。

○北委員 法規ニ據ラザルモノハ出資ガナニ、剩餘金ガ出マシタモノヲ出資ニ對シテ配當セズ、事業ノ分量ニ對シテ配當スルト云フコトニナリマスレバ、他ノ組合ト同ジヤウニ、剩餘金ガ出マシタモノヲ出資ニ對シテ配當セズ、事業ノ分量ニ對シテ配當スルト云フコトニナリマスレバ、他ノ組合ト同ジヤウニ全然課税ニナラヌ譯デゴザイマスカラ、サウ云フ點ハ不權衡ハナイト考ヘマス。

○北委員 法規ニ據ラザルモノハ出資ガナニ、剩餘金ガ出マシタモノヲ出資ニ對シテ配當セズ、事業ノ分量ニ對シテ配當スルト云フコトニナリマスレバ、他ノ組合ト同ジヤウニ全然課税ニナラヌ譯デゴザイマスカラ、サウ云フ點ハ不權衡ハナイト考ヘマス。

○山田政府委員 消費組合ノ中デ特別法人ニ屬シマスルモノハ課税ニナリマシテ、サウニ付テ置キタトイ思フノデアリマス。

○山田政府委員 消費組合ノ中デ特別法人ニ屬シマスルモノハ課税ニナリマシテ、サウニ付テ置キタトイ思フノデアリマス。

○山田政府委員 消費組合ガ課税ニナラナイノハ、其ノ間決算不權衡デハナイカト云フ御質問デゴザイマス、其ノ間ハ會社ニ其ノ金ガ、勿論計算上ノ金デゴザイマスガ、殘ツテ居ル譯デス、ソレハ從來ノ解釋ニ依リマスルト、第一項ダケデ行キマスト、法人ノ各事業年度ノ所得中、其ノ留保シタルモノハ名義ノ何タルヲ問ハズ、積立金ニナリマスルノデ、ソレヲ積立金カラ除外スル趣旨ニ於テ、此ノ九條ノ第二項ヲ置イタ譯デアリマス。

○山田政府委員 消費組合ガ課税ニナリマシテ、サウ云フ申合セ組合ガ勝手ナ時ニ出來ル、當シテ居ル、解散ナンカ勝手ナ時ニ出來ル、積立金モ何時テモ分配出來ル、變通自在ナモノデアル、當局ノ御考ニ少シ間違ヒノ點ガアル、申合セ團體デスカラ、出資ガアルカナイカ分ル筈ガナイ、實際ニ於テハ購買組合ト變ル所ガナイ、ダカラ變ナコトニナリマスルガ、法ニ從ツタモノハ課税サレ、アリマスルガ、此ノ點ニ付テ當局ノ御考ヲ

ヤウナ組織ノ下ニ、同ジヤウナ仕事ヲヤツ  
テ居ル、サウ云フ場合ニ於キマシテモ、サ  
ウ云フモノハ法人格ガナイノデアリマスカ  
ラ、特別法人課税ノ對象ニハナリ得ナイト  
考ヘルノデアリマス、之ニ對シマシテ、デ  
ハソレヲ放任シテ置クカ、ソレハ別ノ觀點  
カラサウ云フモノニ對シテハ、適當ナル取  
締ヲ爲スペキデアラウト考ヘマス、併シ課  
稅ト云フ點カラ申シマスト、若シサウ云フ  
モノガ事實上或ル出資ヲシマシテ、ソレニ  
對シテ儲ケラシテ居ルト云フコトニナリマ  
スレバ、ソレハ特別法人トシテデハナク、  
其ノ人ノ所得トシテ普通ノ分類所得稅ガ掛  
カルコトニナル譯デアリマス、唯法人デア  
リマセヌ爲ニ、特別法人稅ハ課カリマセ  
ス、併シサウ云フモノヲ出資シテ受ケル所  
ノ利益ニ對シマシテハ、普通ノ課稅ヲ致ス  
コトニナル譯デアリマス

○北委員 利益ヲ受ケタ者ニ課稅サレルノ  
ハ、是ハ當然ノコトデアリマス、ダカラソ  
シナコドハ理由ニナラナイト思フノデアリ  
マズ、併シ次ノ問題ニ移ツテ行カウト思ヒ  
マス

當局ハ特別法人ニ對シテ輕微ナ課稅ヲシ  
テ居ルト云フ工合ニ御考ニナツテ、サウ云  
フ工合ノ御答辯ヲナサツテ居ルノデアリマ  
スガ、是ハ今ノ程度デアリマスナラバ、私  
ハ輕微デナイト思フ、ナゼサウ言フカト云  
フト、營利會社ハ利益ガアツタ場合ニ、全  
部配當シナイデ、社内積立ヲスルノデアリ  
マス、又役職員ノ賞與ニシテシマフ、所ガ  
營利會社ノ重役達ハ株ヲ澤山持ツテ居ル人  
達デアリマスカラ、ソコデ社内留保或ハ賞  
與ヲ受ケレバ、ソレデ株ノ値上リヲ受ケタ  
リ直接ノ利益ヲ受ケタリスルコトガ出來ル

ノデアリマスガ、産業組合其ノ他ノ組合ハ、  
モ加入ガ出来、何時モ脱退ガ出来ル、サ  
ウ云フヤウナモノデアリマスカラ、隨テ此  
ノ出資ノ値上リト云フモノハナイ、斯ウ云  
フヤウナ關係ガアルノデアリマシテ、百分  
ノ九ダカラシテ輕イト云フコトデハナイ  
ト思フ、其ノ重イ輕イト云フ所カラ云ヘ  
バ寧ロ營利會社ノ方ガ輕イ、組合ハ斯ウ云フ  
ヤウナ株ノ値上リモ賞與ヲドツサリヤルト  
云フヤウナコトハ許シハシマセヌ、役員モ  
産業組合側デハ株ヲ澤山持ツテ居ラナイカラ  
ズ、ソレモ出來ナイト云フヤウナコトニナ  
ルノデアリマシテ、輕微ナ課稅ト當局ガ考  
ヘテ居ラレルノハ、大變ナ間違ヒデアリマ  
ス、産業組合ノ如キハ否各種組合ハ皆サウ  
デスガ、一人一票ノ選舉デアリマスカラ、理  
事者ハ必ずシモ餘計株ヲ持ツタ人ガナル譯  
デハナイ、餘計出資ヲシタ人ガナル譯デハ  
ナイノデアリマシテ、サウ云フ點カラ色々  
考ヘテ見マスト、是ハ輕微ナモノデハナ  
イ、斯ウ考ヘルノデアリマスガ、當局ノ御  
意見ヲ承リタイト思ヒマス

○大矢政府委員 今ノ御話ハ株ノ値上リト  
カ、出資ノ値上リト云フコトデゴザイマス  
ガ、是ハ會社或ハ産業組合ノ特別ノ法人ノ  
問題デハナクテ、其ノ出資者或ハ株主個人  
ノ問題ダト思フノデアリマス、隨ヒマシテ  
特別ノ法人ニ對シテ、特別ノ法人稅ヲ課稅  
シテ然ルベキヤ否ヤト云フ場合ニハ、別ニ  
其ノ株主ガ出資ノ値上リニ依ツテ利益ヲ得  
ルヤ否ヤト云フ見地トハ、自ラ別ノ見地デ  
檢討スペキモノカト存ジマス

○北委員 併シ株ノ大量所有者ト會社ノ重  
役トハ、一致シテ居ルト云フヤウナ場合ガ

多イノデアリマスカラ、必ズシモ當局ノ考  
ヘラレルヤウナモノデハナイ、私ハ非常ニコ  
性質ガ違フト思フノデアリマス、次ニ私ガ  
御伺シタインヘ、産業組合ハ農業倉庫ヲ經  
營シテ居ルノデアリマスガ、私ハ日本全  
國ノ統計ハ知リマセヌガ、北海道方面ノコ  
トデ言ヒマスト、農業倉庫ノ設備費ニ組合  
ノ拂込済ノ出資金全額ニ近イモノヲ使ツテ  
居ル、是ハ何モ儲ル仕事デハナイ、本當ノ  
國策デアル米穀政策ニ殉ズル爲ニ、所謂  
米ノ「プール」ヲ捨ヘテ居ルノデアリマス  
スカラ、ソコデ農業倉庫業其ノモノカラハ  
ウ云フヤウナ關係ノモノデアリマスガ、ソ  
レニシテモ多少ノ剩餘金ハ出マス、組合ハ  
其ノ方面ニ金ヲ掛けシマツテ居ルモノデア  
リマス、ソコデ農業倉庫業其ノモノカラハ  
利益ガ出テ來ルノデアリマス、此ノ剩餘金  
ガ出タ場合ニハ、農業倉庫ニ對シテ非課稅  
ガ原則ノ筈デアリマスカラ、産業組合ノ剩  
餘金ノ中ニ農業倉庫ノ剩餘金ガ混ツテ出ル  
場合ニハ、剩餘金處分ノ時ニ内農業倉庫ノ  
剩餘金幾ラト云フ工合ニシテ、之ヲ控除サ  
レル御考ガアルカドウカ、是ハ農會デ農業  
倉庫ヲ經營シタ場合ハ非課稅、産業組合ガ  
同ジク經營シタ時ニハ、其剩餘金ニ對シテ  
課稅サレルト云フコトニナルト、農業倉庫  
ニ對スル免稅ノ主意ニ對シテ、大變不公平  
ナコトニナルト、斯ウ思フノデアリマス  
○大矢政府委員 農會ハ公共團體デアリマ  
スカラ、是ニハ課稅致シマセヌ、産業組合  
ハ農會ト違フ性質ヲ有スル特別ノ法人デア  
リマス、隨ヒマシテ其ノ剩餘金ノ發生原因  
ハ何處ニアリマシテモ、組合剩餘金トシテ  
殘ル以上ハ、普通ニ課稅シテ然ルベキト存  
ズル次第デアリマス

農會ガ農業倉庫ヲ經營シタ場合ノ御説明ヲ致シマシタガ、御質問ハ或ハ其ノ他ノ團體ガ、農業倉庫ヲ經營シタ場合ニモ、非課税ニナツテ居ルデハナイカ、然ルニソレヲ産業組合ガ經營シタラ課税ニナルノデナイカ、サウ云フ御質問デハナイカト思フノデアリマス、御説ノ通りサウ云フ場合ニ於キマシテハ、一應ハ法規上形式上ハ不權衡ニナリマスケレドモ、然ラバ實際産業組合ガ農業ヲ經營シタ場合ニ於テ、事實課税ニナルカト言ヒマスト、特別法人稅ハ出資シタ拂込金額三分以下ノ剩餘金ノ場合ニ於キマシテハ、課税ニナリマセヌカラ、農業倉庫ヲ經營シテ居リマス所ノ産業組合ハ、吾々ノ調査シマシタ所ニ依リマスト、大體三分以下ノ剩餘金ヲ出シテ居リマシテ、其ノ規定ニ依リマシテハ事實上ハ免稅ニナルト思ヒマス○北委員 大變ナ認識ノ不足デアリマシテ組合ハ兩方ヲ經營シマスガ爲ニ、農業倉庫ノ經營ヲシテ居ル方ヨリモ、他ノ事業分量ガ多イ所ニ於キマシテハ、是ハ相當剩餘金ガ出ル、其ノ場合ニ産業組合ノ經營シテ居ル農業倉庫ノ分ダケニ課稅サレルト云フヤウニナルト、非常ニ不公平ニナリマス○山田政府委員 若シサウ云フ場合デアリマスト、却テ反對ニ特別法人稅ノ出資金ト云フモノハ、相當ノ部分ガ農業倉庫ノ方ニ行ツテ居リマス爲ニ、外ノ方ニ出マス所ノ剩餘金モ、其ノ農業倉庫ニ出資サレ居ルモノノ剩餘金ト通算サレマス爲ニ、普通ナラバ三分以上デ課稅サレルベキモノモ、其ノ特別法人ガ農業倉庫ヲ經營シテ居リマス爲ニ、全體ノ出資金ニ對シテハ三分以下トナリマシテ、外ノ方ノ剩餘金ニモ課稅サレナイノデ、却テ有利ニナルノデハナイカト

考へテ居リマス

○北委員 私ハ實際農業倉庫モ經營致シテ

居ルシ、產業組合モ經營シテ居リマスノデ、  
ソンナ御答辯デハ承服ハ出來ナイ、大變ナ  
間違ヒデアリマスカラソコハ一ツ能ク考へ  
直シテ戴キタイ

○大矢政府委員 先程御答シテ置キマシタ  
質上是ハ課稅シナインデアリマス、假令農

業倉庫カラ利益ガ生ジマシテモ、公共團體

體ガ經營シテ居ル場合ニハ、公共團體ノ性質

上カラ課稅シナイ、產業組合等ノ特

別法人ハ、是ハ普通ノ營利會社ト違ヒマス

カラ本質ニ顧ミマシテ、產業組合法等ニ於

キマシテ、法人稅、營業稅ノ課稅ヲ致サナ

イノヲ原則トシテ居リマスルガ、臨時當分

ノ間、或程度ノ負擔ヲシテ戴クト云フ趣旨

デアリマシテ、多少町村、或ハ農會ト云フ

公共團體トハ性質ノ違フ所ガアル、ソコニ

此ノ兩者ノ課稅、非課稅ノ岐レル根據ガア

ルト存ズルノデアリマス

○北委員 米ノ問題ノ解決ノ爲ニ、實ハ國

策トシテ農業倉庫ハ、ドンヽ建テサセナ

ケレバナラナイ、今年モ農業倉庫ガ食糧問

題ノ爲ニ、今度ノ米ノ問題ノ爲ニ大キナ働

キヲシテ居ルノデアリマスガ、是ハ實際ハ

國家ガ當然ヤラナケレバナラナイ仕事デス、

ソレヲ産業組合側デ此ノ仕事ヲヤツテ居ル

シテ、モウソレハ新築シナイヤウニナツテ

スルト云フコトニナルト、産業組合ハ此ノ

仕事、即チ農業倉庫ノ建築ト云フコトニ對

シテ、モウソレハ新築シナイヤウニナツテ

シマウ、恐ラクハ國策上大變ナ翻斷ヲ來タ

ンナ工合ニ差別待遇ヲシテ、公共團體ノ經營ナルガ故ニ免稅スル、サウデナイカラ課

稅スルト云フヤウ大性質ノモノデハナイト思ヒマス、ダカラ剩餘金ガ出タ、其ノ剩餘

金ニ對シテ内農業倉庫剩餘金何程トシテ之ヲ引ケバ宜イ、簡單ナコトデ解決ガ付ク、

是ハ一ツ御考直シヲ願ヒタイト思ヒマス

其ノ次ハ產業組合ニ課稅シテモ、先程ノ御説明ノ通り都市ノ消費組合、或ハ官廳、工

場は等ノ所デヤツテ居ル消費組合、申合セ團體斯ウ云フヤウナモノハ課稅ノ對象物ニ

ナラヌノデアリマス、モウ一ツ都市ニ事務所ヲ持ツテ、非常ニ活潑ナ仕事ヲシテ居ツテ

世間カラ幾ラカ妬マレテ居ル所ノ產業組合ハ又殆ンド課稅ノ對象物ニナラス、ナゼカ

ト云フト、系統機關デアルガ故ニ、貯金ヲ預カツテ居ル、其ノ貯金デ公債ヲドツサリ

持ツテ居ル、是ガ爲ニ課稅ノ對象物ニナラス

ヌノデス、ソコデ今度ノ產業組合ノ課稅問題デモ、中央ノ連中ハ非常ニ眠ツテ居ル、

俺等ハ課稅サレナインダト涼イ顔ヲシテ居ル、サウスルト主トシテ課稅ヲ受ケルモノハ、町村單位ノ組合ナノデス、市街地信用組合モアリマスガ、ソレハ極メテ少ナイ、

○北委員 信用ト云フヤウナ仕事ヲヤツテ居ルノデアリマスガ、是ハ實際ハ

國家ガ當然ヤラナケレバナラナイ仕事デス、ソレガ課稅サレルコトニナルト、

ソレヲ産業組合側デ此ノ仕事ヲヤツテ居ル

シテ、モウソレハ新築シナイヤウニナツテ

スルト云フコトニナルト、産業組合ハ此ノ

仕事、即チ農業倉庫ノ建築ト云フコトニ對

シテ、モウソレハ新築シナイヤウニナツテ

スルト云フコトニナルト、産業組合ハ此ノ

仕事、

員ニ賣ル場合ニ、若シモ安ク賣ルト云フト、他ノ中小商人トノ間ニ摩擦ガ起ルノデ、サウ云フ譯ニ行カナイ、一寸普通ノ商人ノヤウニ高ク賣ツテ、サウシテ剩餘金ヲ納メテ、サ他ノ生産擴充ニ必要ナ方面ニ投資ヲシテ居ルノダ、斯ウ云フ御話デゴザイマスケレドモ、是ハ一體私ハドウ云フモノカト考ヘマス、寧ロ產業組合自體カラ言ヒマスト、他品物ヲ買ツテ、ソレヲ成ベク組合ニ剩餘金ヲ残サズニ、安ク組合員ニ賣ルト云フコトガ、產業組合ノ本來ノ性質ダト思フノデアリマシテ、寧ロ今御話ニナツタヤウナモノハ産業組合ノ本質ニ副ハナイ、何カ皆同シテ一つ利益ヲ得テ、サウシテ新シク仕事ヲショウト、斯ウ云フヤウナ目的ノヤウニ聞エマスノデ、ソレデハ産業組合本來ノ使命ニ寧ロ反スルコトニナルデハナカラウカ、唯普通ノ中小商人トノ間ニ摩擦ト云フコトハ、是ハ相當アルノデアリマシテ、隨テ此ノ點ハ産業組合ノ扱フ品物ヲ、ドウ云フ物ニスルカト云フヤウナコトガ、一ツノ大キナ問題トシテ残ルノデアリマスガ、其ノ問題サヘ解決スレバ、寧ロ産業組合等ハ剩餘金ヲ残サズニ、成ベク他カラ品物ヲ買ツテ組合員ニ配給スル場合ニハ安クスル、組合ニハ剩餘金ヲ残サヌヤウニスル、假令残ツテモ、ソレハ事業ノ分量ニ應ジテ分配スルト云フノガ、産業組合本來ノ性質ニ副ヘモノデハナカラウカ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス

○北委員 只今ノ御答辯ハドウモ大變間違フモノデハナカラウカ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居ラレルヤウデアリマス、此ノ信用組合聯合會等ニ課稅ニナラスト云フコトハ、是ハ其ノ途ノ専門家ガスツカリ調べテ居ルは、又將來ハ背負ハサレル、ダカラ課稅ニナラナイト安心シテ居リマス、是ハ國債ヲ背負フ關係カラ云ツテ、サウ云フコトガ出テ來ルト思フノデアリマス、ソレカラ聯合會ノ販賣事業ハ皆赤字デス、デスカラ、之ノ方カラ剩餘金ガ出テ來ナイ、聯合會ノ購買事業ハドウカト云フト、若シサウ云フヤウナ剩餘金ガ残ルノデアルトスルナラバ、是ヲ構成シテ居ル產業組合ガ承知セヌ、サウシテ卸値ヲ成ベク安クサセテ課稅スル餘地ガナイ位ニシテ、自分等ノ所ニ安イ物ヲ持ツテ來ヨウト云フコトニナルカラ、是ハ將來稅金ガ取レナイト云フコトニナル、ソレカラ各農村產業組合ノ方デスガ購買品デ剩餘金ヲ出しテ、サウシテ其ノ剩餘金ハ他ヘ使フ、斯ウ云フ場合モ考ヘラレルト云フコトデスガ、サウデハナイ、剩餘金ハ全ク各事業共通デス、購買、販賣、利用、信用ト云フモノハ皆共通デアリマスカラ、何處ニ利益ガアツカ分ラナイ、一遍剩餘金ヲ出シテカラ使フノデハナイ、茲ニ何カ御考辯ヒノ點ガアリマス、ソレカラ産業組合ガ原價販賣ヲスルノハ、ソレガ本質ダ、斯ウ言ハレル、ソレハサウデス、間違ヒナイ、ダガ併シ最近中小商人トノ關係カラ、社會的摩擦ヲ起シテモイカヌト云フノデ、産業組合ハ非常ニ自肅シテ、吾々ハヤリタクナイケレドモ仕方ナシ市價主義デヤツテヤラウ、斯ウ云フ工合ニシテ居ル、之ヲ若シ原價主義デヤリマシタラ、ソレハ大變ナ問題ガ起リマス、全ク期待ニ反シタコトニナル、使命ニ反スルト云フノガ、産業組合本來ノ性質ニ副

フ、又將來ハ背負ハサレル、ダカラ課稅ニナラナイト安心シテ居リマス、是ハ國債ヲ背負フ關係カラ云ツテ、サウ云フコトガ出テ來ルト思フノデアリマス、ソレカラ聯合會ノ販賣事業ハ皆赤字デス、デスカラ、之ノ方カラ剩餘金ガ出テ來ナイ、聯合會ノ購買事業ハドウカト云フト、若シサウ云フヤウナ剩餘金ガ残ルノデアルトスルナラバ、是ヲ構成シテ居ル產業組合ガ承知セヌ、サウシテ卸値ヲ成ベク安クサセテ課稅スル餘地ガナイ位ニシテ、自分等ノ所ニ安イ物ヲ持ツテ來ヨウト云フコトニナルカラ、是ハ將來稅金ガ取レナイト云フコトニナル、ソレカラ各農村產業組合ノ方デスガ購買品デ剩餘金ヲ出しテ、サウシテ其ノ剩餘金ハ他ヘ使フ、斯ウ云フ場合モ考ヘラレルト云フコトデスガ、サウデハナイ、剩餘金ハ全ク各事業共通デス、購買、販賣、利用、信用ト云フモノハ皆共通デアリマスカラ、何處ニ利益ガアツカ分ラナイ、一遍剩餘金ヲ出シテカラ使フノデハナイ、茲ニ何カ御考辯ヒノ點ガアリマス、ソレカラ産業組合ガ原價販賣ヲスルノハ、ソレガ本質ダ、斯ウ言ハレル、ソレハサウデス、間違ヒナイ、ダガ併シ最近中小商人トノ關係カラ、社會的摩擦ヲ起シテモイカヌト云フノデ、産業組合ハ非常ニ自肅シテ、吾々ハヤリタクナイケレドモ仕方ナシ市價主義デヤツテヤラウ、斯ウ云フ工合ニシテ居ル、之ヲ若シ原價主義デヤリマシタラ、ソレハ大變ナ問題ガ起リマス、全ク期待ニ反シタコトニナル、使命ニ反スルト云フノガ、産業組合本來ノ性質ニ副

ヘテ居ラレルヤウデアリマス、此ノ信用組合聯合會等ニ課稅ニナラスト云フコトハ、是ハ其ノ途ノ専門家ガスツカリ調べテ居ルケレドモ、成ベク摩擦ヲサセナイト云フ遠慮カラ來テ居ルノデアリマス、態、使命ニリマシタラ、ソレハ大變ナ問題ガ起リマス、反シテ儲ケヲ取ツテ居ルト云フノデハナイ、ソテ利鞘モ取ラナイデ、組合員ニ安ク供給スルト云フノガ、産業組合本來ノ使命ダトドウカ此ノ精神ノ在ル所ヲ能ク御考置キヲ

願ヒタイト思ヒマス、次ニ農村ノ產業組合ハ區域ガアリマス、農村ノ單位組合ト云フモノハ總テ區域ガアル、同ジ町村内ノ人デナケレバ加入スルコトガ出來ナイ、サウシテ居ルト思フノデアリマス、ソレカラ聯合會ノ販賣事業ハ皆赤字デス、デスカラ、之ノ方カラ剩餘金ガ出テ來ナイ、聯合會ノ購買事業ハドウカト云フト、若シサウ云フヤウナ剩餘金ガ残ルノデアルトスルナラバ、是ヲ構成シテ居ル產業組合ガ承知セヌ、サウシテ卸値ヲ成ベク安クサセテ課稅スル餘地ガナイ位ニシテ、自分等ノ所ニ安イ物ヲ持ツテ來ヨウト云フコトニナルカラ、是ハ將來稅金ガ取レナイト云フコトニナル、ソレカラ各農村產業組合ノ方デスガ購買品デ剩餘金ヲ出しテ、サウシテ其ノ剩餘金ハ他ヘ使フ、斯ウ云フ場合モ考ヘラレルト云フコトデスガ、サウデハナイ、剩餘金ハ全ク各事業共通デス、購買、販賣、利用、信用ト云フモノハ皆共通デアリマスカラ、何處ニ利益ガアツカ分ラナイ、一遍剩餘金ヲ出シテカラ使フノデハナイ、茲ニ何カ御考辯ヒノ點ガアリマス、ソレカラ産業組合ガ原價販賣ヲスルノハ、ソレガ本質ダ、斯ウ言ハレル、ソレハサウデス、間違ヒナイ、ダガ併シ最近中小商人トノ關係カラ、社會的摩擦ヲ起シテモイカヌト云フノデ、産業組合ハ非常ニ自肅シテ、吾々ハヤリタクナイケレドモ仕方ナシ市價主義デヤツテヤラウ、斯ウ云フ工合ニシテ居ル、之ヲ若シ原價主義デヤリマシタラ、ソレハ大變ナ問題ガ起リマス、全ク期待ニ反シタコトニナル、使命ニ反スルト云フノガ、産業組合本來ノ性質ニ副

ヘテ居ラレルヤウデアリマス、此ノ信用組合聯合會等ニ課稅ニナラスト云フコトハ、是ハ其ノ途ノ専門家ガスツカリ調べテ居ルケレドモ、成ベク摩擦ヲサセナイト云フ遠慮カラ來テ居ルノデアリマス、態、使命ニリマシタラ、ソレハ大變ナ問題ガ起リマス、反シテ儲ケヲ取ツテ居ルト云フノデハナイ、ソテ利鞘モ取ラナイデ、組合員ニ安ク供給スルト云フノガ、産業組合本來ノ使命ダトドウカ此ノ精神ノ在ル所ヲ能ク御考置キヲ

午後五時二十分開會

○堀切委員長 ソレデハ本議場ノ都合ニ依ダト思フノデアリマス、併シ購買組合等ニ於テ、他カラ品物ヲ買ツテ組合員ニ安ク賣リ方ヲスルト云フナラ、私ハ何ゾ爲ニ産業組合ガ組織サレタノダカ、意味ガ薄クナ

午後四時休憩

資ヲシテ居ルト云フノハ、大體御説ノ通りダト思フノデアリマス、併シ購買組合等ニ於テ、他カラ品物ヲ買ツテ組合員ニ安ク賣リ方ヲスルト云フナラ、私ハ何ゾ爲ニ産業組合ガ組織サレタノダカ、意味ガ薄クナ

リマシテ、コチラハ休憩致シマス、決議ガスルノハナカラウカト思フノデアリマス、ソニナルノガ當リ前デ、チツトモ差支ナイ、マスカラ、若シモサウ云フモノガナクナツタ

セヌ、出資ノ分量ニ應ジテ分配スルモノニ、ソコニ擔稅力アリト見テ課稅スルノデアリマスカラ、若シモサウ云フモノガナクナツタ

スウ云フ風ニ考ヘテ居リマス

○石坂委員 私ハ農林大臣ニ對シマシテ二

三伺ツテ見タイト存ジマス、第一ハ特別法

人稅ニ付テアリマス、特別法人稅ノ内容ニ付キマシテハ、是ハ本會議以來多數ノ諸

君ガ色々ノ角度カラ質疑應答ヲ重ネラレタ  
ノデアリマシテ、殊ニ之ニ關シテ産業組合  
ニ對スル課稅問題ハ非常ナ問題トナツテ  
參ツテ居ルノデアリマシテ、之ニ關スル  
種々ノ論議ハ大部分盡サレタト申シテモ宜  
シカラウト思ヒマス唯私ガ特ニ農林大臣ニ  
對シマシテ、此ノ特別法人稅ニ付テ御質  
疑ヲ致シタイト存ジマスルノハ、斯様ニ論  
議サレテ居ル特別法人稅ニ對シテ、農林大  
臣ハドウ御考ニナルカ、端的ニ申シマスト、  
一應此ノ特別法人稅案ハ、御撤回ニナツタ  
ラ如何ナモノデアラウカト云フコトニ付テ  
ノ御意思デアリマス、此ノ提案ノ理由ヲ見  
マスト、時局ニ鑑ミ當分ノ中應分ノ負擔ヲ爲  
サシメルト云フコトガ提案ノ理由ニナツテ  
居ルヤウデアリマス、サウシテ當分ノ中ト云  
マス、此ノ點ニ對スル農林大臣ノ御所見ヲ  
承ツテ見タイノデアリマス

○島田國務大臣 只今石坂君ノ御質問ノ點  
ハ、先般石井君ノ御質問ノ際ニ御答ヲ致シ  
タ次第デアリマスガ、今回ノ稅制改革ニ當  
リマシテハ、事變下ニ於ケル事情ニ鑑ミ、  
負擔ノ出來ル者ハ有ニル者ガ負擔ヲスル、  
斯ウ云フ精神カラ致シマシテ、原案ガ出來  
テ居ルノデアリマシテ、即チ産業組合ノ  
デアリマスルガ、先般石井君ノ質問ニ對シ  
マシテ、大藏大臣ハ、兎ニ角支那事變ト云  
フコトデナシニ、將來此ノ課稅ヲヌスデモ  
宜シイヤウナ狀態ニナルマデノコトダト、  
ト見テモ宜イヤウナ答辯ニヤウニ見エルノ  
デアリマス、尙ホ時局ニ鑑ミト云フコトニ  
テ居リマスルケレドモ、實際ハ是ハ恆久的  
スウ云フ風ノ御答辯デアルヤウデアル、サ  
ウ致シマスト提案理由ニハ當分ノ中トナツ  
テ居リマスルケレドモ、今申上ゲタヤウナ事情カラ  
シテ、之ニ對シテモ多少ノ負擔ヲサセルコ  
トが然ルベキデアル、斯ウ云フ意味デ提案  
サレタノデアリマシテ、即チ當分ノ内ト云  
フ意味ヲ以テ、此ノ出來テ居ル原案ニ對  
シテ、農林大臣トシテ同意シタ譯デアリマ  
ス、隨テ將來減稅ヲ爲スト云フヤウナ機會  
マス者ハ、時局ニ對スル認識ガナイト云フ  
風ニモ考ヘラレルノデアリマシテ、此ノ點  
提案理由ダケデモ當局ガ如何ニ苦心ヲシテ  
提案サレタカト云フコトハ窺ハレルノデア  
リマス、而モ之ニ依ツテ得ラレル所ノ稅額  
ト云フモノハ百五十五万圓、大藏大臣ハ再々  
此ノ反對的御意見ニ對シマシテハ、產業組合

合關係ノ諸君モ、能ク之ヲ理解シテ協力シ  
テ下サルモノト思フト云フ御答辯デアリマ  
シタガ、可ナリノ反對ガアルヤウデアリマ  
スカラ、僅カ百五十万圓程度ノ稅收ヲ舉ゲ  
ル爲ニ、色々反對ヲ生ゼシムルヨリモ、產  
業組合ト云フヤウナ特別ノ法人ハ、他ノ立  
場カラト他ノ方法ニ於テ、時局ニ協力セシム  
ルヤウナ方法ヲ講ゼシムルヤウニシテ、寧  
ロ之ニ課稅スル特別法人稅ハ撤回サレタ方  
ガ適當デハナイカ、斯様ニ考ヘルノデアリ  
マス、此ノ點ニ對スル農林大臣ノ御所見ヲ  
承ツテ見タイノデアリマス

○石坂委員 委員長ニ伺ヒマスガ農林大臣  
ハモウ暫ク宜シウゴザイマセウカ  
○堀切委員長 宜シウゴザイマス、成ベク  
シタガ、可ナリノ反對ガアルヤウデアリマ  
スカラ、僅カ百五十万圓程度ノ稅收ヲ舉ゲ  
ル爲ニ、色々反對ヲ生ゼシムルヨリモ、產  
業組合ト云フヤウナ特別ノ法人ハ、他ノ立  
場カラト他ノ方法ニ於テ、時局ニ協力セシム  
ルヤウナ方法ヲ講ゼシムルヤウニシテ、寧  
ロ之ニ課稅スル特別法人稅ハ撤回サレタ方  
ガ適當デハナイカ、斯様ニ考ヘルノデアリ  
マス、此ノ點ニ對スル農林大臣ノ御所見ヲ  
承ツテ見タイノデアリマス

○島田國務大臣 中小產業者、殊ニ商人ト  
産業組合トノ間ニ於ケル色々ナ摩擦ト云フ  
ヤウナ事柄ニ付キマシテハ、是ハ出來ル限  
スカラ、僅カ百五十万圓程度ノ稅收ヲ舉ゲ  
ル爲ニ、色々反對ヲ生ゼシムルヨリモ、產  
業組合ト云フヤウナ特別ノ法人ハ、他ノ立  
場カラト他ノ方法ニ於テ、時局ニ協力セシム  
ルヤウナ方法ヲ講ゼシムルヤウニシテ、寧  
ロ之ニ課稅スル特別法人稅ハ撤回サレタ方  
ガ適當デハナイカ、斯様ニ考ヘルノデアリ  
マス、此ノ點ニ對スル農林大臣ノ御所見ヲ  
承ツテ見タイノデアリマス

○石坂委員 委員長ニ伺ヒマスガ農林大臣  
ハモウ暫ク宜シウゴザイマセウカ  
○堀切委員長 宜シウゴザイマス、成ベク  
シタガ、可ナリノ反對ガアルヤウデアリマ  
スカラ、僅カ百五十万圓程度ノ稅收ヲ舉ゲ  
ル爲ニ、色々反對ヲ生ゼシムルヨリモ、產  
業組合ト云フヤウナ特別ノ法人ハ、他ノ立  
場カラト他ノ方法ニ於テ、時局ニ協力セシム  
ルヤウナ方法ヲ講ゼシムルヤウニシテ、寧  
ロ之ニ課稅スル特別法人稅ハ撤回サレタ方  
ガ適當デハナイカ、斯様ニ考ヘルノデアリ  
マス、此ノ點ニ對スル農林大臣ノ御所見ヲ  
承ツテ見タイノデアリマス

○島田國務大臣 中小產業者、殊ニ商人ト  
産業組合トノ間ニ於ケル色々ナ摩擦ト云フ  
ヤウナ事柄ニ付キマシテハ、是ハ出來ル限  
スカラ、僅カ百五十万圓程度ノ稅收ヲ舉ゲ  
ル爲ニ、色々反對ヲ生ゼシムルヨリモ、產  
業組合ト云フヤウナ特別ノ法人ハ、他ノ立  
場カラト他ノ方法ニ於テ、時局ニ協力セシム  
ルヤウナ方法ヲ講ゼシムルヤウニシテ、寧  
ロ之ニ課稅スル特別法人稅ハ撤回サレタ方  
ガ適當デハナイカ、斯様ニ考ヘルノデアリ  
マス、此ノ點ニ對スル農林大臣ノ御所見ヲ  
承ツテ見タイノデアリマス

○石坂委員 委員長ニ伺ヒマスガ農林大臣  
ハモウ暫ク宜シウゴザイマセウカ  
○堀切委員長 宜シウゴザイマス、成ベク  
シタガ、可ナリノ反對ガアルヤウデアリマ  
スカラ、僅カ百五十万圓程度ノ稅收ヲ舉ゲ  
ル爲ニ、色々反對ヲ生ゼシムルヨリモ、產  
業組合ト云フヤウナ特別ノ法人ハ、他ノ立  
場カラト他ノ方法ニ於テ、時局ニ協力セシム  
ルヤウナ方法ヲ講ゼシムルヤウニシテ、寧  
ロ之ニ課稅スル特別法人稅ハ撤回サレタ方  
ガ適當デハナイカ、斯様ニ考ヘルノデアリ  
マス、此ノ點ニ對スル農林大臣ノ御所見ヲ  
承ツテ見タイノデアリマス

○島田國務大臣 中小產業者、殊ニ商人ト  
産業組合トノ間ニ於ケル色々ナ摩擦ト云フ  
ヤウナ事柄ニ付キマシテハ、是ハ出來ル限  
スカラ、僅カ百五十万圓程度ノ稅收ヲ舉ゲ  
ル爲ニ、色々反對ヲ生ゼシムルヨリモ、產  
業組合ト云フヤウナ特別ノ法人ハ、他ノ立  
場カラト他ノ方法ニ於テ、時局ニ協力セシム  
ルヤウナ方法ヲ講ゼシムルヤウニシテ、寧  
ロ之ニ課稅スル特別法人稅ハ撤回サレタ方  
ガ適當デハナイカ、斯様ニ考ヘルノデアリ  
マス、此ノ點ニ對スル農林大臣ノ御所見ヲ  
承ツテ見タイノデアリマス

ト、御承知ノ通リニ全國ノ農家戸數五百五  
十万、其ノ中ニ五反未満ノ所謂五反百姓ト  
言フベキ戸數ハ、實ニ二百五十五万戸ニア  
ツテ居ルノデアリマス、是ハ農林省ノ昭和  
十二年度ノ調査ニ依ツテサウナツテ居ル、  
是等ノ人ニ對シマシテ乙種事業所得トシテ  
課稅サレルコトニナリマスガ、其ノ基礎控  
除四百圓、百分ノ七・五ノ稅率ヲ以テ課稅サ  
レルコトニナツテ居リマス、然ルニ是等ノ  
人ノ他ノ方面ノ負擔ヲ見マスルト、今回ノ  
稅革案ニ依リマシテモ、地方稅トシテ尙ホ  
自轉車稅ト云フヤウナモノガ課稅サレ  
ル、或ハ荷車稅、更ニ市町村民稅ト云  
フヤウナモノモ課稅サレルノデアリマス、  
尙ホ又消費稅ノ増徵ト云フコトニナツ  
テ參ルノデアリマシテ、或ル方面ノ調  
査ニ依リマスト、今回ノ稅制改革案ニ依ツ  
テ間接稅、消費稅ノ增額ハ、現在ノ消費  
稅額ニ比較致シマシテ、實ニ四圓七・十四錢  
ノ增加ニナツテ居ルト云フ調査ガアルノデ  
アリマス、是ハ農家戸數三百三十六戸カニ  
付キマシテ、所得平均七百四十七圓ヲ基準  
トシタ兵庫縣下ニ於ケル調査デアルノデア  
リマスガ、一戸平均ノ間接稅ノ負擔ハ可ナ  
リ增加致シテ参リマス、尙ホ又小作料ガ物  
納制ヲ採ツテ居リマス、而シテ米、雜穀等ノ  
値上りノ結果ハ、著シク小作料ノ  
増嵩ヲ來シテ居ルト云フ結果ニ相成ツテ居  
ルノデアリマス、之ヲ要シマスニ、日本農  
家ノ約半分デアル所ノ五反未満ノ小サイ農  
家ニ對シマシテ、今日ノ状態ニ於テ消費稅  
ノ增加ニ依ル負擔ノ増加、小作料其ノ他ノ  
負擔ノ増加ト云フヤウナコトニ依リマシテ、  
事變下農村ニ可ナリ重イ負擔ヲ來ス結果ニ  
ナルノデアリマス、ソコデ左様ナ狀態ニ於  
テ

ケル稅制改革案ヲ、農山漁村ノ立場カラ考  
ヘマシテ、今少シク緩和スル必要ガアルデ  
アリハシナイカ、斯ウ云フコトニ付テ農林  
大臣ノ御意見ヲ承リタインデアリマス  
○森委員 一寸關聯シテ、只今石坂君ヨ  
リ、事業所得中農民ニ關スルコトニ付テノ  
質疑ガアツタノデアリマスガ、私ハ更ニ之  
ニ附加ヘテ、營業トノ比較ヲ考ヘテ見タ  
イ、營業稅ノ場合ニ於テハ四百圓ヲ控  
除シタモノニ對シテ百分ノ一・五課稅スル  
地租ノ方ニナリマスト、控除ハ全クナク  
テ、サウシテ少クモ賃貸價格ノ百分ノ二ヲ  
課稅スル、斯ウ云フコトニナツテ居リマス、  
第一ノ國稅ノ始まりカラ其處ニ非常チ差ガ  
アル、ゾレニ更ニ事業所得ニ至ツテ只今ノ  
ヤウナ違ヒガアルノデアル、不動產所得ニ  
付シテモ、亦同様百圓ニ満タザルモノハ課  
稅セズ、若シ百一圓ニナレバ其ノ一圓ニマ  
デモ課稅ヲスル、斯ウ云フ態度ヲ執ル、然ル  
ニ只今石坂君ヨリ申述ベタ二百五十五戸ノ  
耕地所有者ト云フモノ、其ノ中ニハ小作ニ  
付シテ居ル人モアリ、自作シテ居ル人モ  
アリマス、併シ小作ニ付シテ、ソレダケテ  
細ナル點ニ付テハ御答ヲスルデアラウ、  
又シタラウト考ニマスガ、農林當局トシテ  
ハ、只今前ニ御答ヲ致シマシタ特別法人稅  
ノコトニ付テモ、之ヲ農林省ダケノ建前カ  
ラ申シマスト、多少ノ意見ヲ持ツテ居ルノ  
デアリマスケレドモ、此ノ系統立ツタ  
稅ノ改革案ノ場合ニ於テハ、是等ノ點ニ付  
テハ原案ヲ以テ行久コトガ已ムヲ得ナイモ  
ノデアル、斯様ニ考ヘテ此ノ提案ニ同意ヲ  
シタ次第デアリマスカラ、其ノ點ダケノ大  
體ノ御答ヲ致シマシテ、詳細ナ率等ノ事柄  
ニ付テハ、大藏當局ニ對シテ十分御質疑ヲ  
スツテ戴キタイト思フノデアリマス

ニ併セテ、私ノ申述ベルコトニ對シテモ、  
政府ノ御考ヲ御述下サルユトヲ希望致シマ  
ス  
○島田國務大臣 是等ノ點ニ付テハ大藏當  
局ヨリ既ニ十分御答辯ヲ申上ゲタコトト考  
ヘルノデアリマスガ、只今御話ノ地租ト營業  
稅ノ關係、又所得ニ付テ基礎控除額ノ點ト  
云フヤウナ事柄ニ付テ、各種ノ方面カラ農  
村ノ負擔ト農民以外ノ人々ノ負擔、斯ウ云  
ドモ、今回ノ廣汎ニ瓦ル稅制ノ大改革ノ際  
ニ於キマシテ、是等ノ點ニ付テモ相當考慮  
サレタコトデアラウト思ヒマスガ、之ヲ前  
内閣ニ於テ立案ヲシテ、サウシテ今回此ノ  
議會ニ新内閣ガ之ヲ繼承シテ提案シタル所  
以ハ、大體ニ於テ此ノ稅ノ改革案ヲ認メ  
ル、之ヲ以テ行クコトガ此ノ場合ニ於テ適  
當デアル、斯ウ云フ點カラシテ立案ヲシタ  
次第デアリマシテ、是等ノ立案者ニ於テ詳  
細ナル點ニ付テハ御答ヲスルデアラウ、  
又シタラウト考ニマスガ、農林當局トシテ  
ハ、只今前ニ御答ヲ致シマシタ特別法人稅  
ノコトニ付テモ、之ヲ農林省ダケノ建前カ  
ラ申シマスト、多少ノ意見ヲ持ツテ居ルノ  
デアリマスケレドモ、此ノ系統立ツタ  
稅ノ改革案ノ場合ニ於テハ、是等ノ點ニ付  
テハ原案ヲ以テ行久コトガ已ムヲ得ナイモ  
ノデアル、斯様ニ考ヘテ此ノ提案ニ同意ヲ  
シタ次第デアリマスカラ、其ノ點ダケノ大  
體ノ御答ヲ致シマシテ、詳細ナ率等ノ事柄  
ニ付テハ、大藏當局ニ對シテ十分御質疑ヲ  
スツテ戴キタイト思フノデアリマス

ニ併セテ、私ノ申述ベルコトニ對シテモ、  
政府ノ御考ヲ御述下サルユトヲ希望致シマ  
ス  
○島田國務大臣 御趣意ハ能ク了解致シテ  
居リマスケレドモ、徵稅者ノ立場ノ方カラ  
法律ヲ立テテ行クヤウナ場合ニ於キマシテ、  
所謂控除額ト云ツタヤウナモノニ付テハ、  
其ノ稅ノ建前カラ是ハ考ヘルノデアリマシ  
ツテ居ルノデアリマス、私共ノ申シマスコ  
トニ對シテハ、御不同意ハナイ筈ト思ヒマ  
スガ、モウ一度私ハ農林大臣ノ本當ノ御意  
ノ將來ニ付テハ考ヘナケレバナラヌ時デア  
リマス、斯ウ云フ場合ニ農林省トシテ、斯  
ガ、百姓ナルガ故ニソレ以下ノ金デ以テ生  
活ガ出來ルト御考ニナルコトハアルマイト  
思フ、サウ云フ關係カラ言ツテ、殊ニ今日  
ニニ結論トシテ出ルデアラウト思フ、ケレ  
ドモ、今回ノ廣汎ニ瓦ル稅制ノ大改革ノ際  
ニ於キマシテ、是等ノ點ニ付テモ相當考慮  
サレタコトデアラウト思ヒマスガ、之ヲ前  
内閣ニ於テ立案ヲシテ、サウシテ今回此ノ  
議會ニ新内閣ガ之ヲ繼承シテ提案シタル所  
以ハ、大體ニ於テ此ノ稅ノ改革案ヲ認メ  
ル、之ヲ以テ行クコトガ此ノ場合ニ於テ適  
當デアル、斯ウ云フ點カラシテ立案ヲシタ  
次第デアリマシテ、是等ノ立案者ニ於テ詳  
細ナル點ニ付テハ御答ヲスルデアラウ、  
又シタラウト考ニマスガ、農林當局トシテ  
ハ、只今前ニ御答ヲ致シマシタ特別法人稅  
ノコトニ付テモ、之ヲ農林省ダケノ建前カ  
ラ申シマスト、多少ノ意見ヲ持ツテ居ルノ  
デアリマスケレドモ、此ノ系統立ツタ  
稅ノ改革案ノ場合ニ於テハ、是等ノ點ニ付  
テハ原案ヲ以テ行久コトガ已ムヲ得ナイモ  
ノデアル、斯様ニ考ヘテ此ノ提案ニ同意ヲ  
シタ次第デアリマスカラ、其ノ點ダケノ大  
體ノ御答ヲ致シマシテ、詳細ナ率等ノ事柄  
ニ付テハ、大藏當局ニ對シテ十分御質疑ヲ  
スツテ戴キタイト思フノデアリマス

ニ併セテ、私ノ申述ベルコトニ對シテモ、  
政府ノ御考ヲ御述下サルユトヲ希望致シマ  
ス  
○石坂委員 事變下ニ於ケル農業生產確保  
林大臣トシテハ十分ニ御考下サルベキモ  
考ヘテ居ルト云フコトヲ御諒承ノ願ヒマス  
ト云フ立場カラ、特ニ農村ノ事情ガオ分リ  
ナルベキ農林大臣ト致シマシテハ、特ニ

農村負擔ノ問題ニ付キマシテハ、一層思ヲ致サレンコトヲ希望致スノデアリマス、オ急ギニナツテ居ルヤウデアリマスカラ、極ク簡潔ニ申シマスガ、先ヅニツダケ農林大臣ニ御伺致シタインデアリマス、其ノ一ツハ綠茶課稅ノ問題デアリマス、此ノ問題ニ付キマシテモ、大藏當局トノ間ニハ度々質疑應答ガ重ネラレマシタ、昨日モ池本君ト大藏當局トノ間ニ色々御議論ガゴザイマシタガ、私モ此ノ物品稅中ノ綠茶課稅ノ問題ニ對シマシテ、昨年議會ニ於テ削除シタフニ、更ニ之ヲ提案サレタト云フ此ノ點、及び茶ガ國民ノ保健衛生上極メテ重要性ヲ持ツテ居ルト云フ點、更ニ内地ノ全部、日本ノ國產的生產品デアル、材料ヲ輸入ニ仰イダモノデナシニ、純然タル國產的生產品アツテ、可ナリノ輸出貿易ニナツテ居ルト云ファウナ、斯ウ云フ點カラシテ、茶ノ生産ト云フ點ハドウシテモ是ハ忽セニシテハナラナイコトデアルノデアリマス、隨ヒマシテ此ノ點ニ付キマシテ別途農林當局ニハ御懇ヘシタイト存ジテ居ルコトガアリマスガ、此ノ課稅ノ適否ニ付テノ問題デアリマス、斯ウ云フ風ニ申上ゲマスト又農林大臣ハソレハ稅ノ立場カラ他ノ關係ト同様ニシヤルカモ知レマセヌケレドモ、是ハ茶ニ依ツテ得ラレル金額ハ、大藏當局ノ御説明稍高級品デハアリマスケレドモ、此ノ課稅ト云フモノガ直ニ生産ニ影響スルト云フコトハ、容易ニ知ルベキデアリマス、現ニ昨年紅茶ノ課稅ガ實施サレマシテカラ、今

日マデ著シク紅茶ノ生産ガ減ツテ居リマス、現ニ紅茶製造機械ナド賣却シヨウトシテ居ル人サヘアルト云フヤウニ聞イテ居リマスカラ、更ニ綠茶ニ課稅サレルト云フコトデナリマセヌ、隨ヒマシテ斯様ナ見地カラ一貫目十圓程度ノ綠茶ニ課稅フシテ、而モ當局ハ七十萬圓見込ンダト言ハレマスケレドモ、池本君ナドノ計算ニ依ルト三十萬圓モナイ、斯ル僅カナ稅收ヲ舉ゲル爲ニ、直チニ綠茶ノ生産ニ影響スルト云フヤウナコトデアリマスカラ、斯ウ云フヤウナコトモ農林當局ノ立場カラ、更ニ大藏當局トモウ一過御話合ヲ戴キマシテ、之ヲ削除セラレルコトガ適當デハナイノデアリマセウカ、之ニ付テノ農林大臣ノ御所見ヲ伺ヒタインデアリマス。

○島田國務大臣 農產物ニ對シテ稅ヲ課ケル、斯ウ云フコトハ茶バカリデハアリマセヌ、サウ云フ意味カラ云ヘバ、ソレハ課力ナラニイコトデアルノデアリマス、隨ヒマシテ此ノ點ニ付キマシテ別途農林當局ニハ御懇トハ、是ハ論ハナイコトデアリマス、併シナガラ私ハ既ニ申上ゲタヤウニ、特別法人トシテ產組ニ對シテ當分ノ内トハ言ヒナガラ、稅ヲ課ケルコトモ已ムヲ得ナイ、斯ウ云フ考ヲ以テ此ノ稅案ニ贊成同意ラシテ居ル次第アリマス、只今ノ綠茶ニ對スル稅ノ立場カラ大藏當局ニ同意シタノダト仰ナオ、然ルニ成程一貫目十圓ト申シマストナオ、高級品デハアリマスケレドモ、此ノ課稅ト云フモノガ、根柢ニ據ヲ來スノデハナカラウカト、斯ウ思フノデアリマス、私ハ增稅ヲ主張シタリ贊成スルト云フノデナシニ、稅ノ改革ヲ爲シテ、其ノ機會ニ於テ相當ノ國

庫ノ收入ヲ圖ル、斯ウ云フ建前カラ根本的ニ全面ニ亘ツテ、殊ニ地方ノ分與稅マデモ計畫シテヤル、斯ウ云フヤウナ場合ニ於テ

ハ、斯様ナ事柄ニ付テモ、唯農林省タケノ立場ダケカラ云ヘバ遺憾デアルト、斯ウ云フ風ニ言ハネバナラヌ事柄デモ已ムヲ得ナイモノデアル、斯ウ自分ハ考ヘテ居ルト云フコトヲ——後ノ御質問モ或ハサウ云フコトデアルカモ知レマセヌガ、若シサウデアレバ、農林省ハ此ノ稅案ニ對シテハ已ムヲ得ザルコトデ、大體ニ於テ同意シタ、斯ウ云フコトヲ申上ゲテ置ク次第アリマス。

○石坂委員 稅ノ問題ニ付キマシテハ、今農林大臣カラ特ニ御注意モアツタヤウナコトモアリマスガ、是以上農林大臣ニハ御尋致シマセヌ、唯一ツ酒稅法ニ關係致シマシテ、無水「アルコール」ノ原料トシテノ甘諸値上ニ付テノ點ニアリマス此ノ點モ農林大臣疾クニ御承知ノコトニ付キマシテ、農家ハ無水「アルコール」ノ原料トシテノ甘諸ヲ供出致シテ居リマス、然ルニボウシテモ今日ノ所生甘諸十錢、干甘諸三十二錢デ、價格ガ安イト云フコトデ農家ハ非常ニ困ツテ居ル、而モドウシテモ供出シナケレバナラヌト云フ關係カラ、現在甘諸ヲ作ツテ居ラナイ農家ニマデ割當テル、甚シイノハ一向ニ農業ヲシテ居ラナイ家庭ニマデモ割當テ供出セシ付キマシテモ、増產ノ上ニ付キマシテハ、相當ナル獎勵ノ意味ニ於ケル處置ラシタイ、斯様ニ考ヘテ居ル次第アリマス。

○堀切委員長 ソレデハ石坂君ノ農林大臣ニ對スル質問ハ是デ濟ミマシタ、ソレデハ石坂君ト河野君ト大藏大臣ニ對スル質問ガ残ツテ居リマスガ、短イ方カラ先ニ簡單ニ許シマスガ（河野委員「私ノハ簡単デス」ト呼フ）——ソレデハ河野君

甘諸ノ買上價格ヲ上げテ戴キタイ、斯ウ云

マスカラ極メテ簡單ニ御質疑申上ゲマス、

石坂君ト河野君ト大藏大臣ニ對スル質問ガ致シマシテ、此ノ原料ノ價格ノ引上、集荷

場所ノ増設、此ノ價格ノ統制、更ニ現實ニ

甘諸ノ作付反別ニ依ル所ノ割當、斯ウ云フヤウナコトニ付テ御配慮ニ預カリタイト云ニ對スル質問ハ是デ濟ミマシタ、ソレデハ石坂君ト河野君ト大藏大臣ニハユックリト質問ヲ致シタイト

甘諸ノ作付反別ニ依ル所ノ割當、斯ウ云フヤウナコトニ付テ御配慮ニ預カリタイト云

ニ對スル質問ハ是デ濟ミマシタ、ソレデハ石坂君ト河野君ト大藏大臣ニ對スル質問ガ

残ツテ居リマスガ、短イ方カラ先ニ簡單ニ許シマスガ（河野委員「私ノハ簡単デス」ト

呼フ）——ソレデハ河野君

甘諸ノ買上價格ヲ上げテ戴キタイ、斯ウ云

マスカラ極メテ簡單ニ御質疑申上ゲマス、

石坂君ト河野君ト大藏大臣ニ對スル質問ガ

致シマシテ、此ノ原料ノ價格ノ引上、集荷

場所ノ増設、此ノ價格ノ統制、更ニ現實ニ

甘諸ノ作付反別ニ依ル所ノ割當、斯ウ云フ

ヤウナコトニ付テ御配慮ニ預カリタイト云

ニ對スル質問ハ是デ濟ミマシタ、ソレデハ

石坂君ト河野君ト大藏大臣ニ對スル質問ガ

致シマシテ、此ノ原料ノ價格ノ引上、集荷

場所ノ増設、此ノ價格ノ統制、更ニ現實ニ





ル事想をマス、隨ヒマシテ部分的ニ於テハ、片方ハ非常ニ上ガ方ノ割合ガ多クナル、片方

ハ上ガ方ノ割合ガ少イト云フコトニナツテ居ル部分モ、ソレハナイトハ私モ思ヒマシタノデ、此ノ度ノ稅制改正ニ於キマシテハ、今申シマスル通り順ヲ追ウテ上ノ方ニ向ツテ多く取ル、斯ウ云フコトニナリマシタノデ、左程不都合ナ點ハナイト思ツテ居ルノデアリマス

○河野委員 大藏大臣ハ誤解シテ居ラレルノデスガ、サウヂヤナインデス、千圓程度ノ者ニハ三倍六分ノ増徵ニナツテ居リマス、是ハ上ノ方ガ金額ヲ餘計出スカラスウ云フコトヲ問題ニシテ居ルノデナクテ、増徵率ガ今度ハ急激ニ下ノ方ガ上ツテ居ル、之ヲ大藏大臣ハドウ御考ニナルカ、中央、地方ヲ通ジテ戸數割ノ點ヲ計算ニ入レレバ更ニは強クナル、此ノ點ヲ大藏大臣トシテハドウ御考ニナツテ居ルノデアルカ、私ハ下ノ方ヲ下ゲロトカ云フコトヲ今議論シテ居ルノデハナ、之ニ付テハ何カノ考慮ガナリ、是ハ強クナル、此ノ點ヲ大藏大臣トシテハケレバナラヌモノデハナカラウカ、斯ウ云

○櫻内國務大臣 今御話ノ點ハ度々申シマス通り、下ノ方ノ部分ニ付キマシテハ、所謂家族控除デアルトカ、色々ナ控除ノ方法ヲ講ジマシテ、サウシテ極ク低イ所ニ付キマシテハ比較的上タテ居リマセス、併シナガラニ三百圓程度カラ上ニ行キマスト、今マヂノ税率ニ較ベマスト、増徵サレタ割合ノ程度ハ或ル部分多く上ツテ居ル所ガアルカモ知レマセス、併シナガラ是ハ稅ノ累進ニナツテ行ク順序ハ所謂急角「カーヴ」デナタシテ、普通ノ角度ニ依ツテ進シテ居ルノデアリマシテ、左程ニ不適當トハ考ヘマセ

家ガ、尙ホ是ノ詳シヨコトニ付キマシテハ、向ツテ多ク取ル、斯ウ云フコトニナリマシタノデ、左程不都合ナ點ハナイト思ツテ居ルノデアリマス

コトニナツテ、累進ノ角度ハ漸次急激ノモ、トナツテ來ルノデアリマス、例ヘバ所得

○太矢政府委員 此ノ度ノ稅制改正前後ニ於ケル所得稅ニ付キマシテノ稅額ヲ比較致シマスト、現在ノ負擔額ニ對スル增徵割合ハ所謂金額千圓トカ千五百圓トカ、比較的小額所得者ノ負擔が重クシテ、五千圓トカ一万圓トカ、ソレ以上ノ所得者ニ對スル負擔ノ增加割合ハ比較的少イノデハナイカト云フ御尋カト存ジマスガ、ソレハ大體御説ノ通りニナツテ居ルト思ヒマス、是ハ實ハ從來ノ稅制ニ依ル增徵ガ現在トシテ全ク行詰リノ状況ニ達シテ居リマシテ、ドウシテモ此ノ際新タル工夫ヲ凝ラナケレバナラス、新ナル方針ノ下ニ再び出發シナケレバイケナイト云フ事情ガ根柢ニアルノデアリマシテ、一ツ其ノコトヲ御諒解願ヒタイト存ズルノデアリマス、現行ノ稅制ノ彈力性喪失ノ第一ノ原因トシテハ、何トシテモ直接國稅ノ中権デアル所ノ所得稅ノ彈力性ガ失ハレテ居ルト云フコトヲ御諒解願ヒタイレバナリマセス、而シテ所得稅ノ彈力性ノ喪失ノ最モ重要ナル原因ハ、現行ノ所得稅ニ於キマシテハ小額所得者ニ對スル負擔ガソレ自體トシテハ必ズシモ重イモノトハナリマス、是等兩者ニ對シテ從來行ハレテ來タヤウナ同一ノ割合ノ增徵ヲ行コトガモスル負擔が既ニ相當重クナツテ居ルノデアリマス、是等兩者ニ對シテ從來行ハレテ來タヤウナ同一ノ割合ノ增徵ヲ行コトガモスル負擔が既ニ相當重クナツテ來居ル、是ガ根柢ニ横ハツテ居ルノデアリマス、ナゼ斯ル狀態ヲ生ジタカト其ノ原因ヲ考ヘテ見マスト、第三種所得稅ノ累進稅率ノ如キヲ、同一ノ割合ノ増徵ヲ行フ時ハ低キモノハ上ル歩合モ低ク、高イモノハ上ル歩合モ高イト云フ

シテ戴キタイ

○河野委員 大體議論ハ分ツテ居ルノデス、今度ノ稅ノ增徵ハ大體下層ヲ狙ツテ居ルト云フコトヲ御認ニナツテ下サレバソレ

ニ對スル稅率ハ百分ノ〇・八デアリマスカ

ラ、ソレガ百分ノ一・六トナルニ止マルニ對

税ノ基本稅率ニ對シマシテ一律ニ十割ノ増徵ヲ行フシマスト、千二百圓以下ノ所得

ニ對スル稅率ハ百分ノ

〇太矢政府委員 ソレデハ簡略ニ致シマス、

サウ云フ風ニ致シマシテ、マダ所得稅ノ稅率

ガ比較的低イ中ハ高額所得者ニ對スル稅率

ヲグンノ引上ガ行ケタノデアリマスガ、

昭和十二年ノ臨時租稅增徵法ノ時ヲ限界ト

シテ、多額所得者ノ負擔ハ現行法ノ如キ機構ノ下ニ於テハモウ行付ク所ニ行キ盡シタ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對シマシテ、

後者ハ百分ノ百八トナルノデアリマシテ、又

六ハ百分ノ七十二トナルノデアリマス、又

ニ二十割増徵ヲ行フトシマスト、前者ハ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對シマシテ、

後者ハ百分ノ百八トナルノデアリマシテ、又

六ハ百分ノ七十二トナルノデアリマス、又

ニ二十割増徵ヲ行フトシマスト、前者ハ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對

シテ戴キタイ

ス、今度ノ稅ノ增徵ハ大體下層ヲ狙ツテ居

ルト云フコトヲ御認ニナツテ下サレバソレ

ニ對スル稅率ハ百分ノ

〇太矢政府委員 ソレデハ簡略ニ致シマス、

サウ云フ風ニ致シマシテ、マダ所得稅ノ稅率

ガ比較的低イ中ハ高額所得者ニ對スル稅率

ヲグンノ引上ガ行ケタノデアリマスガ、

昭和十二年ノ臨時租稅增徵法ノ時ヲ限界ト

シテ、多額所得者ノ負擔ハ現行法ノ如キ機構ノ下ニ於テハモウ行付ク所ニ行キ盡シタ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對シマシテ、

後者ハ百分ノ百八トナルノデアリマシテ、又

六ハ百分ノ七十二トナルノデアリマス、又

ニ二十割増徵ヲ行フトシマスト、前者ハ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對

シテ戴キタイ

ス、今度ノ稅ノ增徵ハ大體下層ヲ狙ツテ居

ルト云フコトヲ御認ニナツテ下サレバソレ

ニ對スル稅率ハ百分ノ

〇太矢政府委員 ソレデハ簡略ニ致シマス、

サウ云フ風ニ致シマシテ、マダ所得稅ノ稅率

ガ比較的低イ中ハ高額所得者ニ對スル稅率

ヲグンノ引上ガ行ケタノデアリマスガ、

昭和十二年ノ臨時租稅增徵法ノ時ヲ限界ト

シテ、多額所得者ノ負擔ハ現行法ノ如キ機構ノ下ニ於テハモウ行付ク所ニ行キ盡シタ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對シマシテ、

後者ハ百分ノ百八トナルノデアリマシテ、又

六ハ百分ノ七十二トナルノデアリマス、又

ニ二十割増徵ヲ行フトシマスト、前者ハ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對

シテ戴キタイ

ス、今度ノ稅ノ增徵ハ大體下層ヲ狙ツテ居

ルト云フコトヲ御認ニナツテ下サレバソレ

ニ對スル稅率ハ百分ノ

〇太矢政府委員 ソレデハ簡略ニ致シマス、

サウ云フ風ニ致シマシテ、マダ所得稅ノ稅率

ガ比較的低イ中ハ高額所得者ニ對スル稅率

ヲグンノ引上ガ行ケタノデアリマスガ、

昭和十二年ノ臨時租稅增徵法ノ時ヲ限界ト

シテ、多額所得者ノ負擔ハ現行法ノ如キ機構ノ下ニ於テハモウ行付ク所ニ行キ盡シタ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對シマシテ、

後者ハ百分ノ百八トナルノデアリマシテ、又

六ハ百分ノ七十二トナルノデアリマス、又

ニ二十割増徵ヲ行フトシマスト、前者ハ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對

シテ戴キタイ

ス、今度ノ稅ノ增徵ハ大體下層ヲ狙ツテ居

ルト云フコトヲ御認ニナツテ下サレバソレ

ニ對スル稅率ハ百分ノ

〇太矢政府委員 ソレデハ簡略ニ致シマス、

サウ云フ風ニ致シマシテ、マダ所得稅ノ稅率

ガ比較的低イ中ハ高額所得者ニ對スル稅率

ヲグンノ引上ガ行ケタノデアリマスガ、

昭和十二年ノ臨時租稅增徵法ノ時ヲ限界ト

シテ、多額所得者ノ負擔ハ現行法ノ如キ機構ノ下ニ於テハモウ行付ク所ニ行キ盡シタ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對シマシテ、

後者ハ百分ノ百八トナルノデアリマシテ、又

六ハ百分ノ七十二トナルノデアリマス、又

ニ二十割増徵ヲ行フトシマスト、前者ハ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對

シテ戴キタイ

ス、今度ノ稅ノ增徵ハ大體下層ヲ狙ツテ居

ルト云フコトヲ御認ニナツテ下サレバソレ

ニ對スル稅率ハ百分ノ

〇太矢政府委員 ソレデハ簡略ニ致シマス、

サウ云フ風ニ致シマシテ、マダ所得稅ノ稅率

ガ比較的低イ中ハ高額所得者ニ對スル稅率

ヲグンノ引上ガ行ケタノデアリマスガ、

昭和十二年ノ臨時租稅增徵法ノ時ヲ限界ト

シテ、多額所得者ノ負擔ハ現行法ノ如キ機構ノ下ニ於テハモウ行付ク所ニ行キ盡シタ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對シマシテ、

後者ハ百分ノ百八トナルノデアリマシテ、又

六ハ百分ノ七十二トナルノデアリマス、又

ニ二十割増徵ヲ行フトシマスト、前者ハ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對

シテ戴キタイ

ス、今度ノ稅ノ增徵ハ大體下層ヲ狙ツテ居

ルト云フコトヲ御認ニナツテ下サレバソレ

ニ對スル稅率ハ百分ノ

〇太矢政府委員 ソレデハ簡略ニ致シマス、

サウ云フ風ニ致シマシテ、マダ所得稅ノ稅率

ガ比較的低イ中ハ高額所得者ニ對スル稅率

ヲグンノ引上ガ行ケタノデアリマスガ、

昭和十二年ノ臨時租稅增徵法ノ時ヲ限界ト

シテ、多額所得者ノ負擔ハ現行法ノ如キ機構ノ下ニ於テハモウ行付ク所ニ行キ盡シタ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對シマシテ、

後者ハ百分ノ百八トナルノデアリマシテ、又

六ハ百分ノ七十二トナルノデアリマス、又

ニ二十割増徵ヲ行フトシマスト、前者ハ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對

シテ戴キタイ

ス、今度ノ稅ノ增徵ハ大體下層ヲ狙ツテ居

ルト云フコトヲ御認ニナツテ下サレバソレ

ニ對スル稅率ハ百分ノ

〇太矢政府委員 ソレデハ簡略ニ致シマス、

サウ云フ風ニ致シマシテ、マダ所得稅ノ稅率

ガ比較的低イ中ハ高額所得者ニ對スル稅率

ヲグンノ引上ガ行ケタノデアリマスガ、

昭和十二年ノ臨時租稅增徵法ノ時ヲ限界ト

シテ、多額所得者ノ負擔ハ現行法ノ如キ機構ノ下ニ於テハモウ行付ク所ニ行キ盡シタ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對シマシテ、

後者ハ百分ノ百八トナルノデアリマシテ、又

六ハ百分ノ七十二トナルノデアリマス、又

ニ二十割増徵ヲ行フトシマスト、前者ハ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對

シテ戴キタイ

ス、今度ノ稅ノ增徵ハ大體下層ヲ狙ツテ居

ルト云フコトヲ御認ニナツテ下サレバソレ

ニ對スル稅率ハ百分ノ

〇太矢政府委員 ソレデハ簡略ニ致シマス、

サウ云フ風ニ致シマシテ、マダ所得稅ノ稅率

ガ比較的低イ中ハ高額所得者ニ對スル稅率

ヲグンノ引上ガ行ケタノデアリマスガ、

昭和十二年ノ臨時租稅增徵法ノ時ヲ限界ト

シテ、多額所得者ノ負擔ハ現行法ノ如キ機構ノ下ニ於テハモウ行付ク所ニ行キ盡シタ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對シマシテ、

後者ハ百分ノ百八トナルノデアリマシテ、又

六ハ百分ノ七十二トナルノデアリマス、又

ニ二十割増徵ヲ行フトシマスト、前者ハ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對

シテ戴キタイ

ス、今度ノ稅ノ增徵ハ大體下層ヲ狙ツテ居

ルト云フコトヲ御認ニナツテ下サレバソレ

ニ對スル稅率ハ百分ノ

〇太矢政府委員 ソレデハ簡略ニ致シマス、

サウ云フ風ニ致シマシテ、マダ所得稅ノ稅率

ガ比較的低イ中ハ高額所得者ニ對スル稅率

ヲグンノ引上ガ行ケタノデアリマスガ、

昭和十二年ノ臨時租稅增徵法ノ時ヲ限界ト

シテ、多額所得者ノ負擔ハ現行法ノ如キ機構ノ下ニ於テハモウ行付ク所ニ行キ盡シタ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對シマシテ、

後者ハ百分ノ百八トナルノデアリマシテ、又

六ハ百分ノ七十二トナルノデアリマス、又

ニ二十割増徵ヲ行フトシマスト、前者ハ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對

シテ戴キタイ

ス、今度ノ稅ノ增徵ハ大體下層ヲ狙ツテ居

ルト云フコトヲ御認ニナツテ下サレバソレ

ニ對スル稅率ハ百分ノ

〇太矢政府委員 ソレデハ簡略ニ致シマス、

サウ云フ風ニ致シマシテ、マダ所得稅ノ稅率

ガ比較的低イ中ハ高額所得者ニ對スル稅率

ヲグンノ引上ガ行ケタノデアリマスガ、

昭和十二年ノ臨時租稅增徵法ノ時ヲ限界ト

シテ、多額所得者ノ負擔ハ現行法ノ如キ機構ノ下ニ於テハモウ行付ク所ニ行キ盡シタ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對シマシテ、

後者ハ百分ノ百八トナルノデアリマシテ、又

六ハ百分ノ七十二トナルノデアリマス、又

ニ二十割増徵ヲ行フトシマスト、前者ハ

百分ノ二・四トナルニ止マルニ對

シテ戴キタイ

ス、今度ノ稅ノ增徵ハ大體下層ヲ狙ツテ居

ルト云フコトヲ御認ニナツテ下サレバソレ

ニ對スル稅率ハ百分ノ

〇太矢政府委員 ソレデハ簡略ニ致シマス、

サウ云フ風ニ致シマシテ、マダ所得稅ノ稅率

ガ比較的低イ中ハ高額所得者ニ對スル稅率

ヲグンノ引上ガ行ケタノデアリマスガ、

昭和十二年ノ臨時租稅增徵法ノ

階級ニ或ル程度マデハ割合ニ於テ重イ率ノ

負擔ヲ願ハナケレバナラス情勢ニナツテ來

テ居ルノデアリマス

○堀切委員長 河野サン後三十分位ヲ石坂

君ノ方ニオ廻シヲ願ヒタイト思ヒマス

○河野委員 私ノ質問ハ實ニ簡單デスガ、

答辯ノ方ガ長イノジヤナイカト思ヒマス、

御説明ハ能ク分ツテ居ルノデスガ、私ノ確

認シタインハ下ノ方ガ急激ニ増加スルノジ

ヤナイカト云フコトヲ御認ニナツテ一言下

サレバソレデ結構ナンデス、ソレカラ中央

地方ヲ通ズル均衡ノ問題デ私ノ要求シタ資

料ニ基イテ見マシテモ、貸地所得、貸家所

得、配當利子所得、營業所得、勤勞所得、

之ヲズット中央地方ヲ通ジテ見マスト、一

見シテ稅額が非常ニ違ツテ居ル譯デアリマ

スガ、是モ私ハ理窟ハ能ク存ジテ居リマス

ガ、斯ウ金額デ竝ベテ見ルト、何カソコニ

考ヘテ見ナケレバナラスヤウナ氣持ガスル

部分ハ所得稅ノ方面ニ於テ下級ノ階級デア

クル者ハ金利生活者デアル、斯ウ云フヤウニ考ヘラレル、斯ウ云フノガ今度ノ稅制改

革ノ點ニ於テ最モ顯著ナモノデアル、更ニ

法人稅ハ、從來中央地方ヲ通ジテ二三・四五

ノ率ガ課カツテ居リマシタガ、今度ハ二四、

臨時利得稅ヲ通算シテモ一割五分程度ノ増

徵ニナツテ居ルノデアリマスガ、是モ今度

ノ増徵ヲ考ヘル場合ニ、果シテ適當ナル增

徵デアラウカ、斯ウ考ヘザルヲ得ナイノデ

ヲ伺ヒタインデアリマス

○櫻内國務大臣 配當所得ガ今回非常ニ輕

クチツタヤウナ御話デアリマスガ、此ノ所

得ニ付テ、ドレデモ宜イ譯デアリマスガ、

一例ヲ取ツテ申シマスト、所得三千圓ノ場

合ニ付テ申上ガマスト、配當所得ニ對スル

モノハ今マデ九十四圓九十錢ノモノガ今回

三百三十三圓ガ三百三十六圓ニナツテ居リ

マス、自由職業所得ガ百四十五圓ガ百九十

五圓、勤勞所得ノ方ガ九十四圓ガ百四十四

圓、斯ウ云フ風ニハ、私認メナインデアリマス

特ニ配當所得ノ方が非常ニ利益ヲ得テ居ル

ト云フ風ニハ、私認メナインデアリマス

申シマスガ、私ノ言ハントスル所ハ、今度

ノ稅制改革ニ依ツテ負擔ノ急激ニ增大スル

部分ハ所得稅ノ方面ニ於テ下級ノ階級デア

クル者ハ金利生活者デアル、斯ウ云フヤウニ考ヘラレル、斯ウ云フノガ今度ノ稅制改

革ノ點ニ於テ最モ顯著ナモノデアル、更ニ

法人稅ハ、從來中央地方ヲ通ジテ二三・四五

ノ率ガ課カツテ居リマシタガ、今度ハ二四、

臨時利得稅ヲ通算シテモ一割五分程度ノ増

○櫻内國務大臣 今千圓ノ場合ノ例ヲ御話ニナリマシタガ、現在八千一圓ニナリマス

ト今言フ通り百分ノ十課カルノデアリマス、

圓マデハ課ツテ居ナイノデアリマス、今回

ハソレガ百圓課カル譯デアリマスカラ割合

カラ言ツタラ非常ナ大增稅ト言ハナケレバ

チラズノデアリマス、横ニ見マシタ所デ大

體ニ於テ私ハサウ不都合ナ所ヲ見出サナイ

ノデアリマス、唯サウ云フ貸地所得ニ對ス

ル割合ガ高イト申シマスケレドモ、是ハ要

スルニ資產ヲ持ツテ居ル地主ニ對スル課稅

デアリマシテ、ドウモ一寸私ハ受取り兼ネ

ルノデアリマス

○河野委員 モウ少シ議論ヲスレバ宜イカ

ト存ジマスケレドモ、モウ時間ガアリマセ

スカラ止メマス、是ハ大藏大臣少シ御研究

ニナツテ戴キタイト思ヒマス、法人稅ノ點

ハ如何デスカ、法人稅ハ二三・四五ヲ中央地

方ヲ通ジテ營業稅ヲ入レテ二四ニナリ、臨

時利得稅ヲ加ヘテ一割五分程度ノ增徵デア

ル、之ニ對シテハドウ御考ニナリマスカ

○櫻内國務大臣 法人稅ガ今ノ二三・四五ノ

ノ實質ニ於テ一割五分程度ノ增徵デアル、

他ノモノニ於テハ三割程度ノ增徵ヲシテ居

ルノニ拘ラズ、今日ノ場合ニ於テ法人稅ニ

對スル課稅額ハ、必ズシモ妥當ナリトハ言

ヒ得ナイト思フ、尙ほ是ハ臨時利得稅ヲ入

レテデス

○大矢政府委員 是ハ個人全體ヲ通ジマシ

テ、中央地方ヲ通ジテ約三割増トナツテ居

ト思ゼマズ、ウレカラ法人ノ方ハ一割五分

増ニチツテ、法人ハ五割方増ニナツテ居リ

マズ

○河野委員 政府ハ今度ハ臨時軍事費ニ六

億圓入レルト云フコトデ、先般來カラ色々

議論ヲシテ居リマス、其ノ六億圓ガドウ云

フ基礎カラ出タガド云フコトヲ論議シテ居

リマスガ、私ハ此ノ六億圓ド云フモノハ臨

時利得稅ノ稅收入ダト仰シヤレバ、極メテ

簡單ダト思フノデスガ、ソレナキガ故ニ臨

時利得稅ニ付テ議論ガアル、臨時利得稅ハ

ハ此ノ間カラ頻リト問題トナツテ居リマス

ガ、稅込ト稅引ノ關係ニ依リマシテ非常ナ

關係カラ增稅額ガ決マルノデアリマス

ラスカ、私ニハ理窟ガ分ラヌノデスガ、是

ハ臨時利得稅ハ五億五千万圓程度ダト思ヒ

マス、之ニ事賣局ノ益金增徵分ヲ入レテ、

ナツテ居ルノデアリマス

○河野委員 下ウシテサウ言ハナケレバ

ラスカ、私ニハ理窟ガ分ラヌノデスガ、是

ハ臨時利得稅ハ五億五千万圓程度ダト思ヒ

マス、之ニ事賣局ノ益金增徵分ヲ入レテ、

ラスカ、私ニハ理窟ガ分ラヌノデスガ、是

ハ臨時利得稅ハ五億五千万圓程度ダト思ヒ

カラウト思フ

最後ニ御尋致シマスガ、是ハ私ハ本會議ヲ通ジ、豫算總會ニ出席致シマセヌガ、大藏大臣ノ答辯ノ速記ヲ隈ナク拜見致シマシテ、又本委員會ニ於ケル大藏大臣ノ答辯ヲ拜聽致シマシテ、私ノ極メテ不満足ナ點ガアルノデアリマス、ソレハ何カト申シマスルト、大藏大臣ハ大體稅制改革ト、ソレカラ財政ノ見透シト云フモノニ付テ、極メテ當ラズ觸ラズノコトヲ仰シヤツテ居ル、ドチラカラデモ見得ルケレドモ、其ノ代リニドチラニモ的ニ當ツテ居ラヌト云フコトヲ始終言ツテ居ラレル、私ハ極メテ是ハ不満足ニ考ヘルノデアリマス、大藏大臣ガ一種ノ豫算緊縮ヲシテ行カレヨウト云フノナラバ、是モ私ハ一つノ御意見トシテ承ハルコトガ出來ル、豫算緊縮、公債縮減、而シテ増稅、斯ウ云フ方針ヲオカリニナルト云フノナラバ、私ハ是モ一つノ財政ノ方針トシテ體系ヲ成シテ居ルト思フ、然ルニ其ノ豫算ハ其ノ儘ニシテ、大體百億圓程度ノモノガ數箇年續イテ行クト云フコトヲ考ヘテ、現在ノ増稅ハ是以上ハヤラヌト斯ウ仰シヤル、ガ一體是デ日本ノ財政經濟ガヤツテ行ケルノカト云フコトハ、是ハ私ハ今日當識ノアル者ノ何人モモウ論ヲ俟タズシテ明カナ點グラウト思フノデアリマス、戰時經濟大體ノ建前ハ一種ノ政治的ナ力ニ依ツテヤツテ行クト云フ以外ニハナノデアリマシテ、生産機構モ既ニ今日ハ「フル」ニ働イテ居ル、「フル」ニ働イテ居ルモノカラ生産力ヲ擴充スルト云フノハ一體ドウシテヤルカ、ソコニ協力ナシニヤツテ行ケル譯ハナイ、一方ニハ財政ノ支出ガアル、財政ノ支出ガ殖エテ行クガ、一方ニハ物資ハ缺乏シ

テ行ク、其ノ時ニ唯漫然タル對策ヲ以テシテハ私ハ之ヲ切抜ケラレヤウトハ思ハレナ、國民ノ生活ヲ或點マデ切詰メルト云フコト、國民ノ犠牲ト云フモノヲ強ヒナケレバ、是ハ當然惡性「インフレーション」ニナル、國民ノ生活程度ヲ切詰メルト云フコトヲ強要スルニアラズンバ、惡性「インフレーション」ニナルコトハ、是ハ極メテ明白ダト私ハ思フノデアリマス、ソレニモ拘ラズ、大藏大臣ノ言ハレテ居ル所ハ極メテ當ラズ觸ラズデアツテ、私ハ若シソレガ大藏大臣ノ本旨デアルトスルナラバ、非常ニ殘念ニ考ヘザルヲ得ナイ、斯ウ私ハ思フノデアリマス、現ニ此ノ稅制改革ニ致シマシテモ、私達モ稅制調査會ノ一委員トシテ此ノ案ノ立案ニハ多少少參畫ハシテ居リマスルケレドモ、其ノ間ニ僅カ半年ノ間デアリマシテモ、私達モト云フモノハ非常ニ違ツテ居ル、私ニ今日結論ハ見出セマセヌガ、統制經濟ノ下ニ於ケル稅制ト云フモノハ、自由主義經濟ノ下ニ於ケル稅制トハ違ツタ觀點カラ立ツベキモノデハナカラウカ、公債政策ニ於テモ公債ノ強制保有ト云フモノヲヤルトスルナラバ、此ノ稅制對策ノ中ニ澤山出テ居ル所ノ國債或ハ社債、サウ云フモノニ對スル緩和規定ハモウ已ムヲ得ナイト思ヒマス、私ノ考ヘテ居リマスコトヲ時間ガアリマセヌカラ、所ノ答辯ニ付テ御不満足デアラセラレルト云フコトハ、私甚ダ遺憾デアリマスガ、是ハモウ已ムヲ得ナイト思ヒマス、私ノ考ヘソレカラ先刻來御述ニナツテ居リマス所ノ所謂小額所得者ニ對シテハ、急激ナ課稅ヲシテ、上ノ方ノ所得者ニ對シテ增稅ガ薄クト云フコトニ付キマシテハ、是ハ十分ニ努力致サナケレバナラヌト云フコトダケハハク私モ御同感デアリマス、而シテ財政經濟ノ上カラ見テ消費ノ節約ト云フコトニ付ト云フコトニ付キマシテハ、是ハ十分ニ努力致サナケレバナラヌト云フコトダケハハク私モ御同感デアリマス、而シテ財政經濟ノ上カラ見テ消費ノ節約ト云フコトニ付

テ、此ノ原案ガ私共ハ先ツ至當デアルト斯問題モ所謂戰時統制經濟ノ進ムニ從ツテ、此ノ稅革ノ中ニ盛込マレダモノヲ大イニ見直シテ行ク必要ガアルノデハナカラウカ、斯ウ云フヤウニ考ヘテ居リマス、此ノ點ニ付テノ大藏大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイノガ一ツ、モウ一ツハ今度ノ稅制改革ノ中ニ、サル、國民ノ生活程度ヲ切詰メルト云フコトヲ強要スルニアラズンバ、惡性「インフレーション」ニナルコトハ、是ハ極メテ明白ダト私ハ思フノデアリマス、ソレニモ拘ラズ、大藏大臣ノ言ハレテ居ル所ハ極メテ當ラズ觸ラズデアツテ、私ハ若シソレガ大藏大臣ノ本旨デアルトスルナラバ、非常ニ殘念ニ考ヘザルヲ得ナイ、斯ウ私ハ思フノデアリマス、現ニ此ノ稅制改革ニ致シマシテモ、私達モト云フモノハ非常ニ違ツテ居ル、私ニ今日結論ハ見出セマセヌガ、統制經濟ノ下ニ於ケル稅制ト云フモノハ、自由主義經濟ノ下ニ於ケル稅制トハ違ツタ觀點カラ立ツベキモノデハナカラウカ、公債政策ニ於テモ公債ノ強制保有ト云フモノヲヤルトスルナラバ、此ノ稅制對策ノ中ニ澤山出テ居ル所ノ國債或ハ社債、サウ云フモノニ對スル緩和規定ハモウ已ムヲ得ナイト思ヒマス、私ノ考ヘテ居リマスコトヲ時間ガアリマセヌカラ、所ノ答辯ニ付テ御不満足デアラセラレルト云フコトハ、私甚ダ遺憾デアリマスガ、是ハモウ已ムヲ得ナイト思ヒマス、私ノ考ヘソレカラ先刻來御述ニナツテ居リマス所ノ所謂小額所得者ニ對シテハ、急激ナ課稅ヲシテ、上ノ方ノ所得者ニ對シテ增稅ガ薄クト云フコトニ付キマシテハ、此ノ點ニ付キマシテハ先刻主稅局長ガ申シタ通りデアリマシテ、今日ノ稅制改革ニ於テハ、私ハ是ハ適當ダト思ツテ居リマス、控除率イ、斯ウ云フ御話デアリマシタガ、是ニ付キマシテハ先刻主稅局長ガ申シタ通りデアリマシテ、今日ノ稅制改革ニ於テハ、私ハ是ハ適當ダト思ツテ居リマス、控除率イ、斯ウ云フ御話デアリマシタガ、是ニ付キマシテハ、是ハ國ノ經濟ノ上カラ申シマシテモ出来ルダケ物資ノ節約ヲシテ行クト

云フコトニ付キマシテハ、最大ノ努力ヲ拂ハナケレバナラヌト固ク考ヘテ居リマス、唯今日ノ國際情勢ニ鑑ミテ將來ノコトヲ考ヘマシタ時ニ、將來ニ對スル所ノ日本ノ國ノ發展竝ニ國防ノ充實、有エル角度カラ見テ、此ノ原案ガ私共ハ先ツ至當デアルト斯問題ニ對シテ御意見デアリマシタガ、是ハ見様ニ依リマシテハ河野君ノ御考ノ通りニ見エマス、見エマスケレドモ、從來ノ狀態等ヲ考慮致シマシテ、斯様ニ原案ヲ作ツテ、此ノ原案ガ私共ハ先ツ至當デアルト斯



斯ウ云フ時代ニ於キマシテハ、出來得ル限  
リ犠牲ノ公平ヲ圖ラナケレバナラヌ、即チ  
一部ノ人ガ非常ナ犠牲ヲ拂ツテ、一部ノ人  
ガ犠牲ヲ拂ハスト云フガ如キ事柄ハ、是ハ  
避ケナケレバナラヌコトデアリマスノデ、  
此ノ點ニ付キマシテ意ヲ用ヒルコトハ勿論  
デアリマスガ、今御指摘ノ如ク、一面ニ於  
テハ殷賑産業ニ依ツテ非常ナ金ヲ得ル者ガ  
アリ、一面ニ於テハ統制其ノ他ノ爲ニ非常  
ニ損ヲ被ツテ居ル者ガアル、是ハ私ハ或ル  
程度認メルノデアリマス、隨ヒマシテ是等  
ニ對スル所ノ對策ト致シマシテハ、何等力  
適當ノ方策ヲ講ズルコトハ、固ヨリ必要デ  
アルノデアリマス、稅制改革ニ當リマシテ  
モ、此ノ點ニ付キマシテハ多少意ヲ用ヒテ  
居ル積リデアリマス、更ニ今後ニ於キマシ  
テモ、此ノ犠牲ノ公平ド云フコトニ付キマ  
シテハ、是ハ十分ニ考ヘナケレバナラヌ所  
デアリマシテ、全ク此ノ點ニ付テハ石坂君  
ト意見ヲ同ジクスル者デアリマス、ソレカ  
ラ日支兩國ノ負擔ノ均衡ト云フ御話デアリ  
マスガ、是モ元來ガテ申セバ、負擔ノ均  
衡——ト申シマスルト、寧ロ日本ト致シマシ  
テハ、向フニ多クノ負擔ヲシテ貴ヒタイト云  
フヤウナ考ヲ起スベキ筋合デアリマスガ、  
東亞ノ新秩序ト云フ大事業ヲ爲スニ當リマ  
シテハ、日本ガ先進國デアツテ、又申サバ兄  
分デアリマス關係カラ、ドウシテモ此ノ點  
ニ付キマシテハ、最初ハ多少ノ犠牲ヲ拂フ  
ト云フコトハ已ムヲ得ナイコトデアリマシ  
テ、ドウシテモ當初ニ於テハ、相當ノ投資ヲ  
日本ガシテ行カナケレバナラヌ、投資ヲ致  
スノニハ、向フニ於テ仕事ヲスル人ニ對シテ、  
多少ノ利便ヲ與ヘテ行クト云フ事柄ハ、ド

ウシテモ支那ノ開發ノ上ニ於テ已ムヲ得ナ  
イ事柄デアルノアリマス、即チ此ノ負擔  
ノ均衡ト云フ事柄ハ、支那ガ開發サレタ曉  
ニ於キマシテハ當然ノコトデアリマスガ、  
ココ數年ノ間ハ日本ガ或ル程度負擔ヲ多ク  
シテ行ツテ、サウシテ支那ヲ開發シテ、支  
那ノ開發ノ結果ト致シマシテ、其ノ實ガ穩  
ルヤウニ致サナケレバナラスト私ハ思ツテ  
居ルノデアリマス、私ノ前ニ述ベタコトヲ  
例ニ御採リニナツテ居リマスガ、私ハ支那  
ノ開發方適當ニ出來マスルナラバ、必ズヤ  
兩國間ノ利益ヲ増進シテ、兩國共ニ其ノ恩  
典ニ浴スルコトガ出來ルグラウト思ツテ居  
リマス、即チ申スマデモナク、例ヘバ石炭  
ニシテモ、鐵ニシテモ、棉ニシテモ、鹽ニ  
シテモ、斯ウ云モノヲドンノ向フカラ  
持ツテ來ルコトガ出來ルヤウニナリ、又向  
ニ於テ工場ヲ拵ヘテ、是等ノモノガドン  
ドン其ノ工場ニ依ツテ處理サレテ、サウシ  
テ單ニ東洋ノ市場バカリデハナク、世界ノ  
市場ニ向ツテ供給ノ出來ルヤウニナリマス  
レバ、ソレハ少カラザル利潤ヲ生ンデ來ル  
カト、斯様ニ思ヒマスノデ、其ノ當初ニ於  
テ負擔ノ上ニ於テ、日本ガ多ク負擔ヲ致シ  
マシテモ、是ハ辛抱スベキモノニアル、斯  
様ニ私ハ考ヘテ居ルノデアリマス

ス、所得税ニ付テ私ノ御尋シタ一黠ハ、百六條ノ綜合課稅ト源泉課稅ノ自由選擇ヲ認メシマシタ、ソレガ法文ニ依リマスト「當分ノ内」ト云フコトニナツテ居ル、此ノ點ニ付タト云フコトハ、即チ綜合課稅ヲ不徹底ニシタト云フコトハ、本稅制改革案ノ目標トル所ノ負擔均衡ノ趣旨ニ副ハナイ、此ノ點ニ付テ大藏當局ハ金融資本家ニ屈伏シタノダト云フ非難ガアル位デアリマス、其ノ黠ニ付テ指摘致シタノデアリマスガ、太藏大臣ノ御答辯ヲ伺ヒマスト、是ハ可ナリ急激ナ改革デアルガ故ミ「當分ノ内」ト云フコトニシタ譯デアリマス、當分ノ内トハ讀ンデ字ノ如クデアリマスガ、「當分ノ内」ト云フノハ、此ノ劃期的ナ稅制改革案實施ニ際シテノ政府ノ心構ヘト致シマシテハ、ドウ云フ時期マデヲ言ハレルモノデアルカ、ドウ云云フ狀態ニナツタナラバ、此ノ選擇課稅ヲ止メルカト云フコトヲ、今少シク明確ニシテ戴ク必要ガアルデアラウト思ヒマス、是ガ第一點デアリマス、第二點ハ營業ノ元本ヲ得ルニ必要トスル負債ノ利子ハ塗除シテ居リマスガ、營業ニアラザル借用金ノ利子モ全部之ヲ塗除シタ方ガ宜イノデハナイカト云フ點デアリマス、斯様ニ申シマスト、サウスレバ假想ノ債務ト云フモノガ段々出テ來テ始末ガ惡イ、斯ウ云フ風ニ言ハレルカモ知レマセヌケレドモ、若シサウ云フコトニルナラバソレコソ罰則ノ適用ト云フテノ借金ノ利子ヲ控除スルコトガ適當デハヤウナ方法モアルデアラウト思ヒマスルガ、此ノ點ハ單ニ三十條ノ點ダケデナクシテ、總ノイカト云フ私見ヲ述ベマシテ、此ノ點ニ付スル御見解ヲ伺ヒタイノデアリマス、是

○櫻内國務大臣 従來ノ第二種ノ所得ニ付キマシテ、選擇主義ヲ擇ツタト云フコトニ付キマシテノ御議論ガアリマシタガ、之ニ付テハ最早度々申シマシタカラ、私ハ之ヲスノデ、當分ノ間回ノヤウナ處置ヲ執ツタ譯デアリマス、而シテ「當分」ノ意義ニ付テノ御話デアリマスガ、是ハ今御話通り「當分」ト云フノハ讀ンデ字ノ如ク、當分ダト云フ御話デアリマスケレドモ、サウ云フ意味デハナインデアリマス、若シ經濟界ニ及ボス影響ガ重大デナイ、斯ウ云フ場合ニハ、直チニ是ハ改正スペキモノト存ジテ居リマス、即チ現在吾々ノ考ヘテ居リマス所ノ、或ハ公債消化ノ點デアルトカ或ハ貯蓄力ノ涵養ノ點デアルトカ、サウ云フヤウナ事柄モ見合ヒマシテ、全部綜合的ニ持ツテ行ツテモ、何等ノ影響ガナイト云フ見透シガ付キマシタ時ニハ、直チニ之ヲ實行政シタイト考ヘマスガ、他ニ適當ナル字句ガアリマセヌノデ「當分」ト云フ字句ヲ用ヒタノデアリマス、ソレカラ次ニ負債利子全部ヲ控除シト云フ御議論デアリマスガ、是ハ或ル程度私ハ御尤モダト云フ風ナ感じガ致シマス、併シナガラ若シ負債ノ利子ヲ全部控除スル其ノ家ヲ買フ爲ニ使ツタノカ、或ハ贅澤品ノ爲ニ使ツタノカ分ラナイノデアマリシテ、此ノ負債ガ何處ニ使ハシタカト云フコトニ

依ツテ、判定ヲスベキモノニアリマス、現在ハ所得ヲ得ルニ必要ナル所ノ借金ノ利子ハ、之ヲ認メテ居ルノデアリマスガ、左様ナル贅澤ヲシタリ、堂々タル邸宅ニ住ンダリスル、サウ云フ方面ニ向ツテノ借金ニ對スル利子ノ控除ハ認メテ居ラヌノデアリマス、若シ御説ノ通りニ之ヲ認メルト云フコトニ致シマスナラバ、大キナ家ニ住ンデ居ル人ハ、其ノ家賃ニ相當スルダケノ金額ハ所得ト見做シテ行ク、サウシテ贅澤ナ品物ヲ持ツテ居レバ、其ノ品物ニ對シテ課稅ヲシテ行ク、此ノ途ガ全部立ツテ參リマスレバ、總テノ利子ニ對シテ控除シテ行クコトガ適當ニナツテ來ルデアラウト恩ヒマス、併シ只今左様ナコトヲ實行致スコトニ付テハ、稅務當局ガサウ云フコトニ付テ馴レナイト同時ニ、可ナリ煩雜デアリマスノデ、此ノ際ニ於キマシテハ、サウ云フ利子全部ノ控除ト云フコトヲ止メテ、所得ヲ得ルニ必要ナル經費ト見做スベキ利子ハ、之ヲ控除スルト云フコトニ限定致シタ譯デアリマス

云フモノガ、從來稅務監督局ダケノ獨斷的ニ決定サレルコトニナルト、非常ニ不都合ヲ生ズルノデアリマス、其ノ點ニ於テ當業者ノ意見ヲ聽キ、公正ナル決定ヲスル必要ガアルト思ヒマス、舊來ノ陋習トモ見ラルベキ此ノ點ニ關シテ、今後其ノ處置ヲ改メラレル御意思ハナイカト云フ點、モウ一ツハ簡易稅務裁判所設置ニ關スル要望デアリマスガ、私共ノ案トシテハ、不當不法ノ課稅ニ對スル救濟ノ方法ト致シマシテハ、是非トモ簡易稅務裁判所ヲ設置スペキデアルト考ヘテ居ルノデアリマス、即チ區裁判所及ビ地方裁判所ニソレヲ設置シ、三審制度トシテ、稅務官廳カラト民間ノ所得調査委員中カラ選定シタ者ニ審判サセル、之ニ對シテ不服ノ者ハ行政裁判ヲスル、斯ウ云フ風ナ案ヲ持ツテ居ルノデアリマス、詳シイ組織制度ニ付テハ時間モアリマセヌカラ省キマスガ、此ノ劃期的稅制改革實施ニ際シマシテ、當局ハソレ等ノ點ニ付テ、單ニ稅務相談所ト云フヤウナコトナシニ、積極的ニ御考慮ヲ願ヒタイノデアリマスガ、其ノ點ニ關スル御意思ハ如何デゴザイマセウカ、是ダケ伺ヒマス

居リマス、ソレカラ灘酒ノ製造デアリマス  
ガ、是ハ從來ノ關係モアリマシテ、只今御  
意見ニ從ツテドウスルト云フ譯ニハ參ラナ  
イノデアリマス、ソレカラ無水「アルコ一  
ル」ガ必要デアルト云フ事柄ハ、モウ御說  
ノ通リデアリマス、隨ヒマシテ無水「アル  
コール」ヲ造リマス原料タル甘諸ノ問題デ  
致サナケレバナラヌノデアリマシテ、増産  
ヲ致スノニハ價格問題ガ伴ツテ參リマス、  
昨年モ此ノ甘諸ノ大増産計畫ヲ立テマシテ、  
御承知ノ通リニ七錢カ八錢デアツタノヲ十  
錢ニ上ゲタ譯デアリマスガ、本年ハ更ニ濶  
粉用ノ甘諸等ノ値ガ非常ニ上ツテ居リマシ  
テ、現在ノ狀況ト致シマシテハ、從來ノ價  
格ヲ以テシテハ、到底所期ノ數量ヲ確保ス  
ルコトガ困難ナ狀況デアリマスノデ、此ノ  
價格ノ點ニ付キマシテモ、只今考慮ヲ拂ツ  
テ居リマスガ、今ドウ云フ風ニ此ノ値ヲ上  
ゲルカ、或ハドウ取扱フカト云フコトニ付  
キマシテハ、明言ヲ致シ兼ネル次第デアリ  
マス、ソレカラ農業者、商業者ノ所得ノ標  
準率ヲ決定致シマスニ付キマシテノ御意見  
デアリマスガ、此ノ問題ニ付キマシテハ、  
今日モ實ハ當業者ノ意見ヲ聽イテ居ルノデ  
アリマス、併シ稅務署ソレトニ依ツテ、  
或ハ徹底致シテ居ナイ所ガアルカモ知レマ  
セスガ、此ノ點ニ付キマシテハ今回ノヤウ  
ナ稅制ヲ改革シテ增稅ヲ致スニ當リマシテ  
ハ、十分ニ注意シテ、其ノ點ニ付テ遺憾ナ  
キヲ期シタイト思ツテ居リマス、更ニ此ノ  
稅務官吏ノ訓練ヲ致ス爲ニ、適當ナル方策  
ヲ講ジタイト思ツテ居リマス  
更ニ簡易稅務裁判所ト云フモノヲドウ考  
ヘルカト云フ御話デアリマスガ、是ハ私ハ

御意見トシテハ深ク傾聽致シマスガ、今日  
直チニ簡易稅務裁判所ヲ置クト云フ考ハ持  
ツテ居リマセヌ、併シ此ノ前ニモ申上ゲマ  
シタ通り、重要ナル都市ニ御承知ノ稅務相  
談所ヲ設ケテ、一面ニ於テハ稅務官吏ノ訓  
練ヲ致シマシテ、適當ニ間違ヒノナイヤウ  
ナ措置ヲ講ジテ行キタイト思ヒマス、併シ  
ナガラ此ノ簡易稅務裁判所ト云フ問題ニ付  
キマシテハ更ニ十分調査研究ヲ致シタイト  
思ヒマス

○石坂委員 モウ是デ私ノ質問ハ終リマシ  
タ

○堀切委員長 ソレデハ今晚ハ是デ散會致  
シマス、明後日午前十時ヨリ又開會致シマ  
ス

午後七時二十分散會

昭和十五年三月十日印刷

昭和十五年三月十日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局